

第1章 地域課題に関する意識・行動調査の結果

1 県民対象調査

(1) 回答数および回答率と回答者の属性

ア 回答数および回答率

(ア) 調査対象者	2, 0 0 6名
(イ) 回答数	1, 6 7 0名
(ウ) 回答率	8 3. 3%

イ 回答者の属性

(ア) 地区別・年代別・性別回答数

【表1】

地 区 別		
河 内 地 区	n= 334	20.0%
上都賀地区	n= 177	10.6%
芳 賀 地 区	n= 246	14.7%
下都賀地区	n= 278	16.6%
塩谷南那須地区	n= 184	11.0%
那 須 地 区	n= 199	11.9%
安 足 地 区	n= 184	11.0%
県 外	n= 8	0.5%
無 回 答	n= 60	3.6%
合 計	n= 1,670	100.0%

【表2】

年 代 別		
20 歳代	n= 28	1.7%
30 歳代	n= 250	15.0%
40 歳代	n= 505	30.2%
50 歳代	n= 401	24.0%
60 歳代	n= 302	18.1%
70 歳以上	n= 143	8.6%
無回答	n= 41	2.5%
合 計	n= 1,670	100.0%

【表3】

性 別		
女 性	n= 1,064	63.7%
男 性	n= 521	31.2%
無 回 答	n= 85	5.1%
合 計	n= 1,670	100.0%

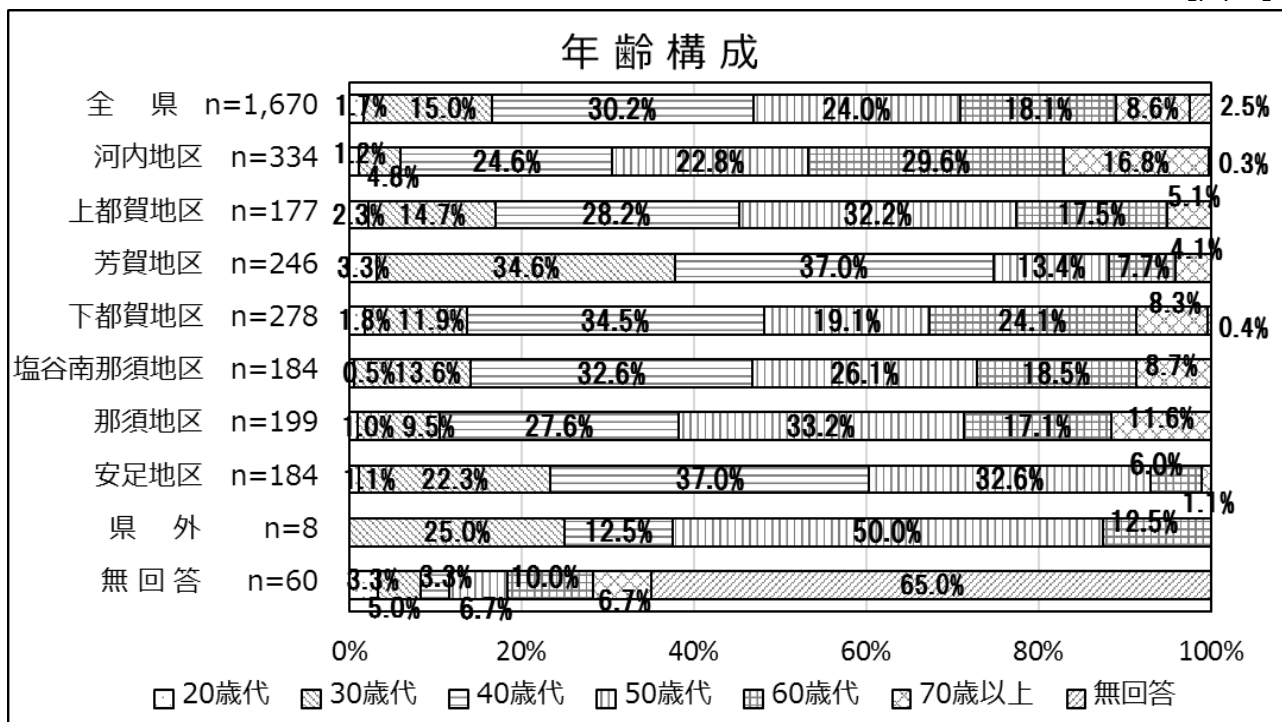
地区別では、各地区が10～20%の範囲に分布する。

年代別では、40歳代、50歳代が多く、合計すると全体の50%を超えている。

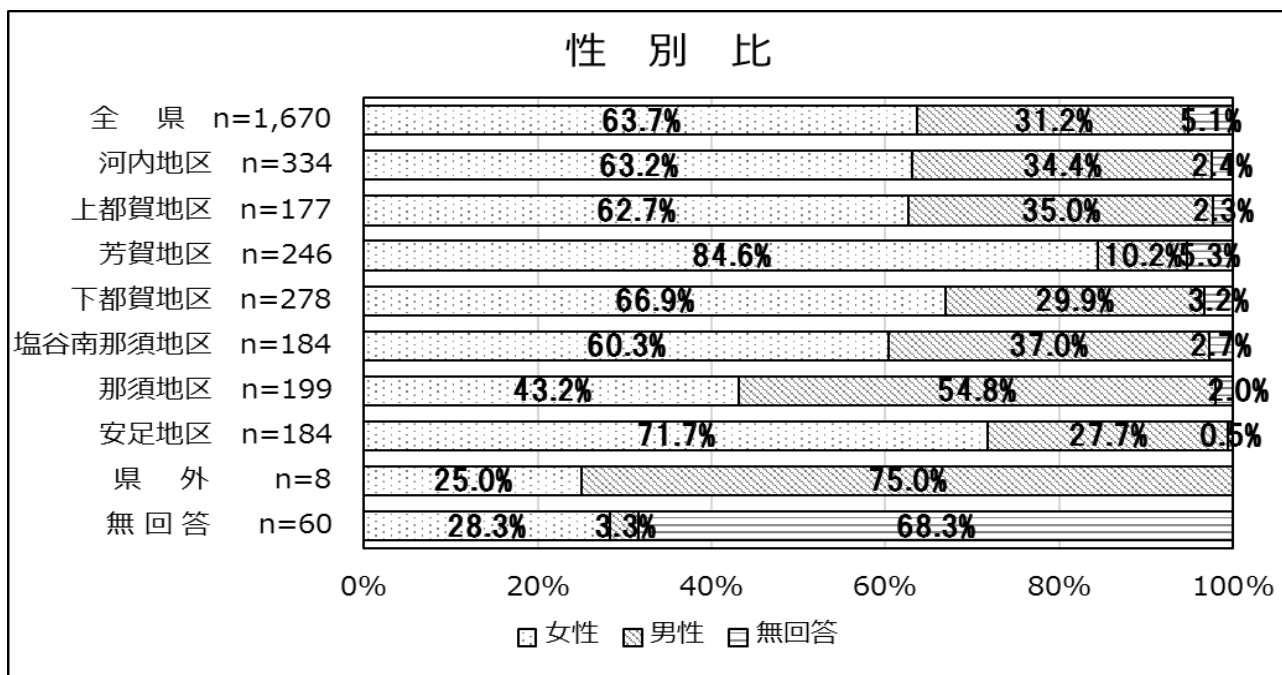
性別では、女性の数が全体で約64%を占めた。

(1) 回答者の属性

【図 1】



【図 2】



年齢構成を見ると、河内地区では 60 歳代、上都賀地区、那須地区では 50 歳代が最多となっているが、他の地区では 40 歳代が最多である。また、芳賀地区では 30 歳代、河内地区では 70 歳以上の占める割合が他地区より高い。

性別比を見ると、芳賀地区で女性の割合が約 85%と高い。また、那須地区では男性の割合が約 55%と男性の数が女性の数を上回っている。他の地区では、女性が 60～70%、男性が 30～40%の範囲に分布している。

(2) 地域課題の認識状況

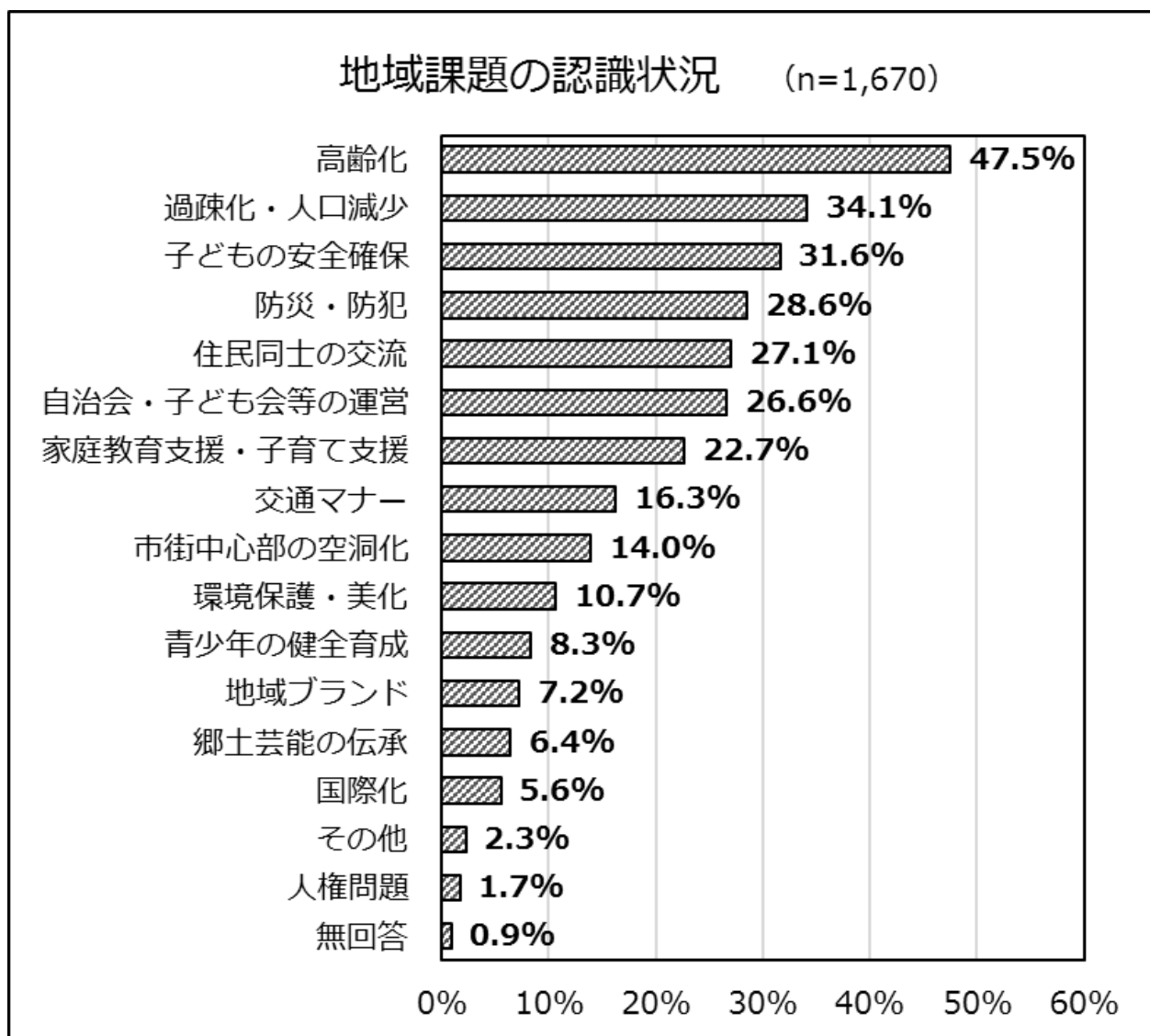
本調査における「地域」とは、概ね回答者の居住する小学校区とし、「地域課題」とは、当該地域において、相対的に（周囲と比べて）整備状況、達成度が不十分と考えられるものと定義した。

問1 あなたの住まいの地域の地域課題と考えられるものは何ですか。あてはまる番号3つに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた地域課題の認識状況

【図3】



全県で見ると「高齢化」の回答割合が最も高く、47.5%であった。次いで、「過疎化・人口減少」「子どもの安全確保」で、これら上位3項目が30%を超える回答割合となった。他にも、「防災・防犯」「住民同士の交流」などが上位に挙げられた。

【表 4】

地域課題の認識 (地区別)	全 県 n=1,670	河内地区 n=334	上都賀地区 n=177	芳賀地区 n=246	下都賀地区 n=278	塩谷南那須地区 n=184	那須地区 n=199	安足地区 n=184	県 外 n=8	無 回 答 n=60
防災・防犯	28.6%	33.5%	28.2%	32.1%	25.5%	17.9%	29.1%	28.3%	50.0%	30.0%
子どもの安全確保	31.6%	26.0%	34.5%	42.3%	33.1%	26.6%	30.2%	31.0%	12.5%	28.3%
家庭教育支援・子育て支援	22.7%	17.4%	16.4%	28.9%	23.4%	19.0%	19.1%	36.4%	37.5%	21.7%
青少年の健全育成	8.3%	9.3%	9.0%	6.1%	9.7%	3.3%	9.0%	10.3%	12.5%	10.0%
郷土芸能の伝承	6.4%	8.4%	5.6%	4.5%	7.2%	6.0%	8.0%	4.3%	0.0%	5.0%
自治会・子ども会等の運営	26.6%	29.9%	23.2%	21.5%	29.5%	24.5%	28.6%	28.8%	12.5%	21.7%
住民同士の交流	27.1%	39.8%	23.2%	19.9%	25.9%	21.7%	33.7%	18.5%	12.5%	25.0%
高齢化	47.5%	51.8%	50.8%	40.7%	47.1%	51.6%	49.2%	39.1%	25.0%	53.3%
地域ブランド	7.2%	5.7%	6.8%	9.3%	3.2%	12.5%	9.0%	7.1%	12.5%	5.0%
国際化	5.6%	6.3%	4.0%	6.1%	8.3%	3.8%	2.0%	7.6%	25.0%	0.0%
過疎化・人口減少	34.1%	16.5%	53.1%	33.3%	28.1%	52.7%	38.7%	33.7%	62.5%	33.3%
環境保護・美化	10.7%	17.4%	5.1%	8.1%	12.2%	8.7%	7.5%	9.8%	0.0%	13.3%
人権問題	1.7%	0.3%	0.6%	1.6%	1.4%	4.9%	2.0%	2.2%	0.0%	3.3%
市街中心部の空洞化	14.0%	10.2%	12.4%	16.3%	9.7%	24.5%	16.1%	12.0%	37.5%	13.3%
交通マナー	16.3%	21.6%	19.8%	14.6%	16.9%	12.5%	11.6%	14.7%	0.0%	15.0%
その他	2.3%	1.8%	0.0%	5.3%	2.5%	2.2%	1.0%	3.3%	0.0%	0.0%
無回答	0.9%	1.5%	0.6%	0.8%	1.4%	0.5%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%

地区別にみると、全県で最上位の「高齢化」は、河内、下都賀、那須、安足の各地区で最上位であった。「過疎化・人口減少」は、上都賀地区、塩谷南那須地区で最上位となり、芳賀、那須、安足の各地区でも上位に挙げられた。また、「子どもの安全確保」は、芳賀地区で最上位となり、上都賀、下都賀、塩谷南那須の各地区でも上位に挙げられた。

各地区での順位を整理したものを表 5、各課題別に順位を整理したものを表 6 に示した。

「過疎化・人口減少」では、上都賀地区、塩谷南那須地区と河内地区の間に、地区間の顕著な差異がみられた。他にも、20 ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、「家庭教育支援・子育て支援」で安足地区と上都賀地区、「住民同士の交流」で河内地区と安足地区との間に差異を見出すことができる。一方で、「自治会・子ども会の運営」等では、地区間に明確な差異はみられなかった。

【表5】

	全 県 n=1,670	河内地区 n=334	上都賀地区 n=177	芳賀地区 n=246	下都賀地区 n=278	塩谷南那須地区 n=184	那須地区 n=199	安足地区 n=184	県 外 n=8	無 回 答 n=60
1	高齢化 47.5%	高齢化 51.8%	過疎化・人口 減少 53.1%	子どもの安全 確保 42.3%	高齢化 47.1%	過疎化・人口 減少 52.7%	高齢化 49.2%	高齢化 39.1%	過疎化・人口 減少 62.5%	高齢化 53.3%
2	過疎化・人口 減少 34.1%	住民同士の交 流 39.8%	高齢化 50.8%	高齢化 40.7%	子どもの安全 確保 33.1%	高齢化 51.6%	過疎化・人口 減少 38.7%	家庭教育支援 子育て支援 36.4%	防災・防犯 50.0%	過疎化・人口 減少 33.3%
3	子どもの安全 確保 31.6%	防災・防犯 33.5%	子どもの安全 確保 34.5%	過疎化・人口 減少 33.3%	自治会・子ど も会等の運営 29.5%	子どもの安全 確保 26.6%	住民同士の交 流 33.7%	過疎化・人口 減少 33.7%	家庭教育支援 子育て支援 37.5%	防災・防犯 30.0%
4	防災・防犯 28.6%	自治会・子ど も会等の運営 29.9%	防災・防犯 28.2%	防災・防犯 32.1%	過疎化・人口 減少 28.1%	自治会・子ど も会等の運営 24.5%	子どもの安全 確保 30.2%	子どもの安全 確保 31.0%	市街中心部の 空洞化 37.5%	子どもの安全 確保 28.3%
5	住民同士の交 流 27.1%	子どもの安全 確保 26.0%	自治会・子ど も会等の運営 23.2%	家庭教育支援 子育て支援 28.9%	住民同士の交 流 25.9%	市街中心部の 空洞化 24.5%	防災・防犯 29.1%	自治会・子ど も会等の運営 28.8%	高齢化 25.0%	住民同士の交 流 25.0%
6	自治会・子ど も会等の運営 26.6%	交通マナー 21.6%	住民同士の交 流 23.2%	自治会・子ど も会等の運営 21.5%	防災・防犯 25.5%	住民同士の交 流 21.7%	自治会・子ど も会等の運営 28.6%	防災・防犯 28.3%	国際化 25.0%	家庭教育支援 子育て支援 21.7%
7	家庭教育支援 子育て支援 22.7%	家庭教育支援 子育て支援 17.4%	交通マナー 19.8%	住民同士の交 流 19.9%	家庭教育支援 子育て支援 23.4%	家庭教育支援 子育て支援 19.0%	家庭教育支援 子育て支援 19.1%	住民同士の交 流 18.5%	子どもの安全 確保 12.5%	自治会・子ど も会等の運営 21.7%
8	交通マナー 16.3%	環境保護・美 化 17.4%	家庭教育支援 子育て支援 16.4%	市街中心部の 空洞化 16.3%	交通マナー 16.9%	防災・防犯 17.9%	市街中心部の 空洞化 16.1%	交通マナー 14.7%	青少年の健全 育成 12.5%	交通マナー 15.0%
9	市街中心部の 空洞化 14.0%	過疎化・人口 減少 16.5%	市街中心部の 空洞化 12.4%	交通マナー 14.6%	環境保護・美 化 12.2%	地域ブランド 12.5%	交通マナー 11.6%	市街中心部の 空洞化 12.0%	自治会・子ど も会等の運営 12.5%	環境保護・美 化 13.3%
10	環境保護・美 化 10.7%	市街中心部の 空洞化 10.2%	青少年の健全 育成 9.0%	地域ブランド 9.3%	青少年の健全 育成 9.7%	交通マナー 12.5%	青少年の健全 育成 9.0%	青少年の健全 育成 10.3%	住民同士の交 流 12.5%	市街中心部の 空洞化 13.3%
11	青少年の健全 育成 8.3%	青少年の健全 育成 9.3%	地域ブランド 6.8%	環境保護・美 化 8.1%	市街中心部の 空洞化 9.7%	環境保護・美 化 8.7%	地域ブランド 9.0%	環境保護・美 化 9.8%	地域ブランド 12.5%	青少年の健全 育成 10.0%
12	地域ブランド 7.2%	郷土芸能の伝 承 8.4%	郷土芸能の伝 承 5.6%	青少年の健全 育成 6.1%	国際化 8.3%	郷土芸能の伝 承 6.0%	郷土芸能の伝 承 8.0%	国際化 7.6%	郷土芸能の伝 承 0.0%	郷土芸能の伝 承 5.0%
13	郷土芸能の伝 承 6.4%	国際化 6.3%	環境保護・美 化 5.1%	国際化 6.1%	郷土芸能の伝 承 7.2%	人権問題 4.9%	環境保護・美 化 7.5%	地域ブランド 7.1%	環境保護・美 化 0.0%	地域ブランド 5.0%
14	国際化 5.6%	地域ブランド 5.7%	国際化 4.0%	その他 5.3%	地域ブランド 3.2%	国際化 3.8%	国際化 2.0%	郷土芸能の伝 承 4.3%	人権問題 0.0%	人権問題 3.3%
15	その他 2.3%	その他 1.8%	人権問題 0.6%	郷土芸能の伝 承 4.5%	その他 2.5%	青少年の健全 育成 3.3%	人権問題 2.0%	その他 3.3%	交通マナー 0.0%	国際化 0.0%
16	人権問題 1.7%	無回答 1.5%	無回答 0.6%	人権問題 1.6%	人権問題 1.4%	その他 2.2%	その他 1.0%	人権問題 2.2%	その他 0.0%	その他 0.0%
17	無回答 0.9%	人権問題 0.3%	その他 0.0%	無回答 0.8%	無回答 1.4%	無回答 0.5%	無回答 0.0%	無回答 1.1%	無回答 0.0%	無回答 0.0%

【表6】

	防災・防犯		子どもの安全確保		家庭教育支援・子育て支援		青少年の健全育成		郷土芸能の伝承	
1	河内地区 n=334	33.5%	芳賀地区 n=246	42.3%	安足地区 n=184	36.4%	安足地区 n=184	10.3%	河内地区 n=334	8.4%
2	芳賀地区 n=246	32.1%	上都賀地区 n=177	34.5%	芳賀地区 n=246	28.9%	下都賀地区 n=278	9.7%	那須地区 n=199	8.0%
3	那須地区 n=199	29.1%	下都賀地区 n=278	33.1%	下都賀地区 n=278	23.4%	河内地区 n=334	9.3%	下都賀地区 n=278	7.2%
4	安足地区 n=184	28.3%	安足地区 n=184	31.0%	那須地区 n=199	19.1%	那須地区 n=199	9.0%	塩谷南那須地区 n=184	6.0%
5	上都賀地区 n=177	28.2%	那須地区 n=199	30.2%	塩谷南那須地区 n=184	19.0%	上都賀地区 n=177	9.0%	上都賀地区 n=177	5.6%
6	下都賀地区 n=278	25.5%	塩谷南那須地区 n=184	26.6%	河内地区 n=334	17.4%	芳賀地区 n=246	6.1%	芳賀地区 n=246	4.5%
7	塩谷南那須地区 n=184	17.9%	河内地区 n=334	26.0%	上都賀地区 n=177	16.4%	塩谷南那須地区 n=184	3.3%	安足地区 n=184	4.3%
	自治会・子ども会等の運営		住民同士の交流		高齢化		地域ブランド		国際化	
1	河内地区 n=334	29.9%	河内地区 n=334	39.8%	河内地区 n=334	51.8%	塩谷南那須地区 n=184	12.5%	下都賀地区 n=278	8.3%
2	下都賀地区 n=278	29.5%	那須地区 n=199	33.7%	塩谷南那須地区 n=184	51.6%	芳賀地区 n=246	9.3%	安足地区 n=184	7.6%
3	安足地区 n=184	28.8%	下都賀地区 n=278	25.9%	上都賀地区 n=177	50.8%	那須地区 n=199	9.0%	河内地区 n=334	6.3%
4	那須地区 n=199	28.6%	上都賀地区 n=177	23.2%	那須地区 n=199	49.2%	安足地区 n=184	7.1%	芳賀地区 n=246	6.1%
5	塩谷南那須地区 n=184	24.5%	塩谷南那須地区 n=184	21.7%	下都賀地区 n=278	47.1%	上都賀地区 n=177	6.8%	上都賀地区 n=177	4.0%
6	上都賀地区 n=177	23.2%	芳賀地区 n=246	19.9%	芳賀地区 n=246	40.7%	河内地区 n=334	5.7%	塩谷南那須地区 n=184	3.8%
7	芳賀地区 n=246	21.5%	安足地区 n=184	18.5%	安足地区 n=184	39.1%	下都賀地区 n=278	3.2%	那須地区 n=199	2.0%
	過疎化・人口減少		環境保護・美化		人権問題		市街中心部の空洞化		交通マナー	
1	上都賀地区 n=177	53.1%	河内地区 n=334	17.4%	塩谷南那須地区 n=184	4.9%	塩谷南那須地区 n=184	24.5%	河内地区 n=334	21.6%
2	塩谷南那須地区 n=184	52.7%	下都賀地区 n=278	12.2%	安足地区 n=184	2.2%	芳賀地区 n=246	16.3%	上都賀地区 n=177	19.8%
3	那須地区 n=199	38.7%	安足地区 n=184	9.8%	那須地区 n=199	2.0%	那須地区 n=199	16.1%	下都賀地区 n=278	16.9%
4	安足地区 n=184	33.7%	塩谷南那須地区 n=184	8.7%	芳賀地区 n=246	1.6%	上都賀地区 n=177	12.4%	安足地区 n=184	14.7%
5	芳賀地区 n=246	33.3%	芳賀地区 n=246	8.1%	下都賀地区 n=278	1.4%	安足地区 n=184	12.0%	芳賀地区 n=246	14.6%
6	下都賀地区 n=278	28.1%	那須地区 n=199	7.5%	上都賀地区 n=177	0.6%	河内地区 n=334	10.2%	塩谷南那須地区 n=184	12.5%
7	河内地区 n=334	16.5%	上都賀地区 n=177	5.1%	河内地区 n=334	0.3%	下都賀地区 n=278	9.7%	那須地区 n=199	11.6%

また、各課題の上位3地区をみていくと、最も課題が集約されているのは上都賀地区の4項目で、課題が分散されているのは河内地区と下都賀地区の9項目であった。特に、河内地区は7項目で最も回答割合が高かった。他の地区は5～7項目であった。

イ 性別に見た地域課題の認識状況

【表 7】

地域課題の認識 (性別)	全 県 n=1,670	女 性 n=1,064	男 性 n=521	無 回 答 n=85
防災・防犯	28.6%	28.2%	29.4%	28.2%
子どもの安全確保	31.6%	34.2%	25.5%	36.5%
家庭教育支援・子育て支援	22.7%	25.8%	17.3%	16.5%
青少年の健全育成	8.3%	8.5%	7.5%	11.8%
郷土芸能の伝承	6.4%	5.9%	7.7%	4.7%
自治会・子ども会等の運営	26.6%	25.8%	29.2%	21.2%
住民同士の交流	27.1%	25.7%	31.1%	20.0%
高齢化	47.5%	46.7%	49.3%	45.9%
地域ブランド	7.2%	6.9%	8.3%	5.9%
国際化	5.6%	6.7%	3.8%	2.4%
過疎化・人口減少	34.1%	30.8%	40.5%	36.5%
環境保護・美化	10.7%	10.5%	10.9%	10.6%
人権問題	1.7%	1.5%	1.5%	5.9%
市街中心部の空洞化	14.0%	13.3%	16.1%	9.4%
交通マナー	16.3%	17.4%	13.8%	17.6%
その他	2.3%	2.4%	2.1%	1.2%
無回答	0.9%	1.1%	0.0%	3.5%

5 ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、4 項目で差異があるといえる。

女性が男性を上回ったものは、「子どもの安全確保」「家庭教育支援・子育て支援」の 2 項目で、約 9 ポイント上回った。また、男性が女性を上回ったものも 2 項目で、「住民同士の交流」で約 5 ポイント、「過疎化・人口減少」で約 10 ポイント上回った。

ウ 年代別に見た地域課題の認識状況

【表 8】

地域課題の認識 (年代別)	全 県 n=1,670	20歳代 n=28	30歳代 n=250	40歳代 n=505	50歳代 n=401	60歳代 n=302	70歳以上 n=143	無 回 答 n=60
防災・防犯	28.6%	25.0%	29.6%	26.3%	26.4%	30.8%	36.4%	29.3%
子どもの安全確保	31.6%	32.1%	51.6%	39.2%	24.4%	17.2%	18.9%	36.6%
家庭教育支援・子育て支援	22.7%	21.4%	35.2%	27.3%	23.2%	11.9%	7.0%	19.5%
青少年の健全育成	8.3%	10.7%	6.4%	9.5%	9.2%	6.3%	8.4%	9.8%
郷土芸能の伝承	6.4%	3.6%	5.2%	5.3%	6.5%	8.6%	7.7%	7.3%
自治会・子ども会等の運営	26.6%	7.1%	26.4%	32.9%	27.4%	23.5%	16.1%	17.1%
住民同士の交流	27.1%	21.4%	18.4%	20.0%	26.7%	40.4%	42.7%	22.0%
高齢化	47.5%	46.4%	32.8%	37.2%	52.4%	63.2%	61.5%	51.2%
地域ブランド	7.2%	3.6%	8.4%	7.3%	8.2%	6.3%	4.9%	7.3%
国際化	5.6%	10.7%	6.8%	4.8%	6.5%	5.3%	4.9%	0.0%
過疎化・人口減少	34.1%	35.7%	33.2%	34.1%	38.9%	31.8%	27.3%	34.1%
環境保護・美化	10.7%	3.6%	5.2%	7.3%	9.2%	18.2%	21.0%	12.2%
人権問題	1.7%	3.6%	2.0%	2.6%	1.0%	1.0%	0.7%	4.9%
市街中心部の空洞化	14.0%	7.1%	9.6%	15.0%	12.5%	17.9%	16.1%	9.8%
交通マナー	16.3%	32.1%	20.0%	20.0%	11.7%	12.6%	13.3%	19.5%
その他	2.3%	3.6%	3.6%	3.0%	2.0%	1.0%	1.4%	0.0%
無回答	0.9%	3.6%	1.2%	0.8%	0.5%	1.0%	1.4%	0.0%

「防災・防犯」や「過疎化・人口減少」は世代間に課題認識の明確な差異がみられない。それに対して、「交通マナー」は20～40歳代で、「子どもの安全確保」や「家庭教育支援・子育て支援」、「交通マナー」は30・40歳代で回答割合が高かった。また、「自治会・子ども会等の運営」は30～50歳代で、「住民同士の交流」や「高齢化」、「環境保護・美化」は60歳代・70歳以上で割合が高いなど、世代間で課題認識に明確な差が生じるものも多くみられる。

工 地域課題の認識状況についての過去の調査との比較

過去の調査との比較を行うデータは、同様の集計方法でないと比較ができないため、「総回答数からの割合」で集計を行っている。

【表 9】

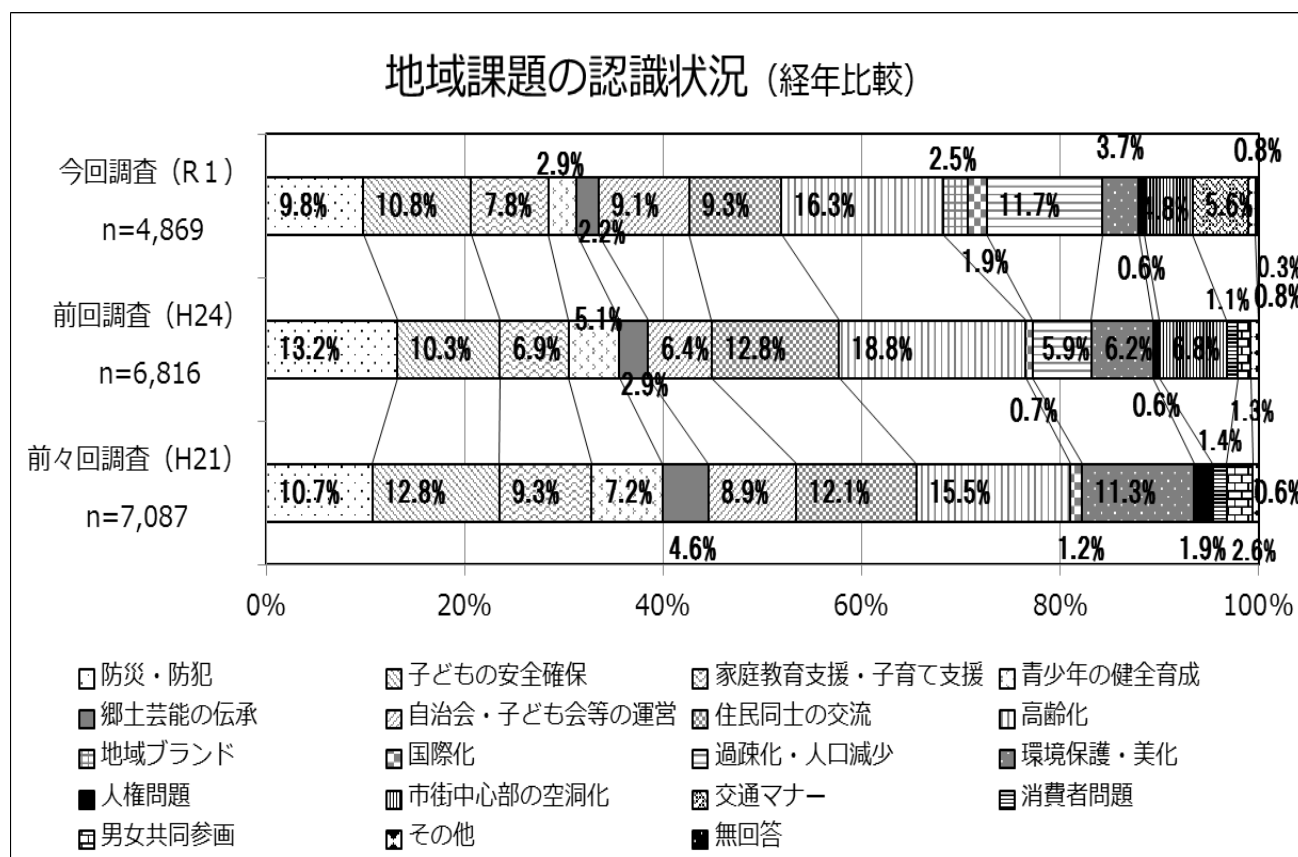
地域課題の認識 (経年比較)	今回調査 (R1) n=4,869	前回調査 (H24) n=6,816	前々回調査 (H21) n=7,087	今回調査と 前回調査の 増減
防災・防犯	9.8%	13.2%	10.7%	-3.4%
子どもの安全確保	10.8%	10.3%	12.8%	0.5%
家庭教育支援・子育て支援	7.8%	6.9%	9.3%	0.9%
青少年の健全育成	2.9%	5.1%	7.2%	-2.2%
郷土芸能の伝承	2.2%	2.9%	4.6%	-0.7%
自治会・子ども会等の運営	9.1%	6.4%	8.9%	2.7%
住民同士の交流	9.3%	12.8%	12.1%	-3.5%
高齢化	16.3%	18.8%	15.5%	-2.5%
地域ブランド	2.5%	—	—	—
国際化	1.9%	0.7%	1.2%	1.2%
過疎化・人口減少	11.7%	5.9%	—	5.8%
環境保護・美化	3.7%	6.2%	11.3%	-2.5%
人権問題	0.6%	0.6%	1.9%	0.0%
市街中心部の空洞化	4.8%	6.8%	—	-2.0%
交通マナー	5.6%	—	—	—
消費者問題	—	1.1%	1.4%	—
男女共同参画	—	1.3%	2.6%	—
その他	0.8%	0.8%	0.6%	0.0%
無回答	0.3%	—	—	—

今回の調査では、「地域ブランド」「交通マナー」という選択肢を新たに設け、「消費者問題」「男女共同参画」を削除した。選択肢の数は前回調査と同数にした。

大きく割合を増加させたのは「過疎化・人口減少」で、5.8 ポイントであった。これは、前回調査の9位から3位に上昇するもので、特に顕著なものであるといえる。他に、「自治会・子ども会等の運営」も2.7 ポイントであった。

逆に、3 ポイント以上割合を減少させたのは、「住民同士の交流」で3.5 ポイント、「防災・防犯」で3.4 ポイントであった。「防災・防犯」については、前回調査が東日本大震災後のため、県民の防災意識が高まっていたことが影響していると考えられる。

【図 4】



《参考：問1「その他」の主な回答記述》◎は特に回答が多かった記述

◎公共交通の整備

◎空き家対策

◎耕作放棄地対策

○隣宅とのトラブル

○買物難民対策

○道路・歩道等のインフラ整備

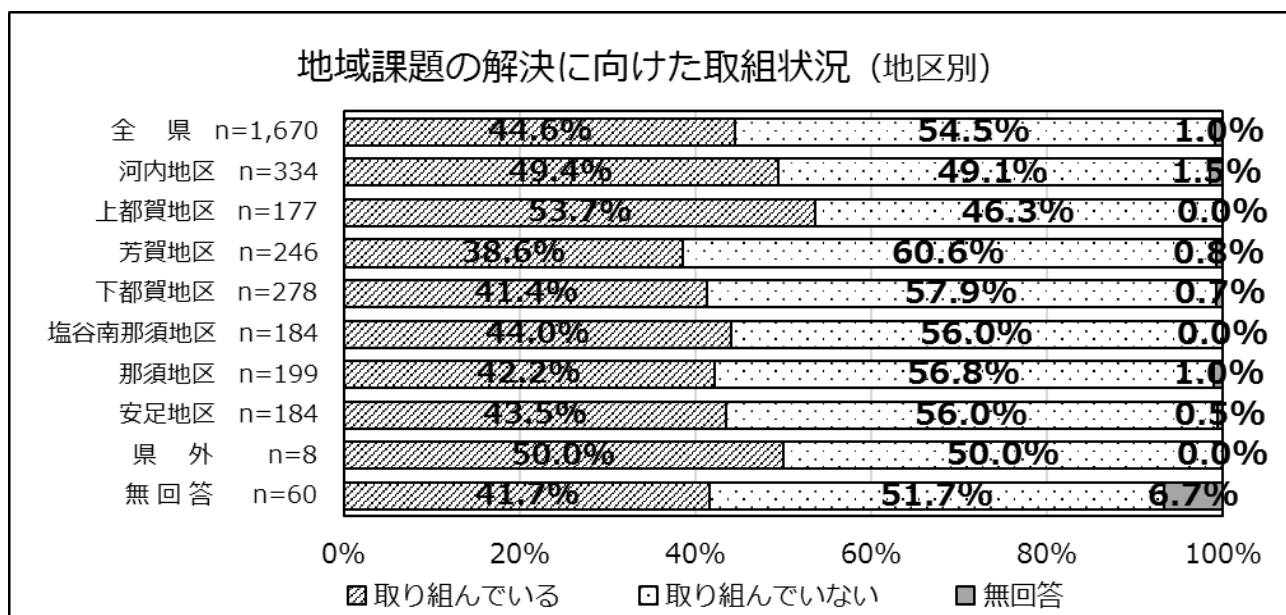
(3) 地域課題の解決に向けた取組状況

問2 現在、あなたは地域課題の解決に向けた活動に取り組まれていますか。上記選択肢や下記活動例を参考に、あてはまる番号に○をつけてください。

*設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた取組状況

【図5】

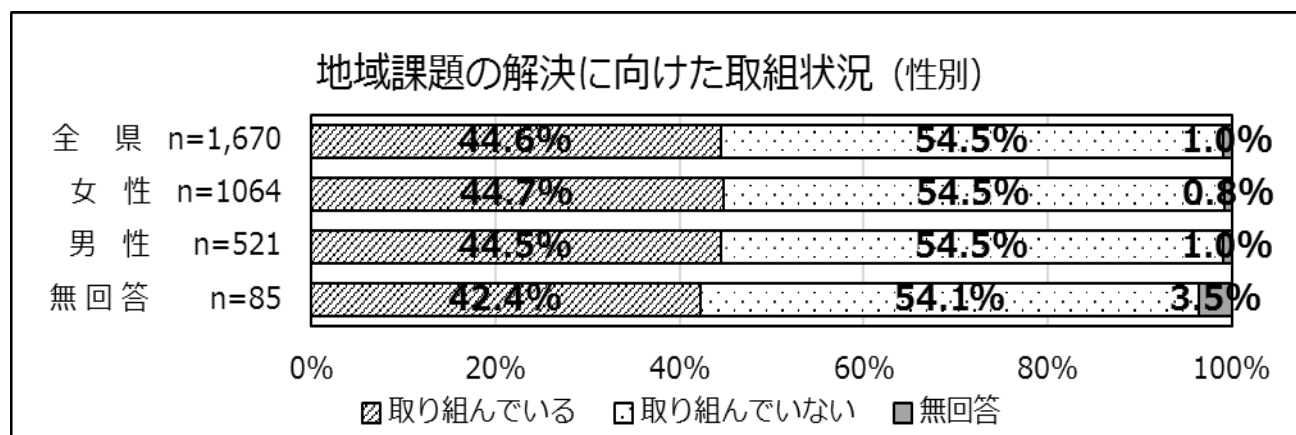


全県でみると、「活動に取り組んでいる」と回答した割合は約 45%であった。

地区別にみると、最も活動に取り組んでいる割合が高かったのは上都賀地区で、唯一 50%を超える約 54%であった。

イ 性別にみた取組状況

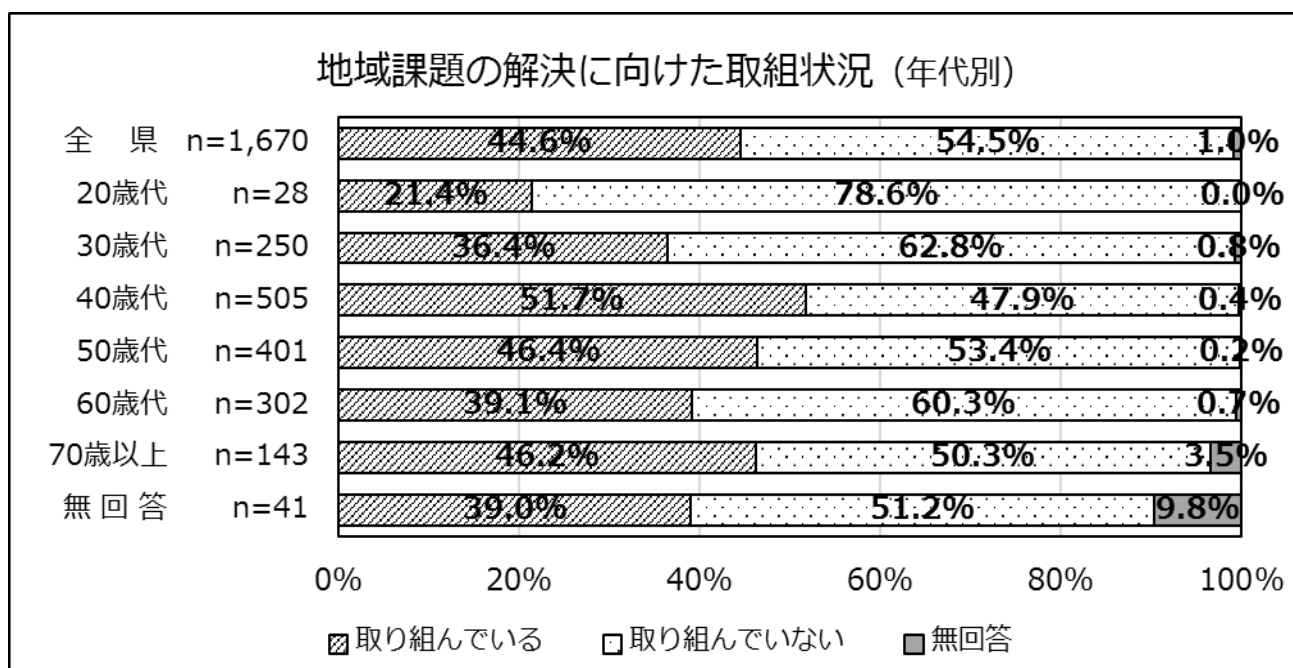
【図6】



前回調査では、「活動に取り組んでいる」と回答した割合は、女性 37.6%、男性 52.9%と大きな差がみられたが、今回の調査では性別での差異はみられなかった。

ウ 年代別にみた取組状況

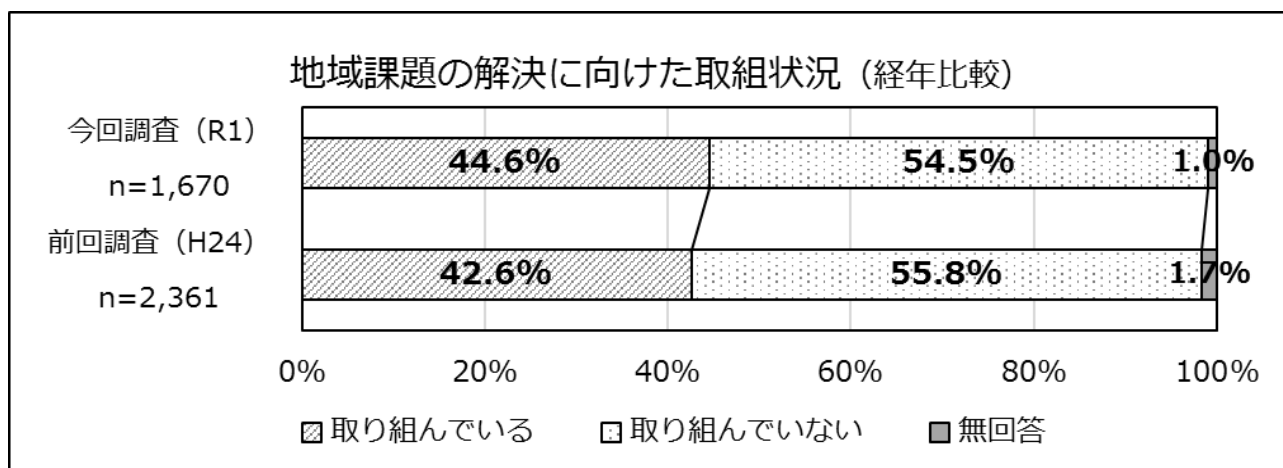
【図 7】



年代別に活動の取組状況を見ると、「40 歳代」が最も多く、半数以上が何らかの活動に取り組んでいることが分かる。また、50 歳代と 60 歳代で徐々にその回答割合は減少するが、「70 歳以上」でまた急増している。「40 歳代」と「70 歳以上」において活動に取り組んだ経験が増加する傾向は、前回調査と同様である。

エ 取組状況についての過去の調査との比較

【図 8】



前回調査と比較し、活動に「取り組んでいる」と回答した割合は、2 ポイントほど増加した。

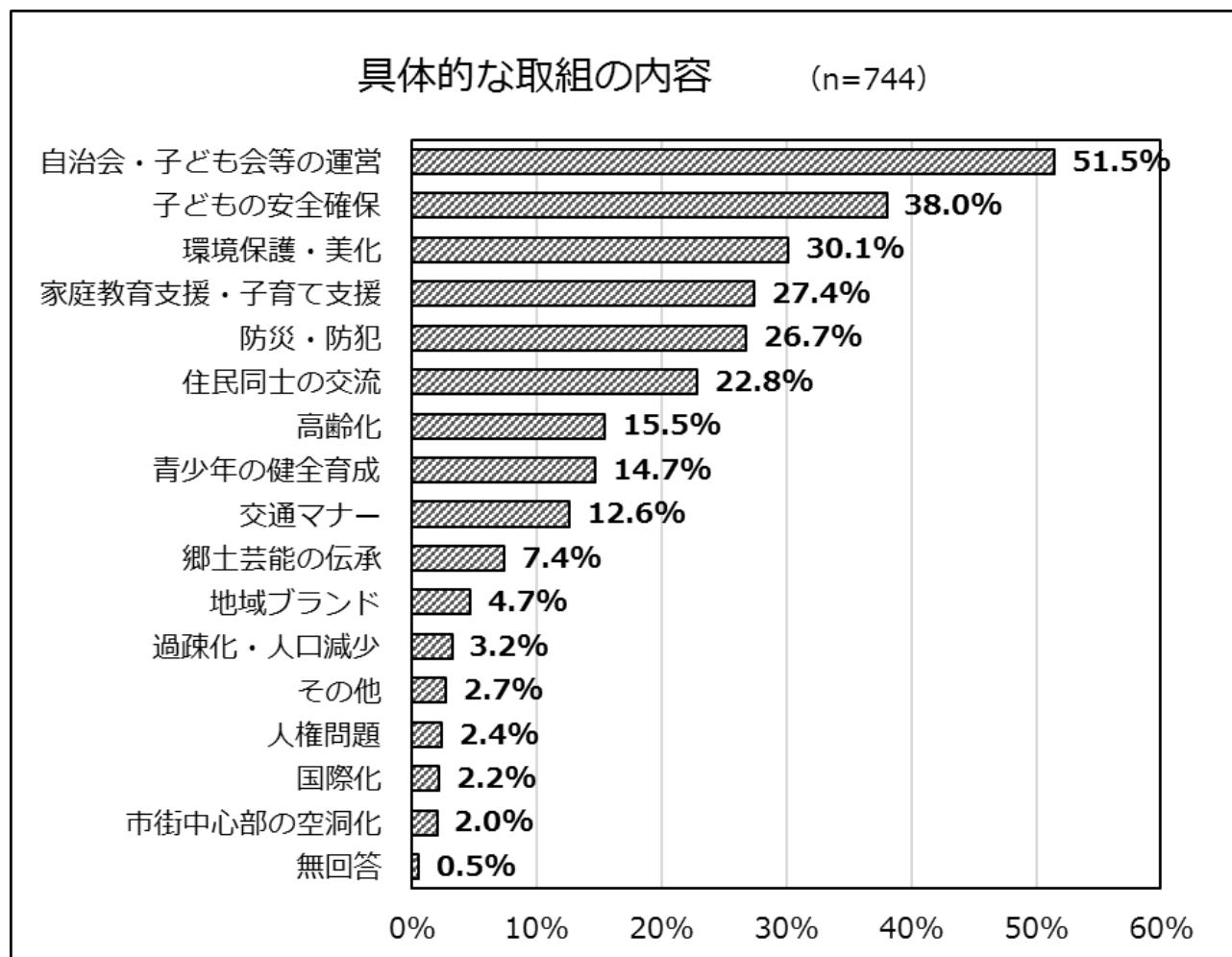
(4) 具体的な取組の内容

問3 問2で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。それは具体的にどのような活動ですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた取組の内容

【図9】



実際に地域課題の解決に向けた活動に取り組んだ経験をもつ744名に対して、その内容について質問した。

全県でみると、「自治会・子ども会等の運営」が51.5%と最も高く、唯一半数を超えた。また、「子どもの安全確保」「環境保護・美化」が、それに次いで回答割合が高かった。

【表 10】

具体的な取組の内容 (地区別)	全 県 n=744	河内地区 n=165	上都賀地区 n=95	芳賀地区 n=95	下都賀地区 n=115	塩谷南那須地区 n=81	那須地区 n=84	安足地区 n=80	県 外 n=4	無 回 答 n=25
防災・防犯	26.7%	27.3%	31.6%	20.0%	32.2%	18.5%	28.6%	23.8%	0.0%	40.0%
子どもの安全確保	38.0%	41.8%	44.2%	38.9%	44.3%	28.4%	25.0%	40.0%	0.0%	32.0%
家庭教育支援・子育て支援	27.4%	26.7%	29.5%	44.2%	20.0%	28.4%	26.2%	16.3%	25.0%	32.0%
青少年の健全育成	14.7%	12.1%	21.1%	10.5%	14.8%	14.8%	15.5%	13.8%	0.0%	24.0%
郷土芸能の伝承	7.4%	6.1%	9.5%	4.2%	9.6%	4.9%	9.5%	8.8%	0.0%	8.0%
自治会・子ども会等の運営	51.5%	58.2%	50.5%	44.2%	53.0%	49.4%	48.8%	55.0%	25.0%	40.0%
住民同士の交流	22.8%	18.2%	28.4%	20.0%	20.0%	25.9%	41.7%	15.0%	0.0%	12.0%
高齢化	15.5%	16.4%	11.6%	15.8%	13.0%	16.0%	27.4%	8.8%	0.0%	16.0%
地域ブランド	4.7%	1.8%	6.3%	6.3%	3.5%	7.4%	4.8%	6.3%	0.0%	4.0%
国際化	2.2%	0.6%	3.2%	0.0%	1.7%	2.5%	2.4%	5.0%	0.0%	8.0%
過疎化・人口減少	3.2%	1.2%	6.3%	2.1%	3.5%	4.9%	6.0%	1.3%	0.0%	0.0%
環境保護・美化	30.1%	30.9%	29.5%	30.5%	29.6%	28.4%	31.0%	36.3%	0.0%	16.0%
人権問題	2.4%	1.8%	4.2%	1.1%	1.7%	1.2%	2.4%	5.0%	0.0%	4.0%
市街中心部の空洞化	2.0%	0.6%	2.1%	0.0%	4.3%	1.2%	1.2%	3.8%	25.0%	4.0%
交通マナー	12.6%	15.8%	16.8%	13.7%	8.7%	9.9%	13.1%	6.3%	0.0%	20.0%
その他	2.7%	1.2%	2.1%	6.3%	3.5%	4.9%	0.0%	1.3%	25.0%	0.0%
無回答	0.5%	0.6%	0.0%	1.1%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%

地区別にみると、全県で最上位であった「自治会・子ども会等の運営」は、全ての地区で回答割合が最も高かった。また、芳賀地区では「家庭教育支援・子育て支援」も同率の回答割合であり、那須地区では「住民同士の交流」が2番目に高くなっているなど、地区の実態を反映した取組内容となっている様子もみられる。

「家庭教育支援・子育て支援」では、回答割合の最も高い芳賀地区と最も低い安足地区で約 28 ポイントの差があり、「住民同士の交流」では、那須地区と安足地区で約 27 ポイントの差があるなど、項目によって地区間の取組内容の差異が顕著であるものもみられる。

イ 性別にみた取組の内容

【表 11】

具体的な取組の内容 (性別)	全 県 n=744	女 性 n=476	男 性 n=232	無 回 答 n=36
防災・防犯	26.7%	22.9%	31.9%	44.4%
子どもの安全確保	38.0%	37.8%	37.1%	47.2%
家庭教育支援・子育て支援	27.4%	33.4%	13.8%	36.1%
青少年の健全育成	14.7%	11.6%	21.1%	13.9%
郷土芸能の伝承	7.4%	6.5%	9.1%	8.3%
自治会・子ども会等の運営	51.5%	52.1%	52.2%	38.9%
住民同士の交流	22.8%	21.2%	28.0%	11.1%
高齢化	15.5%	15.8%	15.5%	11.1%
地域ブランド	4.7%	3.8%	7.3%	0.0%
国際化	2.2%	1.7%	2.6%	5.6%
過疎化・人口減少	3.2%	2.1%	6.0%	0.0%
環境保護・美化	30.1%	30.5%	29.3%	30.6%
人権問題	2.4%	2.3%	2.2%	5.6%
市街中心部の空洞化	2.0%	0.8%	4.3%	2.8%
交通マナー	12.6%	11.1%	14.2%	22.2%
その他	2.7%	2.9%	2.2%	2.8%
無回答	0.5%	0.6%	0.0%	2.8%

5 ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、4 項目で差異があるといえる。

「防災・防犯」「青少年の健全育成」「住民同士の交流」では男性が女性を上回った。また、「家庭教育支援・子育て支援」では、女性が男性を約 20 ポイント上回った。

ウ 年代別にみた取組の内容

【表 12】

具体的な取組の内容 (年代別)	全 県 n=744	20歳代 n=6	30歳代 n=91	40歳代 n=261	50歳代 n=186	60歳代 n=118	70歳以上 n=66	無 回 答 n=16
防災・防犯	26.7%	0.0%	20.9%	23.4%	28.5%	30.5%	31.8%	56.3%
子どもの安全確保	38.0%	33.3%	44.0%	46.0%	37.6%	21.2%	30.3%	37.5%
家庭教育支援・子育て支援	27.4%	33.3%	27.5%	24.1%	31.7%	31.4%	19.7%	31.3%
青少年の健全育成	14.7%	33.3%	9.9%	16.5%	18.3%	10.2%	9.1%	18.8%
郷土芸能の伝承	7.4%	0.0%	4.4%	7.7%	6.5%	7.6%	12.1%	12.5%
自治会・子ども会等の運営	51.5%	0.0%	50.5%	60.2%	52.7%	42.4%	39.4%	37.5%
住民同士の交流	22.8%	16.7%	24.2%	16.5%	22.0%	33.1%	33.3%	12.5%
高齢化	15.5%	0.0%	7.7%	6.5%	10.8%	36.4%	37.9%	18.8%
地域ブランド	4.7%	0.0%	9.9%	5.7%	3.2%	4.2%	0.0%	0.0%
国際化	2.2%	0.0%	2.2%	2.7%	1.6%	1.7%	1.5%	6.3%
過疎化・人口減少	3.2%	0.0%	3.3%	3.1%	2.7%	3.4%	6.1%	0.0%
環境保護・美化	30.1%	50.0%	34.1%	25.7%	30.1%	33.9%	34.8%	25.0%
人権問題	2.4%	0.0%	0.0%	2.3%	3.8%	2.5%	1.5%	6.3%
市街中心部の空洞化	2.0%	0.0%	2.2%	2.7%	1.1%	1.7%	3.0%	0.0%
交通マナー	12.6%	16.7%	12.1%	13.0%	10.2%	11.0%	16.7%	31.3%
その他	2.7%	0.0%	4.4%	4.2%	1.6%	0.0%	3.0%	0.0%
無回答	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.8%	1.5%	6.3%

回答数の少ない 20 歳代を除いた全ての年代で、「自治会・子ども会等の運営」の割合が最も高かった。また、「子どもの安全確保」では 30・40 歳代で、「住民同士の交流」や「高齢化」は 60 歳代と 70 歳以上で、他の年代よりも回答割合が高かった。

「防災・防犯」は、年代が上がるに連れて、回答割合が高かった。

エ 取組の内容についての過去の調査との比較

【表 13】

具体的な取組の内容 (経年比較)	今回調査 (R1) n=744	前回調査 (H24) n=1,006	今回調査と 前回調査の 増減
防災・防犯	26.7%	28.6%	-1.9%
子どもの安全確保	38.0%	34.0%	4.0%
家庭教育支援・子育て支援	27.4%	20.3%	7.1%
青少年の健全育成	14.7%	18.7%	-4.0%
郷土芸能の伝承	7.4%	10.9%	-3.5%
自治会・子ども会等の運営	51.5%	45.8%	5.7%
住民同士の交流	22.8%	29.0%	-6.2%
高齢化	15.5%	27.7%	-12.2%
地域ブランド	4.7%	—	—
国際化	2.2%	2.1%	0.1%
過疎化・人口減少	3.2%	3.3%	-0.1%
環境保護・美化	30.1%	32.0%	-1.9%
人権問題	2.4%	4.3%	-1.9%
市街中心部の空洞化	2.0%	4.1%	-2.1%
交通マナー	12.6%	—	—
消費者問題	—	3.9%	—
男女共同参画	—	8.8%	—
その他	2.7%	1.8%	0.9%
無回答	0.5%	—	—

前回調査と比較し、回答割合が最も増加した項目は「家庭教育支援・子育て支援」で、7.1ポイント増加した。次いで、「自治会・子ども会等の運営」で5.7ポイント、「子どもの安全確保」で4.0ポイント、それぞれ増加した。

それに対して、回答割合が最も減少した項目は「高齢化」で12.2ポイント減少した。次いで、「住民同士の交流」が6.2ポイント、「青少年の健全育成」が4.0ポイント、それぞれ減少した。

また、今回調査で新たに追加した「交通マナー」が12.6%と、活動している方が相当数いることが分かる。

《参考：問3「その他」の主な回答記述》◎は特に回答が多かった記述

◎学校支援ボランティア

○スポーツ指導

○耕作放棄地への対応

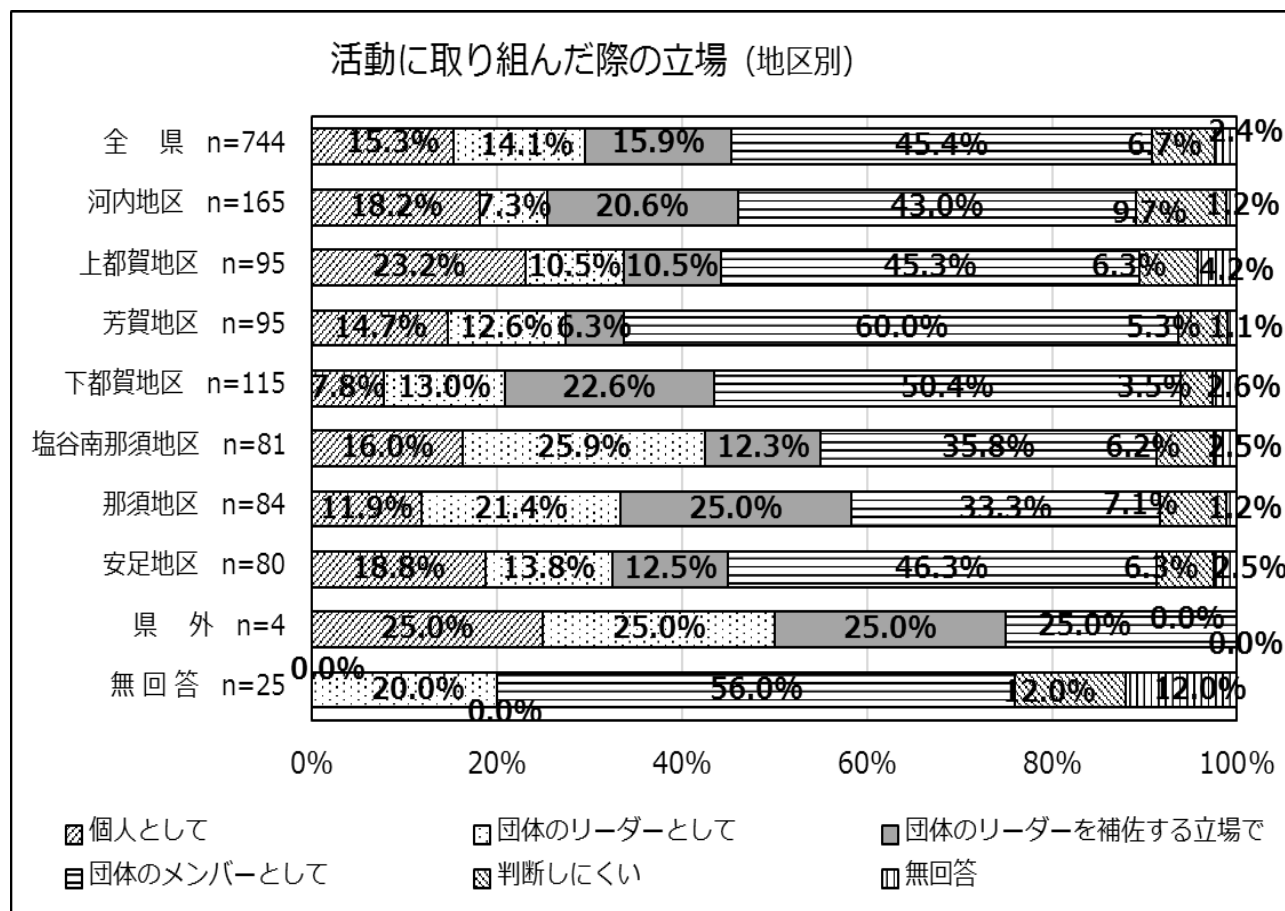
(5) 活動に取り組んだ際の立場

問4 問2で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。活動にはどのような立場で取り組まれています（いました）か。最もよくあてはまる番号1つに○をつけてください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた状況

【図 10】

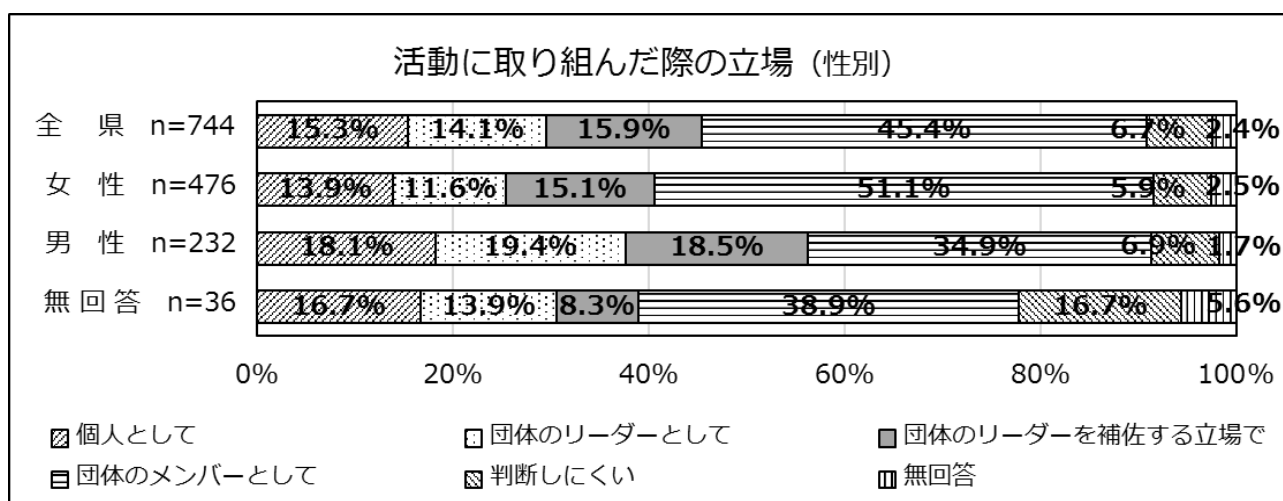


リーダーとして活動経験をもつと回答した割合は、最も高い地区が 25.9%、最も低い地区で 7.3%と 3 倍以上の開きがあった。また、個人で活動していると回答した割合も、最も高い地区が 23.2%、最も低い地区で 7.8%と 3 倍近くの開きがあった。塩谷南那須地区、那須地区で、リーダーとしての活動経験をもつ割合が高い傾向は、前回調査と同様である。

全県でみても、個人での活動は 15.3%、団体に所属しての活動が 75.4%と、地域課題解決に向けた活動は、何らかの団体やグループで取り組まれていることが多いことが分かる。

イ 性別にみた状況

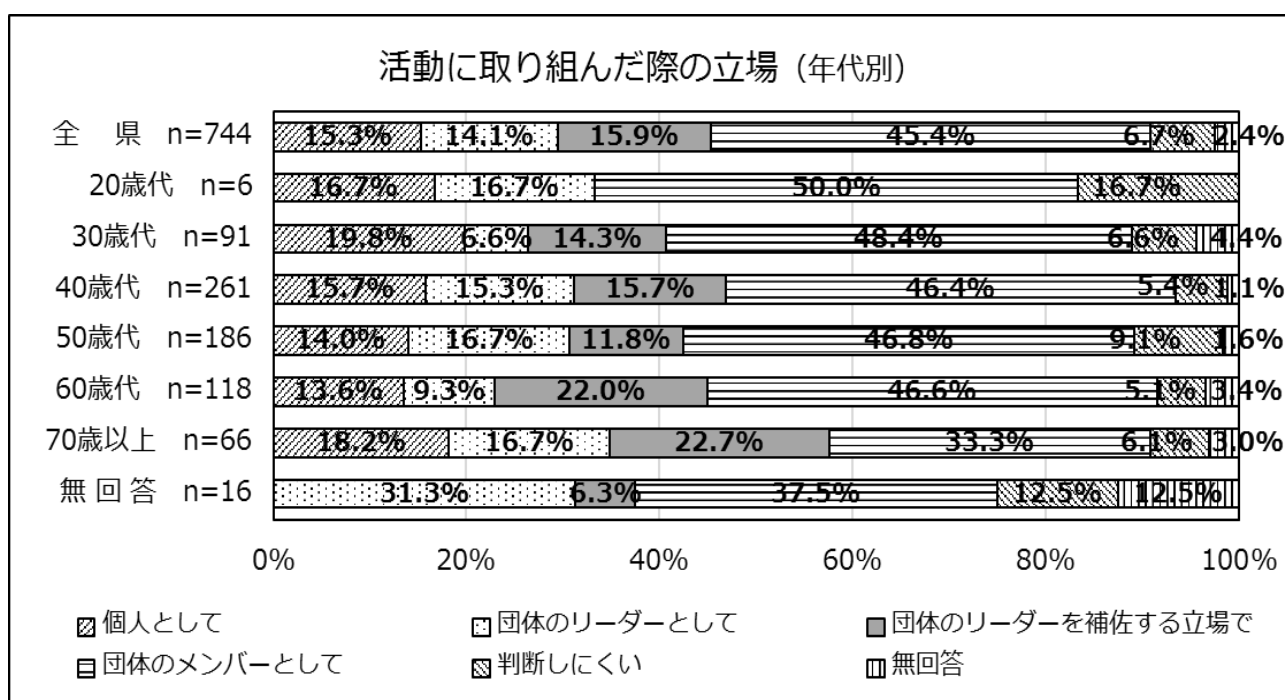
【図 11】



個人として活動する割合は、男性が女性をやや上回った。また、団体においてリーダーを補佐する立場を務める割合においても同様であった。リーダーとしての活動については、男性が女性を約 8 ポイント上回った。一方で、役職に就かないメンバーとして活動すると回答した割合では、女性が男性を約 16 ポイント上回る結果となった。

ウ 年代別にみた状況

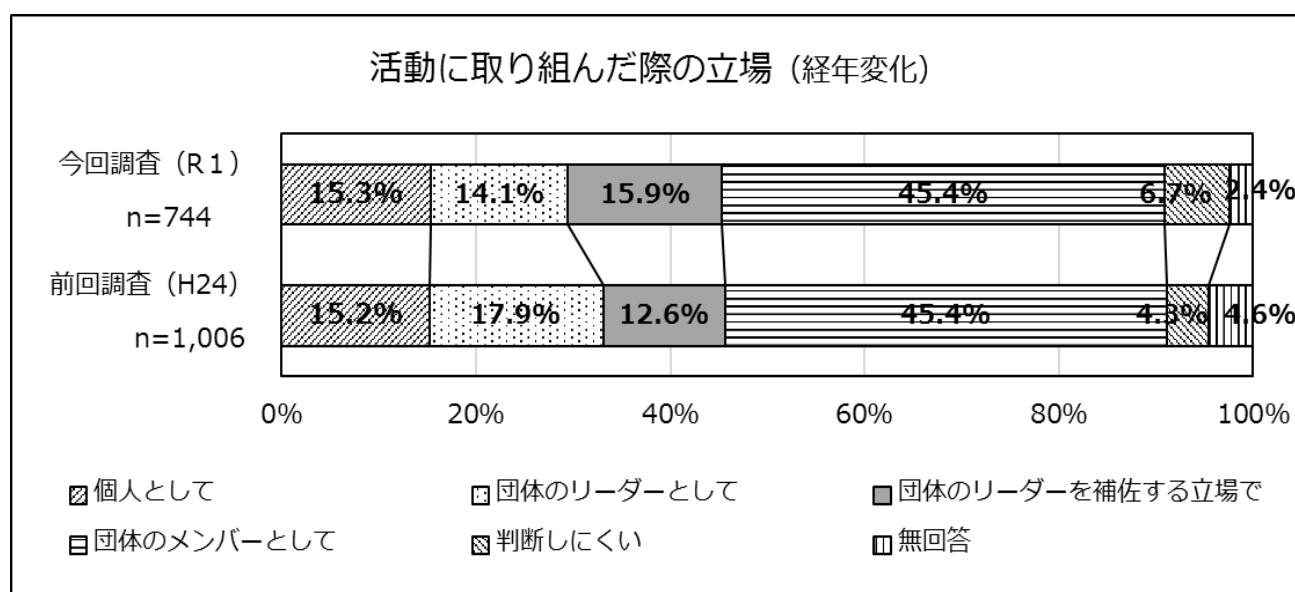
【図 12】



個人で活動している割合は、年代別にみて大きな差はみられない。また、団体に属して活動していると回答した割合は、40 歳代で最も高くなった。リーダーやリーダーを補佐するなど、団体の中心的な立場で活動している割合は、70 歳以上で最も高くなり、次いで 40 歳代となった。

エ 活動に取り組んだ際の立場についての過去の調査との比較

【図 13】



リーダーとリーダーを補佐する立場それぞれで3ポイントほどの差がみられたが、両者はともに団体の中心的な立場であり、その割合に大きな変化はない。したがって、前回調査とほぼ同じような結果であったといえる。

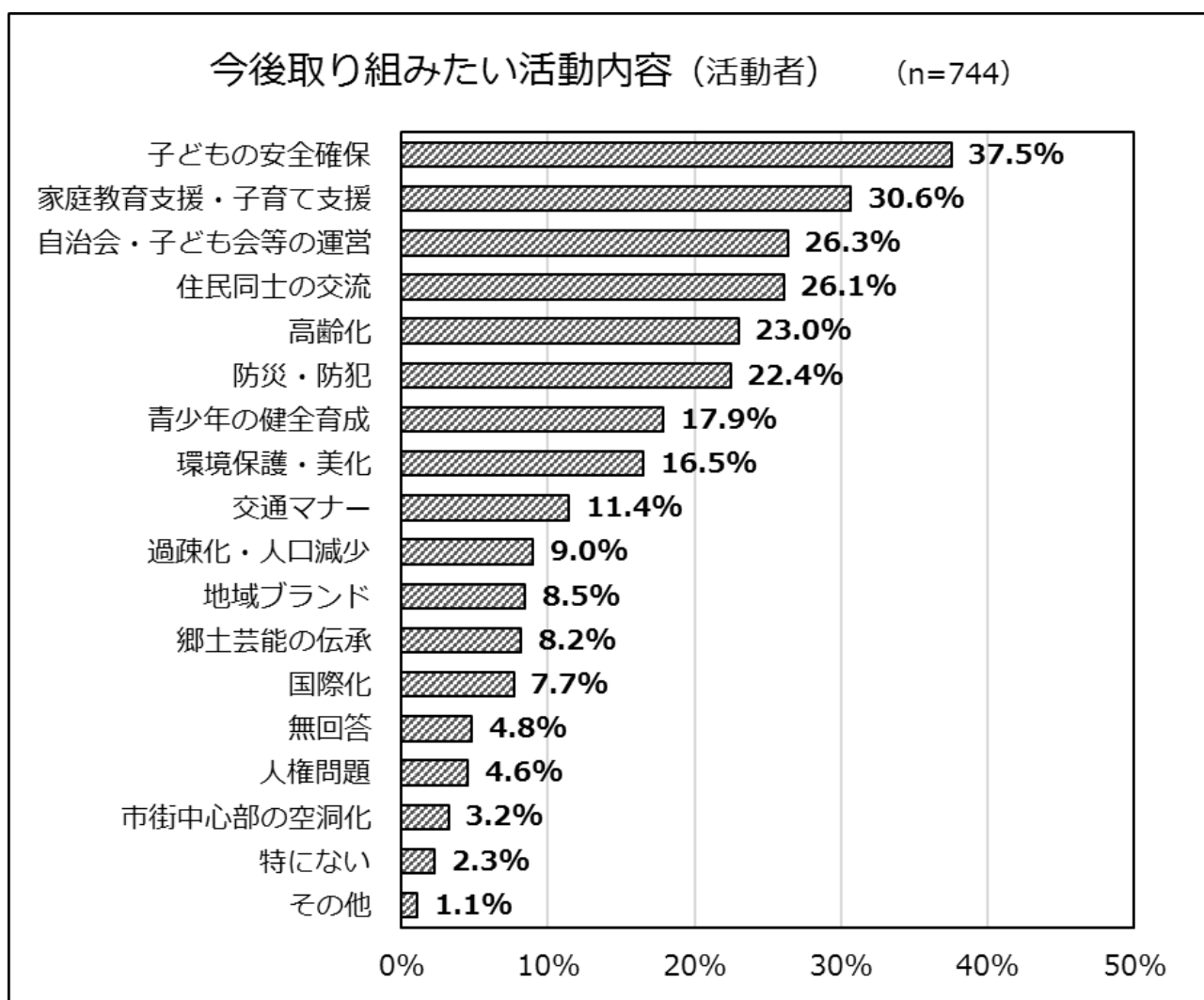
(6) 今後取り組みたい活動内容

問5 問2で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。今後、どのような活動に取り組んでみたいですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた取り組みたい活動内容

【図 14】



全県でみると、「子どもの安全確保」が37.5%で回答割合が最も高かった。次いで、「家庭教育支援・子育て支援」「自治会・子ども会等の運営」であった。

【表 14】

取り組みたい活動内容 (地区別)	全 県 n=744	河内地区 n=165	上都賀地区 n=95	芳賀地区 n=95	下都賀地区 n=115	塩谷南那須地区 n=81	那須地区 n=84	安足地区 n=80	県 外 n=4	無 回 答 n=25
防災・防犯	22.4%	22.4%	17.9%	25.3%	25.2%	21.0%	23.8%	21.3%	0.0%	24.0%
子どもの安全確保	37.5%	40.6%	42.1%	38.9%	41.7%	34.6%	25.0%	36.3%	50.0%	28.0%
家庭教育支援・子育て支援	30.6%	27.9%	30.5%	41.1%	32.2%	32.1%	28.6%	26.3%	25.0%	20.0%
青少年の健全育成	17.9%	15.2%	20.0%	17.9%	18.3%	11.1%	26.2%	16.3%	50.0%	20.0%
郷土芸能の伝承	8.2%	6.7%	14.7%	7.4%	8.7%	4.9%	11.9%	3.8%	0.0%	8.0%
自治会・子ども会等の運営	26.3%	30.3%	24.2%	25.3%	34.8%	17.3%	29.8%	16.3%	50.0%	20.0%
住民同士の交流	26.1%	26.7%	25.3%	23.2%	25.2%	29.6%	42.9%	12.5%	0.0%	20.0%
高齢化	23.0%	26.1%	17.9%	14.7%	23.5%	23.5%	34.5%	20.0%	0.0%	24.0%
地域ブランド	8.5%	4.8%	8.4%	10.5%	7.0%	9.9%	13.1%	10.0%	0.0%	8.0%
国際化	7.7%	8.5%	6.3%	5.3%	8.7%	8.6%	6.0%	8.8%	25.0%	8.0%
過疎化・人口減少	9.0%	3.6%	13.7%	9.5%	8.7%	11.1%	15.5%	7.5%	25.0%	0.0%
環境保護・美化	16.5%	18.8%	12.6%	21.1%	16.5%	13.6%	13.1%	18.8%	0.0%	16.0%
人権問題	4.6%	1.2%	6.3%	4.2%	9.6%	3.7%	3.6%	6.3%	0.0%	0.0%
市街中心部の空洞化	3.2%	1.2%	4.2%	0.0%	2.6%	2.5%	3.6%	7.5%	25.0%	12.0%
交通マナー	11.4%	13.3%	12.6%	12.6%	14.8%	7.4%	11.9%	5.0%	25.0%	4.0%
特にない	2.3%	3.0%	0.0%	2.1%	1.7%	4.9%	3.6%	1.3%	0.0%	0.0%
その他	1.1%	0.0%	0.0%	2.1%	0.9%	3.7%	1.2%	0.0%	0.0%	4.0%
無回答	4.8%	4.2%	5.3%	3.2%	4.3%	3.7%	2.4%	6.3%	0.0%	24.0%

地区別にみると、全県で回答割合の最も高かった「子どもの安全確保」は、河内、上都賀、下都賀、塩谷南那須、安足の各地区で最上位であった。また、芳賀地区では「家庭教育支援・子育て支援」が、那須地区では「住民同士の交流」が最上位であった。

項目毎にみると、地区間でのばらつきが多くみられ、回答割合の最も高い那須地区と最も低い安足地区の差が「住民同士の交流」では 30 ポイント以上もあった。他にも、「高齢化」では約 20 ポイント、「自治会・子ども会等の運営」では約 18 ポイント、「子どもの安全確保」では約 17 ポイント、「家庭教育支援・子育て支援」「青少年の健全育成」では約 15 ポイントの差がみられた。

イ 性別にみた取り組みたい活動内容

【表 15】

取り組みたい活動内容 (性別)	全 県 n=744	女 性 n=476	男 性 n=232	無 回 答 n=36
防災・防犯	22.4%	20.6%	25.9%	25.0%
子どもの安全確保	37.5%	38.7%	35.8%	33.3%
家庭教育支援・子育て支援	30.6%	37.6%	17.2%	25.0%
青少年の健全育成	17.9%	15.5%	22.0%	22.2%
郷土芸能の伝承	8.2%	6.3%	12.1%	8.3%
自治会・子ども会等の運営	26.3%	25.4%	28.9%	22.2%
住民同士の交流	26.1%	26.5%	25.9%	22.2%
高齢化	23.0%	21.2%	25.4%	30.6%
地域ブランド	8.5%	5.0%	15.9%	5.6%
国際化	7.7%	6.7%	8.2%	16.7%
過疎化・人口減少	9.0%	6.3%	15.1%	5.6%
環境保護・美化	16.5%	16.4%	16.4%	19.4%
人権問題	4.6%	4.6%	5.2%	0.0%
市街中心部の空洞化	3.2%	1.9%	5.2%	8.3%
交通マナー	11.4%	10.5%	13.4%	11.1%
特にない	2.3%	2.5%	1.7%	2.8%
その他	1.1%	0.6%	1.7%	2.8%
無回答	4.8%	5.3%	2.2%	16.7%

5 ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、6 項目で差異があるといえる。

女性が男性を上回ったものは1 項目のみで、「家庭教育支援・子育て支援」で約 20 ポイントの差があった。それに対して、男性が女性を上回ったものは5 項目あり、「地域ブランド」では約 10 ポイントの差があり、次いで「過疎化・人口減少」「青少年の健全育成」「郷土芸能の伝承」「防災・防犯」であった。

ウ 年代別にみた取り組みたい活動内容

【表 16】

取り組みたい活動内容 (年代別)	全 県 n=744	20歳代 n=6	30歳代 n=91	40歳代 n=261	50歳代 n=186	60歳代 n=118	70歳以上 n=66	無 回 答 n=16
防災・防犯	22.4%	16.7%	20.9%	19.5%	22.0%	25.4%	31.8%	25.0%
子どもの安全確保	37.5%	33.3%	48.4%	45.2%	35.5%	25.4%	21.2%	7.6%
家庭教育支援・子育て支援	30.6%	16.7%	34.1%	33.3%	34.9%	27.1%	13.6%	4.5%
青少年の健全育成	17.9%	0.0%	12.1%	21.1%	24.7%	10.2%	9.1%	4.5%
郷土芸能の伝承	8.2%	33.3%	8.8%	6.1%	6.5%	14.4%	7.6%	1.5%
自治会・子ども会等の運営	26.3%	0.0%	24.2%	33.3%	16.7%	28.8%	27.3%	6.1%
住民同士の交流	26.1%	50.0%	18.7%	19.2%	28.5%	38.1%	34.8%	4.5%
高齢化	23.0%	0.0%	8.8%	15.3%	23.7%	39.0%	42.4%	7.6%
地域ブランド	8.5%	16.7%	12.1%	7.3%	9.7%	8.5%	4.5%	1.5%
国際化	7.7%	16.7%	6.6%	9.6%	4.8%	8.5%	6.1%	3.0%
過疎化・人口減少	9.0%	16.7%	3.3%	10.7%	10.8%	8.5%	7.6%	0.0%
環境保護・美化	16.5%	0.0%	15.4%	12.6%	17.2%	18.6%	27.3%	6.1%
人権問題	4.6%	16.7%	8.8%	6.1%	2.2%	4.2%	0.0%	0.0%
市街中心部の空洞化	3.2%	16.7%	2.2%	4.2%	1.6%	2.5%	3.0%	3.0%
交通マナー	11.4%	0.0%	9.9%	14.6%	9.7%	8.5%	13.6%	1.5%
特にない	2.3%	0.0%	2.2%	3.1%	2.7%	0.8%	1.5%	0.0%
その他	1.1%	0.0%	2.2%	1.1%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	4.8%	0.0%	7.7%	3.4%	2.7%	5.1%	6.1%	7.6%

「地域ブランド」では 20・30 歳代が、「子どもの安全確保」「家庭教育支援・子育て支援」では 30～50 歳代が、「青少年の健全育成」では 40・50 歳代が、「防災・防犯」「住民同士の交流」「高齢化」「環境保護・美化」では 60 歳代・70 歳以上の回答割合がそれぞれ高くなっている。

《参考：問 5 「その他」の主な回答記述》

○空き家の活用 ○子どもの交流の場づくり

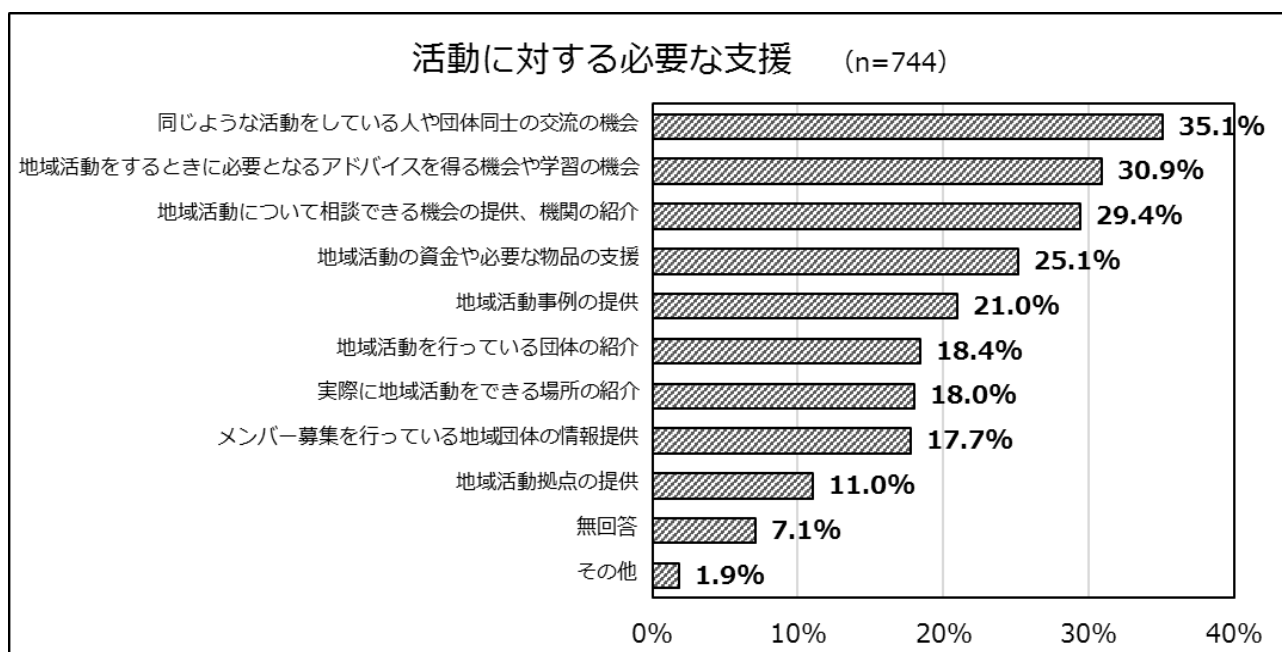
(7) 活動に対する必要な支援

問6 問2で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。どのような手助けがあるとさらに活動に取り組みやすくなると思いますか。あてはまる番号3つ以内に○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた必要な支援

【図 15】



【表 17】

活動に対する必要な支援 (地区別)	全 県 n=744	河内地区 n=165	上都賀地区 n=95	芳賀地区 n=95	下都賀地区 n=115	塩谷南那須地区 n=81	那須地区 n=84	安足地区 n=80	県 外 n=4	無 回 答 n=25
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	29.4%	32.1%	27.4%	32.6%	24.3%	29.6%	33.3%	27.5%	50.0%	20.0%
メンバー募集を行っている地域団体の情報提供	17.7%	20.0%	15.8%	14.7%	15.7%	19.8%	15.5%	18.8%	100.0%	16.0%
地域活動を行っている団体の紹介	18.4%	17.6%	15.8%	22.1%	19.1%	13.6%	14.3%	21.3%	50.0%	32.0%
実際に地域活動ができる場所の紹介	18.0%	17.0%	12.6%	21.1%	19.1%	25.9%	14.3%	17.5%	25.0%	16.0%
地域活動事例の提供	21.0%	18.8%	20.0%	21.1%	23.5%	21.0%	25.0%	22.5%	25.0%	8.0%
地域活動拠点の提供	11.0%	8.5%	13.7%	6.3%	10.4%	13.6%	14.3%	12.5%	0.0%	16.0%
地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会	30.9%	35.2%	32.6%	22.1%	25.2%	35.8%	34.5%	32.5%	25.0%	24.0%
同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会	35.1%	32.1%	36.8%	33.7%	42.6%	38.3%	31.0%	32.5%	25.0%	32.0%
地域活動の資金や必要な物品の支援	25.1%	22.4%	28.4%	26.3%	27.8%	23.5%	31.0%	22.5%	0.0%	12.0%
その他	1.9%	2.4%	3.2%	1.1%	0.9%	1.2%	3.6%	1.3%	0.0%	0.0%
無回答	7.1%	7.9%	6.3%	6.3%	7.0%	3.7%	7.1%	6.3%	0.0%	24.0%

全県でみると、「同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会」の回答割合が35.1%と最も高く、地区別にみても河内地区、那須地区を除く5つの地区で最上位となった。

次いで、河内、那須、安足の各地区で最上位（安足は最上位に2項目）の「地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会」となり、この2項目の回答割合が30%を超えた。また、「地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介」が29.1%、「地域活動の資金や必要な物品の支援」が25.1%と、これらの2項目も高い回答割合となった。

上に挙げた4項目が、順序は違えど各地区の上位4項目となり、地区間による大きな差異はみられなかった。

イ 性別にみた必要な支援

【表 18】

活動に対する必要な支援 (性別)	全 県 n=744	女 性 n=476	男 性 n=232	無 回 答 n=36
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	29.4%	28.2%	34.1%	16.7%
メンバー募集を行っている地域団体の情報提供	17.7%	18.5%	17.2%	11.1%
地域活動を行っている団体の紹介	18.4%	18.9%	17.7%	16.7%
実際に地域活動をできる場所の紹介	18.0%	17.9%	18.5%	16.7%
地域活動事例の提供	21.0%	21.0%	22.4%	11.1%
地域活動拠点の提供	11.0%	11.3%	11.2%	5.6%
地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会	30.9%	32.8%	28.0%	25.0%
同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会	35.1%	36.3%	34.1%	25.0%
地域活動の資金や必要な物品の支援	25.1%	23.7%	27.6%	27.8%
その他	1.9%	1.1%	3.4%	2.8%
無回答	7.1%	6.1%	5.6%	30.6%

「地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介」が、男性が女性を約6ポイント上回ったが、それ以外の項目については性別による大きな差異はみられなかった。

ウ 年代別にみた必要な支援

【表 19】

活動に対する必要な支援 (年代別)	全 県 n=744	20歳代 n=6	30歳代 n=91	40歳代 n=261	50歳代 n=186	60歳代 n=118	70歳以上 n=66	無 回 答 n=16
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	29.4%	33.3%	28.6%	28.7%	34.4%	26.3%	28.8%	12.5%
メンバー募集を行っている地域団体の情報提供	17.7%	16.7%	16.5%	19.9%	19.9%	16.9%	9.1%	6.3%
地域活動を行っている団体の紹介	18.4%	33.3%	17.6%	19.2%	18.8%	16.9%	13.6%	31.3%
実際に地域活動ができる場所の紹介	18.0%	33.3%	15.4%	16.1%	18.3%	20.3%	22.7%	18.8%
地域活動事例の提供	21.0%	0.0%	19.8%	24.5%	16.7%	19.5%	28.8%	6.3%
地域活動拠点の提供	11.0%	0.0%	9.9%	10.0%	14.0%	10.2%	12.1%	6.3%
地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会	30.9%	0.0%	26.4%	30.7%	28.5%	40.7%	31.8%	25.0%
同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会	35.1%	0.0%	36.3%	37.5%	36.0%	33.9%	28.8%	25.0%
地域活動の資金や必要な物品の支援	25.1%	50.0%	27.5%	23.0%	30.6%	22.0%	22.7%	6.3%
その他	1.9%	0.0%	0.0%	1.9%	2.7%	1.7%	3.0%	0.0%
無回答	7.1%	0.0%	9.9%	3.8%	4.3%	7.6%	15.2%	43.8%

「地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会」が 60 歳代で 40.7%と、他の年代と比較して回答割合が高かった。仕事を退職して、地域に意識が向いたり、地域活動を始めたいと考えたりする年代だからこそ、必要な支援だろう。他の項目については、年代間の大きな差異はみられなかった。

《参考：問 6 「その他」の主な回答記述》

○スタッフを募集する際の広報活動

○地元企業・行政・住民の合同会議

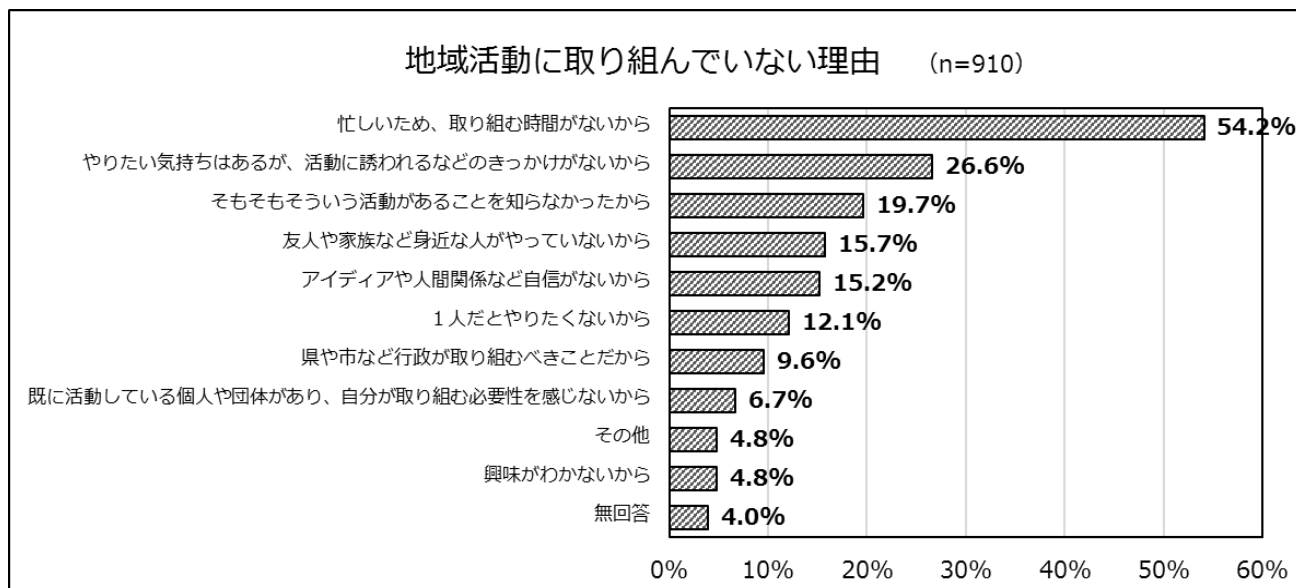
(8) 地域活動に取り組んでいない理由

問7 問2で「取り組んでいない」と回答された方にうかがいます。取り組まれている理由は何ですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた状況

【図 16】



【表 20】

取り組んでいない理由 (地区別)	全 県 n=910	河内地区 n=164	上都賀地区 n=82	芳賀地区 n=149	下都賀地区 n=161	塩谷南那須地区 n=103	那須地区 n=113	安足地区 n=103	県 外 n=4	無 回 答 n=31
忙しいため、 取り組む時間がないから	54.2%	51.2%	53.7%	51.0%	47.8%	58.3%	57.5%	65.0%	75.0%	54.8%
友人や家族など身近な人が やっていないから	15.7%	18.9%	15.9%	16.1%	18.6%	12.6%	13.3%	12.6%	25.0%	9.7%
1人だとやりたくないから	12.1%	12.2%	11.0%	15.4%	13.7%	11.7%	9.7%	11.7%	25.0%	0.0%
やりたい気持ちはあるが、活動に 誘われるなどのきっかけがないから	26.6%	28.0%	22.0%	24.2%	32.9%	23.3%	23.9%	26.2%	50.0%	29.0%
アイデアや人間関係など 自信がないから	15.2%	15.2%	17.1%	18.1%	18.6%	11.7%	14.2%	8.7%	25.0%	12.9%
そもそもそういう活動があることを 知らなかったから	19.7%	21.3%	7.3%	28.9%	14.9%	19.4%	20.4%	24.3%	25.0%	6.5%
既に活動している個人や団体があり、 自分が取り組む必要性を感じないから	6.7%	11.0%	9.8%	4.0%	4.3%	5.8%	8.0%	2.9%	0.0%	12.9%
県や市など行政が取り組むべき ことだから	9.6%	4.9%	13.4%	14.1%	9.9%	11.7%	8.0%	7.8%	0.0%	6.5%
興味がわからないから	4.8%	3.7%	6.1%	6.0%	4.3%	4.9%	6.2%	2.9%	0.0%	6.5%
その他	4.8%	5.5%	4.9%	4.7%	6.2%	2.9%	4.4%	3.9%	0.0%	6.5%
無回答	4.0%	6.1%	3.7%	3.4%	3.7%	4.9%	3.5%	1.0%	0.0%	6.5%

地域活動の解決に向けた活動に取り組んだ経験がないと回答した 910 名に、その理由について質問した。

全ての地区で、「忙しいため、取り組む時間がないから」という回答割合が最も高く、全県で 54.2%であった。次いで、「やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから」で、全県で 26.6%であり、芳賀地区を除いた 6 地区で、2 番目に高い回答割合であった。

イ 性別にみた状況

【表 21】

取り組んでいない理由 (性別)	全 県 n=910	女 性 n=580	男 性 n=284	無 回 答 n=46
忙しいため、 取り組む時間がないから	54.2%	51.6%	59.2%	56.5%
友人や家族など身近な人が やっていないから	15.7%	16.6%	16.2%	2.2%
1 人だとやりたくないから	12.1%	11.9%	14.1%	2.2%
やりたい気持ちはあるが、活動に 誘われるなどのきっかけがないから	26.6%	26.9%	25.7%	28.3%
アイディアや人間関係など 自信がないから	15.2%	16.4%	13.7%	8.7%
そもそもそういう活動があることを 知らなかったから	19.7%	19.8%	19.7%	17.4%
既に活動している個人や団体があり、 自分が取り組む必要性を感じないから	6.7%	6.2%	7.7%	6.5%
県や市など行政が取り組むべき ことだから	9.6%	9.3%	10.2%	8.7%
興味がわからないから	4.8%	4.7%	4.9%	6.5%
その他	4.8%	5.2%	3.5%	8.7%
無回答	4.0%	5.0%	1.4%	6.5%

「忙しいため、取り組む時間がないから」が、男性が女性を約 8 ポイント上回った。それ以外の項目については、性別による差異はみられなかった。

ウ 年代別にみた状況

【表 22】

取り組んでいない理由 (年代別)	全 県 n=910	20歳代 n=22	30歳代 n=157	40歳代 n=242	50歳代 n=214	60歳代 n=182	70歳以上 n=72	無 回 答 n=21
忙しいため、 取り組む時間がないから	54.2%	54.5%	58.6%	55.4%	73.4%	35.7%	30.6%	52.4%
友人や家族など身近な人が やっていないから	15.7%	13.6%	19.1%	14.0%	12.1%	20.3%	16.7%	4.8%
1人だとやりたくないから	12.1%	9.1%	12.1%	11.6%	10.3%	17.6%	9.7%	0.0%
やりたい気持ちはあるが、活動に 誘われるなどのきっかけがないから	26.6%	22.7%	21.7%	21.5%	20.6%	40.1%	37.5%	33.3%
アイデアや人間関係など 自信がないから	15.2%	27.3%	15.3%	14.5%	10.7%	21.4%	12.5%	9.5%
そもそもそういう活動があることを 知らなかったから	19.7%	18.2%	26.1%	25.2%	10.7%	18.1%	20.8%	9.5%
既に活動している個人や団体があり、 自分が取り組む必要性を感じないから	6.7%	4.5%	2.5%	5.0%	8.9%	9.3%	8.3%	9.5%
県や市など行政が取り組むべき ことだから	9.6%	0.0%	15.3%	9.1%	10.7%	8.2%	2.8%	4.8%
興味がわからないから	4.8%	13.6%	4.5%	3.7%	5.6%	4.9%	5.6%	0.0%
その他	4.8%	9.1%	4.5%	3.7%	5.6%	4.4%	5.6%	9.5%
無回答	4.0%	0.0%	1.3%	2.9%	1.4%	7.7%	11.1%	9.5%

全ての年代で、「忙しいため、取り組む時間がないから」の割合が最も高かったが、とりわけ 50 歳代で 73.4%と突出している。30・40 歳代では「そもそもそういう活動があることを知らなかったから」が、60 歳代・70 歳以上では「やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから」の回答割合が高かった。

エ 取り組んでいない理由についての過去の調査との比較
【表 23】

取り組んでいない理由 (経年比較)	今回調査 (R1)	前回調査 (H24)	今回調査と 前回調査の 増減
	n=910	n=1,778	
忙しいため、 取り組む時間がないから	54.2%	49.7%	4.5%
友人や家族など身近な人が やっていないから	15.7%	—	—
1人だとやりたくないから (前回調査：仲間がいないから)	12.1%	24.7%	-12.6%
やりたい気持ちはあるが、活動に 誘われるなどのきっかけがないから	26.6%	—	—
アイデアや人間関係など 自信がないから	15.2%	23.5%	-8.3%
そもそもそういう活動があることを 知らなかったから	19.7%	—	—
既に活動している個人や団体があり、 自分が取り組む必要性を感じないから	6.7%	8.2%	-1.5%
県や市など行政が取り組むべき ことだから	9.6%	12.5%	-2.9%
興味がわからないから	4.8%	10.6%	-5.8%
その他	4.8%	5.8%	-1.0%
無回答	4.0%	—	—

前回調査と比較して選択肢を増やした（一部変更した）ので単純比較はできないが、やはり「忙しいため、取り組む時間がないから」という理由が、前回調査に続いて回答割合が最も高い項目となった。

残りの項目は全て前回調査よりも回答割合が減少した。しかし、今回調査に新たに追加した項目「やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから」が約 27%、「そもそもそういう活動があることを知らなかった」が約 20%と回答割合が高かった。

《参考：問 7「その他」の主な回答記述》◎は特に回答が多かった記述

- ◎どう取り組んでいいかわからないから
- ◎家庭内に介護する人がいるため
- ◎小さな子どもがいて活動ができるかわからないから
- ◎引っ越して間がなく地域になじめていないから
- 個人で解決できる課題ではないため
- 情報が少ないから
- 高齢で自分のことで精一杯であるから

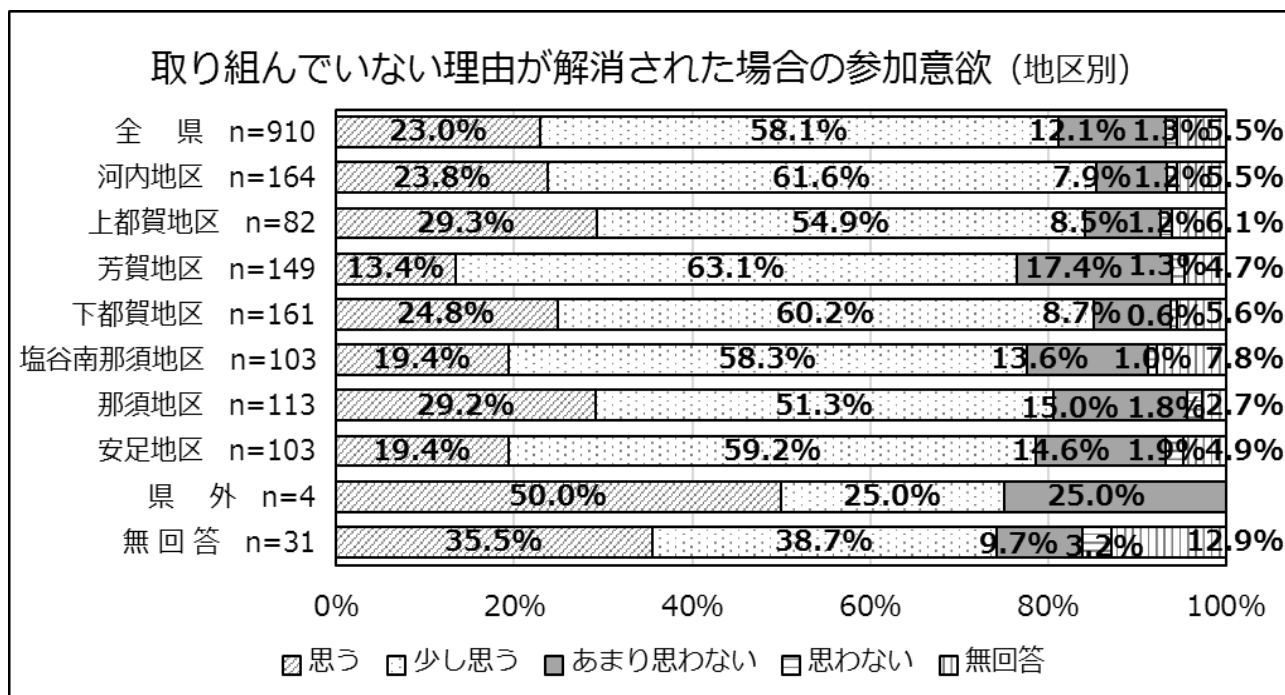
(9) 取り組んでいない理由が解消された場合の参加意欲

問8 問2で「取り組んでいない」と回答された方にうかがいます。取り組んでいない理由が解消された場合、地域課題解決に向けた活動に取り組もうと思いますか。最もよくあてはまる番号1つに○をつけてください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた状況

【図 17】

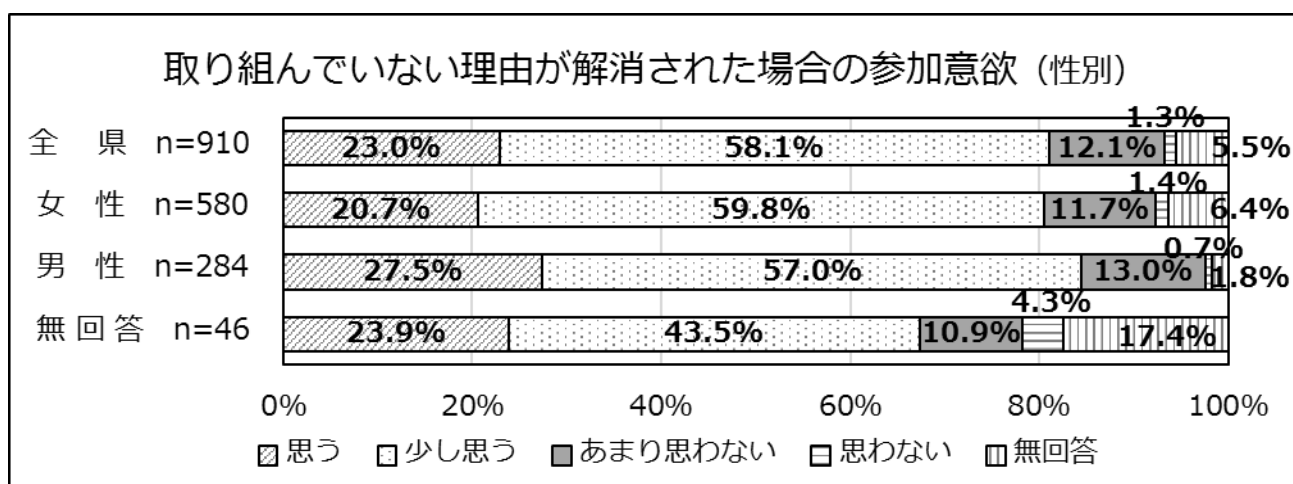


「取り組もうと思う」「取り組もうと少し思う」それぞれの割合は、地区間により多少のばらつきはあるが、両者の回答割合の合計は各地区で80%前後であった。

全県でみると、「取り組もうと思う」が約23%、「取り組もうと少し思う」が約58%となった。

イ 性別にみた状況

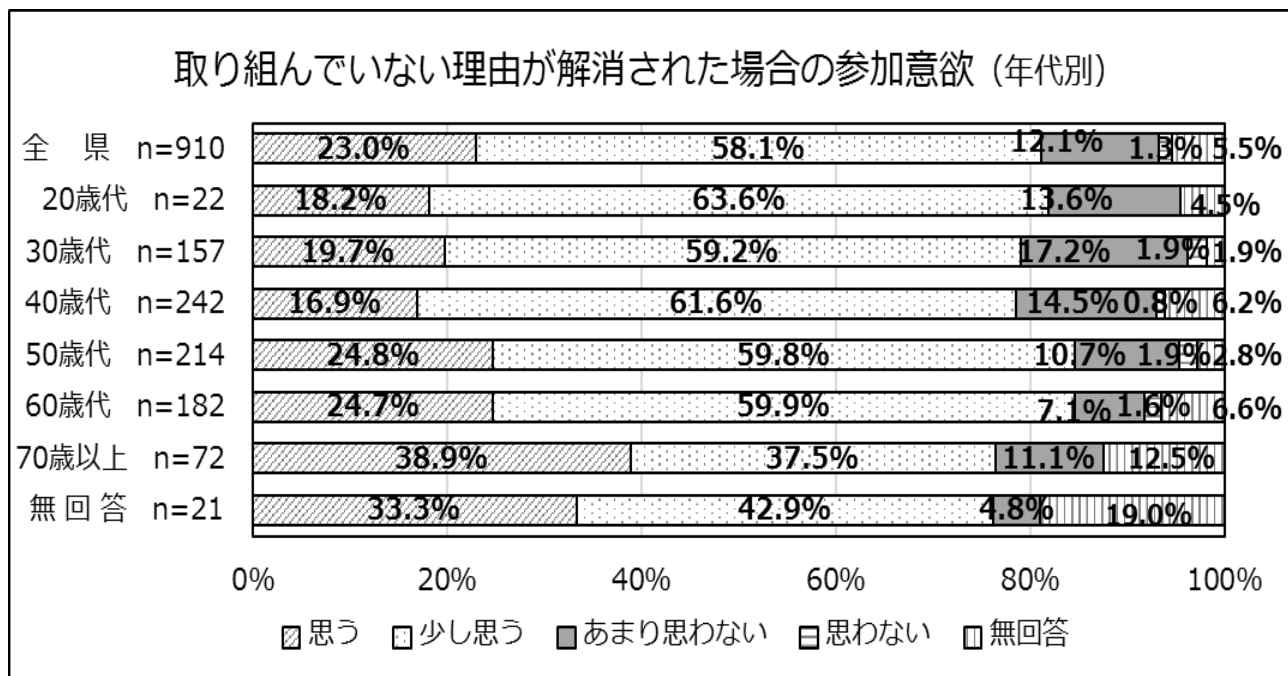
【図 18】



「取り組もうと思う」と積極的な意欲を示す回答割合は、男性が女性を約 7 ポイント上回った。「取り組もうと思う」「取り組もうと少し思う」の合計でも、男性が女性を約 4 ポイント上回っている。

ウ 年代別に見た状況

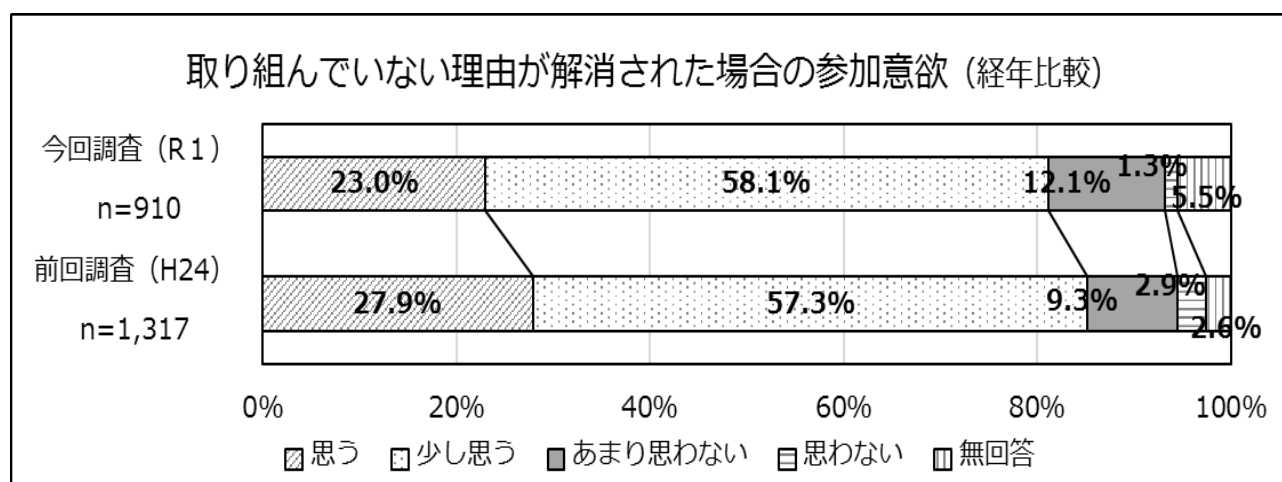
【図 19】



「取り組もうと思う」と積極的な意欲を示す回答は、多少のばらつきがあるものの、基本的に年代が上がるにつれて回答割合が高くなった。「取り組もうと思う」「取り組もうと少し思う」の合計は、各年代とも 80% 前後の回答割合となった。特に、50・60 歳代は、85% に近い回答割合となった。

工 取り組まない理由が解消された場合の参加意欲についての過去の調査との比較

【図 20】



「取り組もうと思う」と積極的に参加する意欲を示す回答割合は、前回調査より約 5 ポイント減少した。また、「取り組もうと思う」「取り組もうと少し思う」の回答割合の合計も、前回調査より約 4 ポイント減少した。

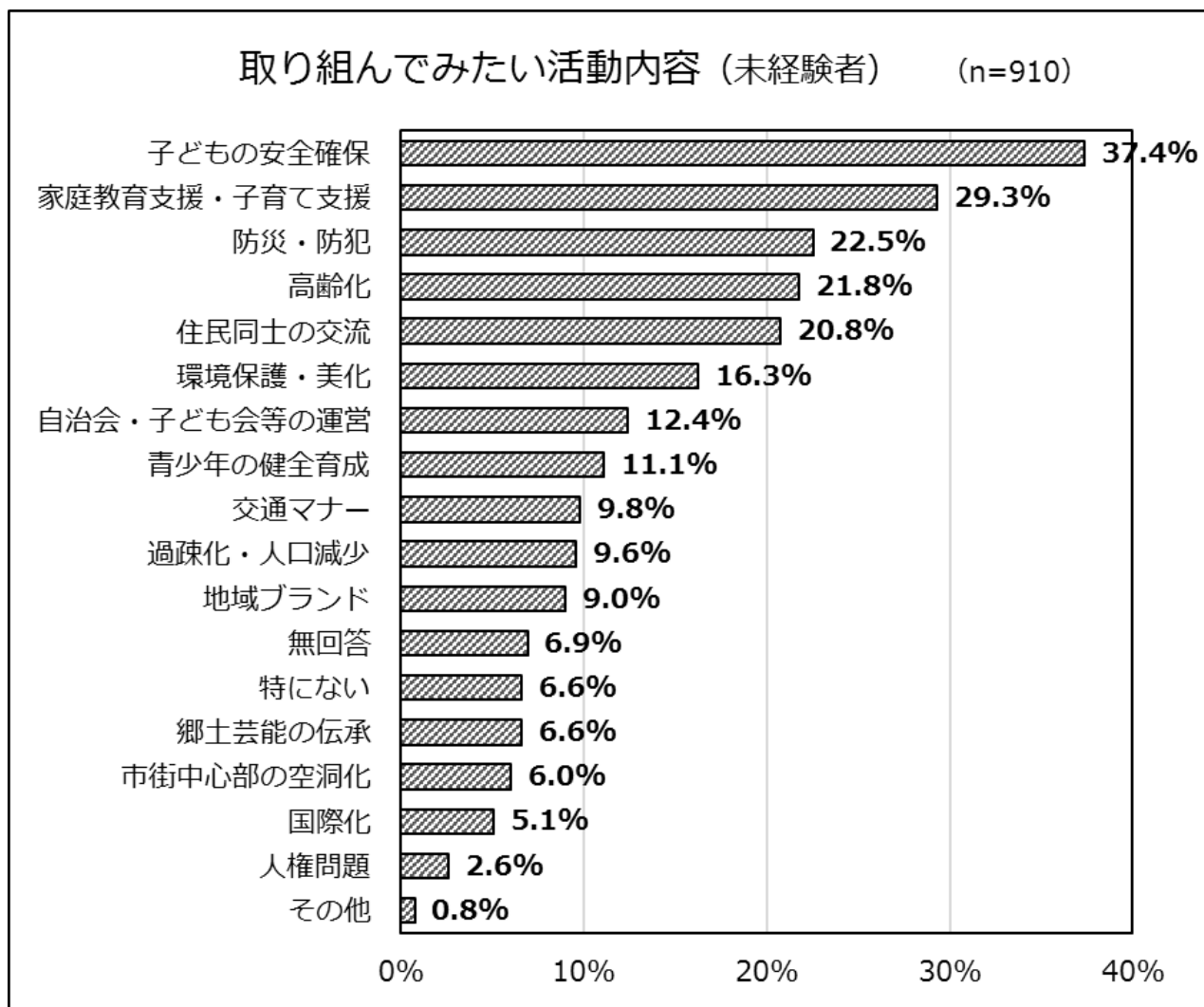
(10) 活動未経験者の取り組んでみたい活動内容

問9 問2で「取り組んでいない」と回答された方にうかがいます。どのような活動であれば、取り組んでみたいですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた状況

【図 21】



全県でみると、「子どもの安全確保」の回答割合が約 37%と最も高く、唯一 30%を超えた。次いで、「家庭教育支援」「防災・防犯」となった。

【表 24】

取り組んでみたい活動内容 (地区別)	全 県 n=910	河内地区 n=164	上都賀地区 n=82	芳賀地区 n=149	下都賀地区 n=161	塩谷南那須地区 n=103	那須地区 n=113	安足地区 n=103	県 外 n=4	無 回 答 n=31
防災・防犯	22.5%	31.7%	19.5%	18.1%	23.6%	24.3%	23.0%	16.5%	50.0%	6.5%
子どもの安全確保	37.4%	32.3%	36.6%	52.3%	36.0%	32.0%	38.9%	34.0%	50.0%	22.6%
家庭教育支援・子育て支援	29.3%	22.0%	22.0%	37.6%	31.1%	28.2%	23.0%	39.8%	50.0%	29.0%
青少年の健全育成	11.1%	11.0%	6.1%	10.1%	13.0%	5.8%	16.8%	12.6%	25.0%	9.7%
郷土芸能の伝承	6.6%	7.9%	6.1%	6.0%	5.6%	6.8%	8.8%	6.8%	0.0%	0.0%
自治会・子ども会等の運営	12.4%	12.2%	11.0%	15.4%	13.7%	11.7%	11.5%	11.7%	0.0%	6.5%
住民同士の交流	20.8%	33.5%	19.5%	11.4%	24.2%	18.4%	20.4%	11.7%	50.0%	19.4%
高齢化	21.8%	34.8%	18.3%	10.1%	24.2%	18.4%	20.4%	18.4%	25.0%	32.3%
地域ブランド	9.0%	7.9%	12.2%	8.7%	9.3%	7.8%	12.4%	7.8%	0.0%	3.2%
国際化	5.1%	6.7%	6.1%	3.4%	7.5%	1.0%	3.5%	4.9%	25.0%	6.5%
過疎化・人口減少	9.6%	3.0%	17.1%	10.1%	7.5%	11.7%	15.0%	7.8%	25.0%	9.7%
環境保護・美化	16.3%	22.6%	15.9%	10.7%	16.8%	18.4%	15.9%	11.7%	25.0%	16.1%
人権問題	2.6%	1.2%	7.3%	3.4%	2.5%	1.9%	2.7%	1.9%	0.0%	0.0%
市街中心部の空洞化	6.0%	3.7%	11.0%	6.0%	5.6%	5.8%	7.1%	4.9%	25.0%	6.5%
交通マナー	9.8%	14.0%	8.5%	6.0%	12.4%	8.7%	8.8%	10.7%	0.0%	0.0%
特にない	6.6%	4.9%	3.7%	8.7%	4.3%	7.8%	9.7%	5.8%	50.0%	6.5%
その他	0.8%	0.6%	1.2%	2.0%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	6.9%	4.9%	7.3%	6.7%	5.0%	11.7%	4.4%	9.7%	0.0%	12.9%

地区別にみると、全県で最上位だった「子どもの安全確保」は、河内、安足を除いた 5 地区で最上位となっており、特に芳賀地区では 50%を超えた。また、安足地区では「家庭教育支援」、河内地区では、「高齢化」が最上位となった。

項目毎にみると、「高齢化」が最も回答割合の高い地区と低い地区の差が約 25 ポイント、「住民同士の交流」で約 22 ポイントの差があった（県外、無回答は除く）。

イ 性別にみた状況

【表 25】

取り組んでみたい活動内容 (性別)	全 県 n=910	女 性 n=580	男 性 n=284	無 回 答 n=46
防災・防犯	22.5%	19.5%	30.6%	10.9%
子どもの安全確保	37.4%	39.7%	32.4%	39.1%
家庭教育支援・子育て支援	29.3%	37.8%	14.1%	17.4%
青少年の健全育成	11.1%	10.9%	12.7%	4.3%
郷土芸能の伝承	6.6%	6.4%	7.4%	4.3%
自治会・子ども会等の運営	12.4%	12.8%	12.3%	8.7%
住民同士の交流	20.8%	16.4%	28.9%	26.1%
高齢化	21.8%	19.0%	27.1%	23.9%
地域ブランド	9.0%	7.8%	12.7%	2.2%
国際化	5.1%	5.2%	4.9%	4.3%
過疎化・人口減少	9.6%	5.7%	16.9%	13.0%
環境保護・美化	16.3%	16.0%	17.3%	13.0%
人権問題	2.6%	2.9%	2.1%	2.2%
市街中心部の空洞化	6.0%	5.3%	7.0%	8.7%
交通マナー	9.8%	10.0%	10.6%	2.2%
特にない	6.6%	6.4%	6.0%	13.0%
その他	0.8%	0.9%	0.7%	0.0%
無回答	6.9%	8.4%	2.5%	15.2%

5 ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、6 項目に差異があるといえる。

女性が男性を上回ったものは2項目で、特に「家庭教育支援・子育て支援」では、約 24 ポイントの差があった。それに対して、男性が女性を上回ったものは4項目あり、中でも「防災・防犯」「住民同士の交流」「過疎化・人口減少」では10 ポイント以上の差があった。

ウ 年代別に見た状況
【表 26】

取り組んでみたい活動内容 (年代別)	全 県 n=910	20歳代 n=22	30歳代 n=157	40歳代 n=242	50歳代 n=214	60歳代 n=182	70歳以上 n=72	無 回 答 n=21
防災・防犯	22.5%	4.5%	22.9%	19.8%	21.5%	24.2%	37.5%	14.3%
子どもの安全確保	37.4%	40.9%	61.8%	40.9%	39.3%	17.6%	19.4%	23.8%
家庭教育支援・子育て支援	29.3%	40.9%	42.7%	31.4%	29.0%	19.8%	19.4%	14.3%
青少年の健全育成	11.1%	9.1%	15.3%	10.7%	15.0%	7.1%	4.2%	4.8%
郷土芸能の伝承	6.6%	22.7%	5.1%	3.3%	9.3%	8.2%	5.6%	0.0%
自治会・子ども会等の運営	12.4%	18.2%	17.8%	14.9%	9.8%	9.9%	8.3%	0.0%
住民同士の交流	20.8%	22.7%	12.7%	14.5%	15.4%	34.1%	40.3%	23.8%
高齢化	21.8%	13.6%	7.6%	9.9%	22.0%	37.9%	50.0%	33.3%
地域ブランド	9.0%	22.7%	8.9%	8.7%	13.1%	6.0%	2.8%	4.8%
国際化	5.1%	4.5%	5.1%	5.8%	4.7%	4.4%	4.2%	9.5%
過疎化・人口減少	9.6%	13.6%	8.9%	10.3%	8.4%	9.9%	9.7%	9.5%
環境保護・美化	16.3%	13.6%	15.3%	9.1%	17.8%	22.0%	22.2%	23.8%
人権問題	2.6%	4.5%	3.8%	2.9%	2.3%	2.2%	1.4%	0.0%
市街中心部の空洞化	6.0%	9.1%	4.5%	7.4%	5.1%	6.0%	6.9%	4.8%
交通マナー	9.8%	4.5%	13.4%	10.3%	6.1%	11.0%	12.5%	0.0%
特にない	6.6%	0.0%	8.9%	8.3%	7.9%	3.8%	2.8%	0.0%
その他	0.8%	0.0%	0.6%	1.7%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	6.9%	4.5%	3.8%	9.5%	4.2%	6.6%	11.1%	19.0%

「子どもの安全確保」「家庭教育支援・子育て支援」では 20～50 歳代が、「防災・防犯」「住民同士の交流」「高齢化」「環境保護・美化」では 60 歳代・70 歳以上の回答割合がそれぞれ高かった。

《参考：問 9「その他」の主な回答記述》

- 介護予防、健康づくりへの取組
- 子どもの居場所づくり（子ども食堂の運営等）
- 若者が戻りやすい環境づくり

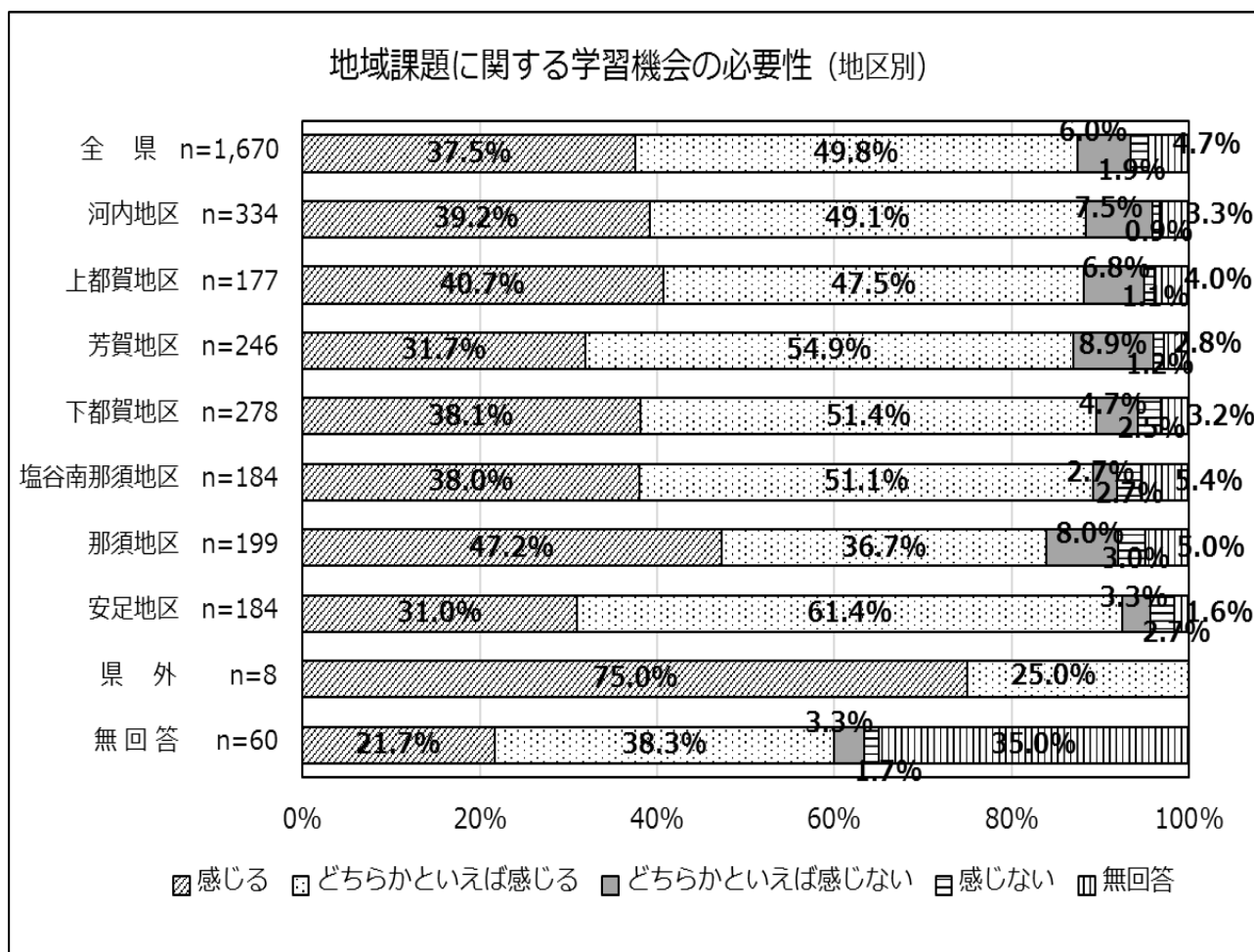
(11) 地域課題に関する学習機会の必要性

問 10 地域課題に関して学習する機会の必要性を感じますか。最もよくあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた状況

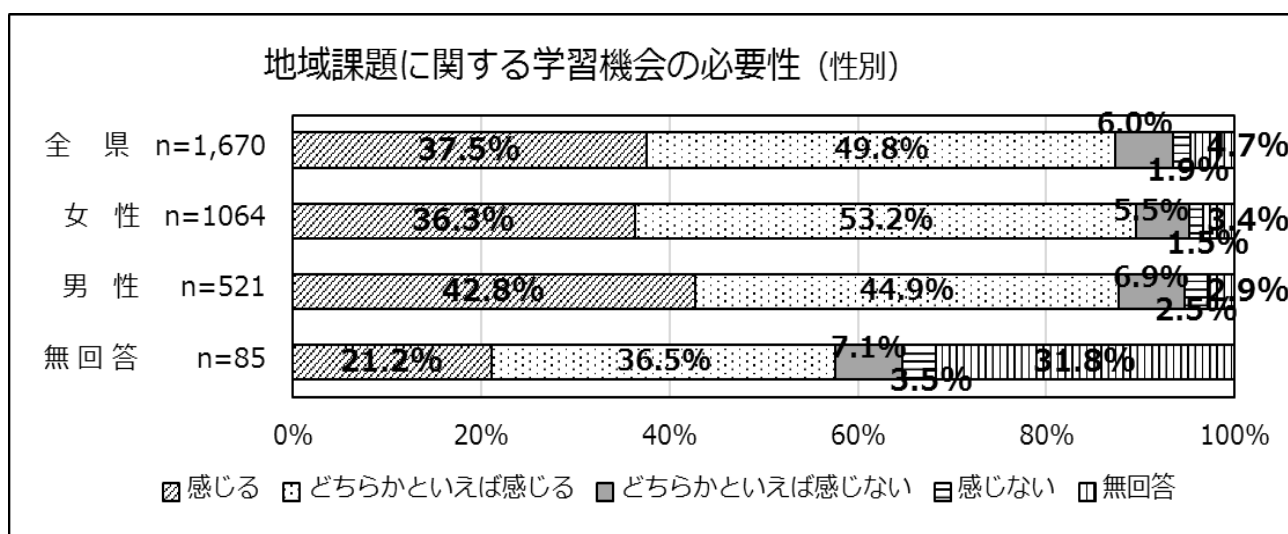
【図 22】



学習機会の必要性を「感じる」「どちらかといえば感じる」それぞれの割合は、地区間により多少のばらつきはあるが、両者の回答割合の合計は各地区で 80%を超えた。特に、那須地区で「感じる」と回答した割合が約 47%と、全県での 37.5%を約 10 ポイントも上回っていることや、安足地区で「感じる」「どちらかといえば感じる」の回答割合の合計が 90%を超えていることがみえてくる。

イ 性別にみた状況

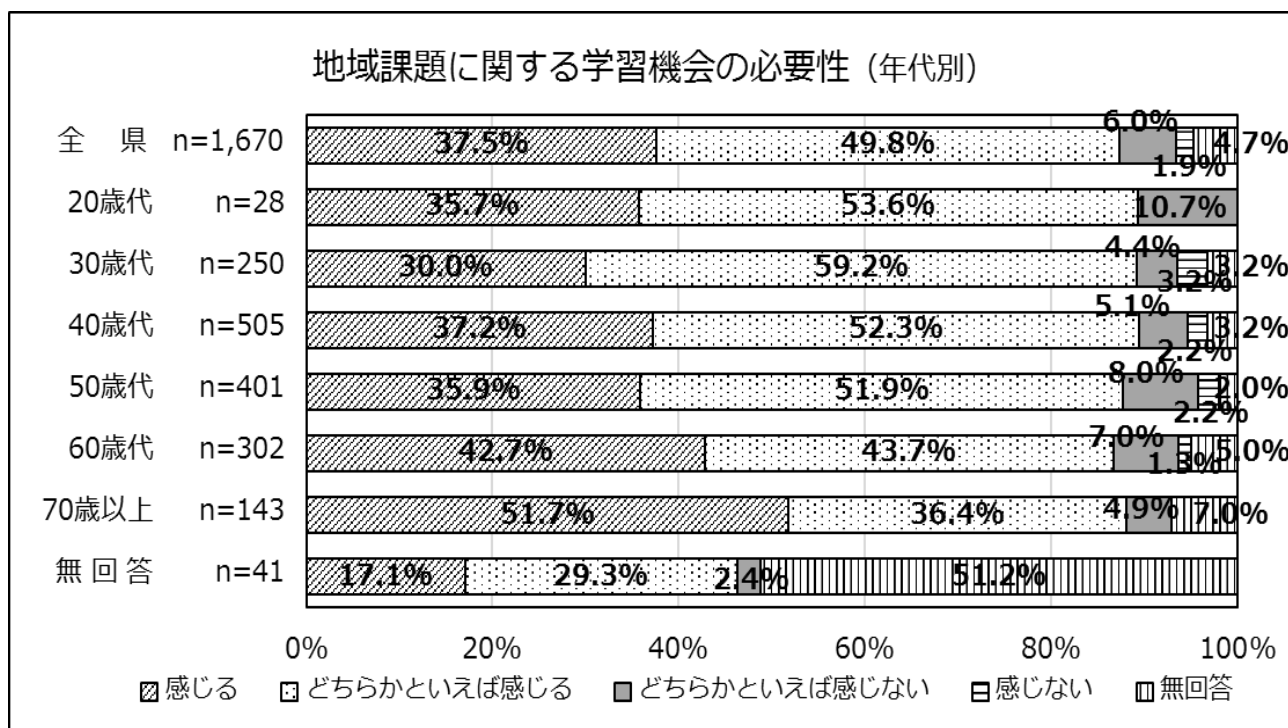
【図 23】



「感じる」と回答した割合は、男性が女性を 6.5 ポイント上回った。しかし、「感じる」「どちらかといえば感じる」両者の合計での回答割合では、女性が男性を約 2 ポイント上回った。

ウ 年代別に見た状況

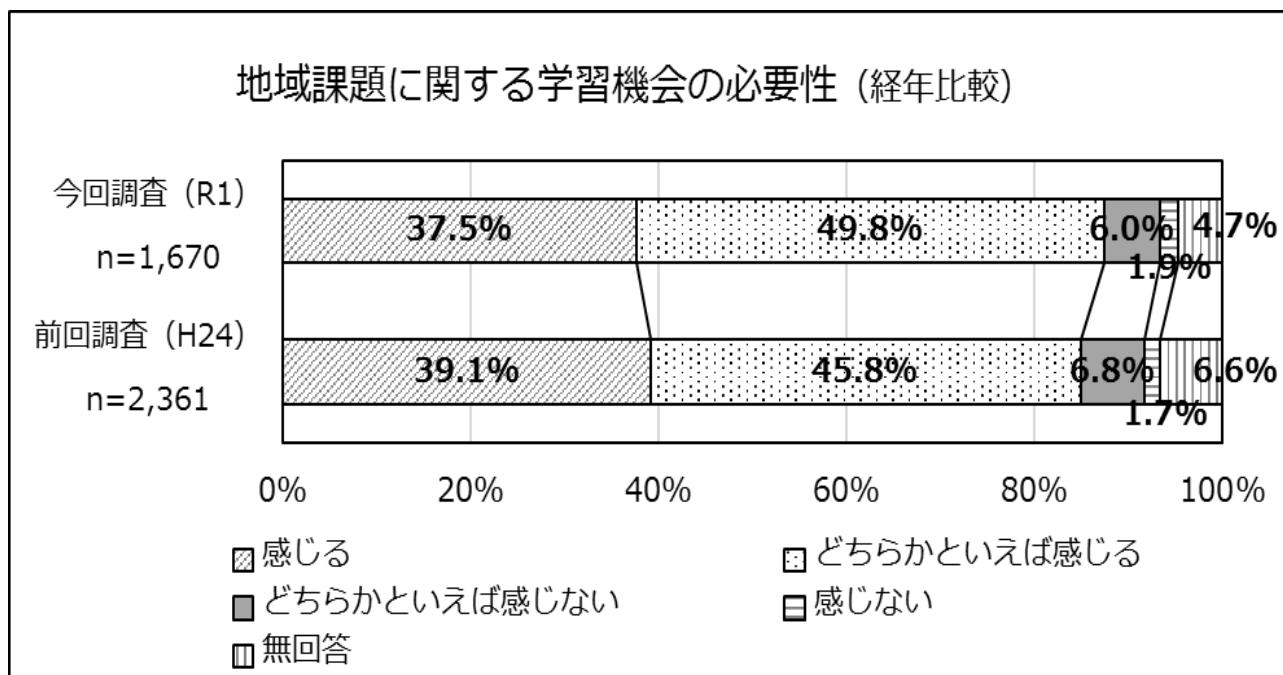
【図 24】



「感じる」と回答した割合は 60 歳代・70 歳以上で高く、特に 70 歳以上では過半数である。しかし、「感じる」「どちらかといえば感じる」両者の回答割合の合計は、どの年代も 85～90%であり、年代間による大きな差異はみられない。

工 地域課題に関する学習機会の必要性についての過去の調査との比較

【図 25】



「感じる」と回答した割合は、前回調査と比較し 1.6 ポイント減少した。しかし、「感じる」「どちらかといえば感じる」両者の回答割合の合計では、前回調査と比較し 2.4 ポイント増加しており、前回調査よりも、さらに地域課題に関する学習機会を求めるニーズは高まっているといえるだろう。

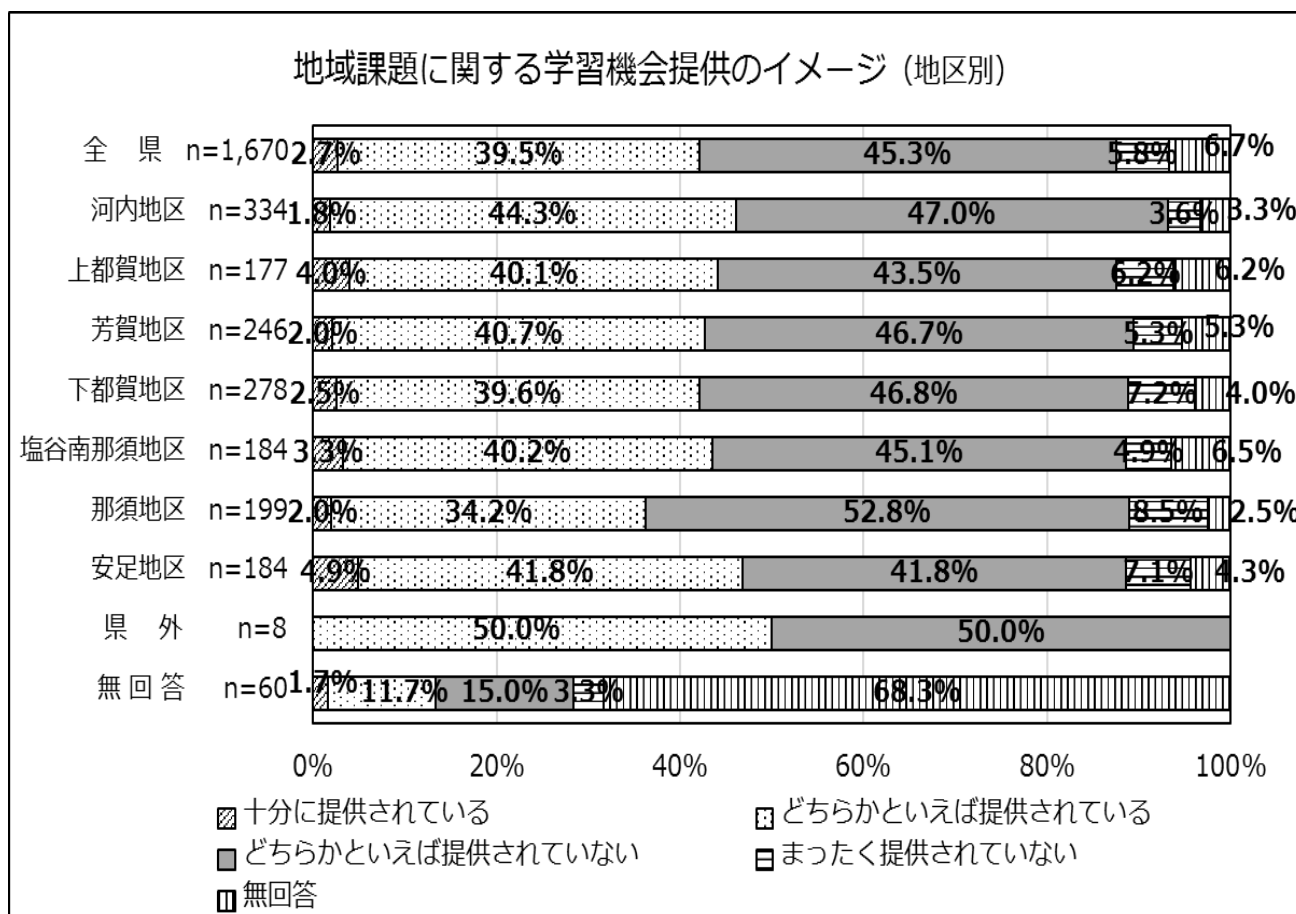
(12) 地域課題に関する学習機会提供のイメージ

問 11 地域課題に関して学習する機会は、十分に提供されていると感じますか。
最もよくあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた状況

【図 26】

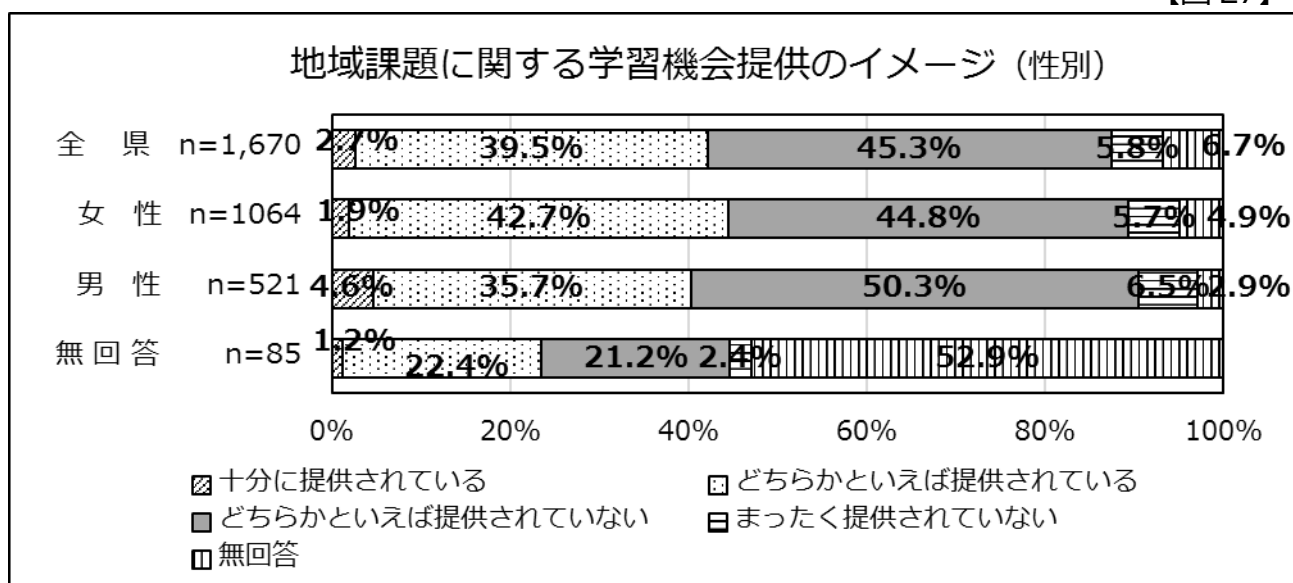


本設問では個人の感覚に大きく依存する表現を使用しており、回答に実際提供されている状況が反映されるか定かではないため、学習機会提供の「イメージ」として捉えることとする。「十分提供されている」「まったく提供されていない」という回答割合は低く、「どちらかといえば提供されている」「どちらかといえば提供されていない」という回答割合が極めて高かった。また、無回答の割合も他の設問と比較するとやや高かった。

その中で、いずれの地区も、「十分提供されている」「どちらかといえば提供されている」という肯定的なイメージよりも「どちらかといえば提供されていない」「まったく提供されていない」という否定的なイメージがやや上回った。地区間による傾向は変わらず、大きな差異はみられない。

イ 性別にみた状況

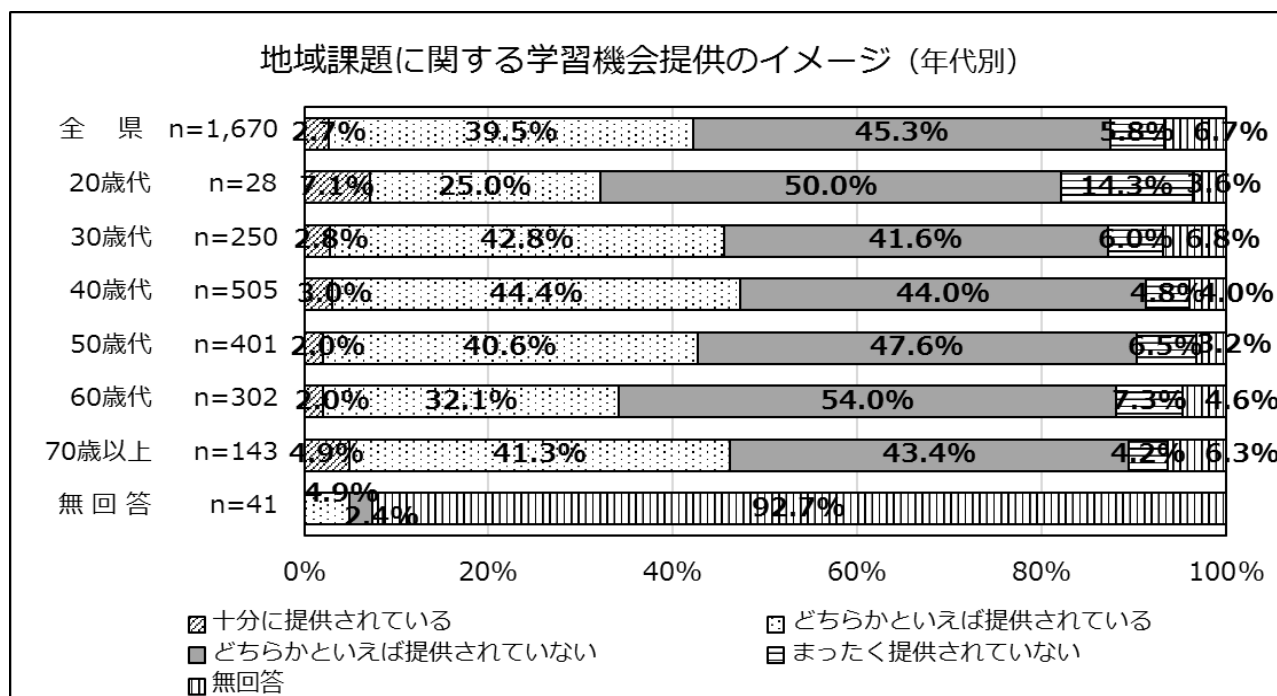
【図 27】



「十分提供されている」「どちらかといえば提供されている」という肯定的なイメージは、女性が男性よりも 4.3 ポイント上回った。それに対応して、「どちらかといえば提供されていない」「まったく提供されていない」という否定的なイメージは、男性が女性よりも 6.3 ポイント上回った。

ウ 年代別に見た状況

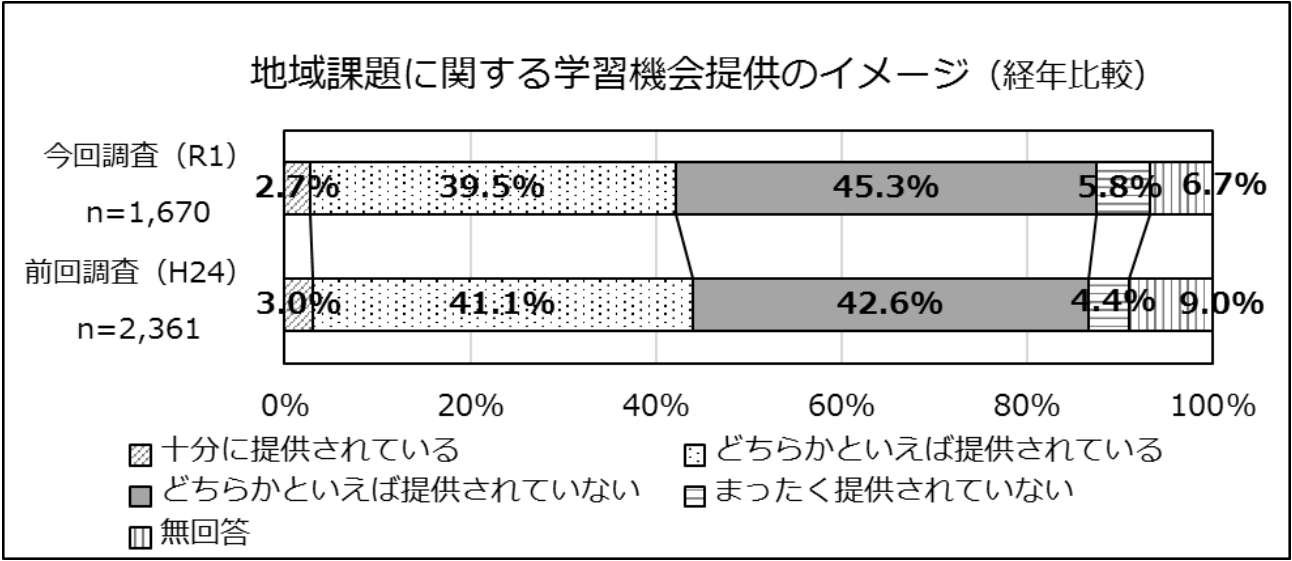
【図 28】



30～50 歳代と 70 歳以上は、肯定的なイメージが 45%前後、否定的なイメージが 50%前後であるが、20 歳代と 60 歳代は、肯定的なイメージが 30%台前半、否定的なイメージが 60%台前半となった。

工 地域課題に関する学習機会提供のイメージについての過去の調査との比較

【図 29】



「十分に提供されている」「どちらかといえば提供されている」という肯定的なイメージは、前回調査よりも 1.9 ポイント減少した。それに対応して、「どちらかといえば提供されていない」「まったく提供されていない」という否定的なイメージは、前回調査よりも 4.1 ポイント増加し、半数を超えた。

(13) 地域活動に対するそれぞれの思い

問 12 その他、地域活動全般について、自由にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

アンケート調査回答者の地域活動全般に関する自由記述について、主なものを下に挙げた。

《参考：問 12 の主な回答記述》◎は特に回答が多かった記述

- ◎地域活動においては、地域住民の温度差があり、活躍する人、活動できる人が限られてくる。役割として兼任などが多くなるため、1 人ひとりが活躍できるようにいろいろな人を巻き込んでいけると、活性化するのではないかなと思う。
- ◎地域活動は誰かがやってくれるのを待つものではなく、地域住民みんなが自ら何ができるかを考え実践することから始まるものだと考える。自分のことと実感してもらうことが大切なのではないかなと思う。
- 地域課題に関しての学習の機会はあるが、一般の立場からすると仕事の都合をつけてまで参加することは困難である。参加しやすい時間等はもちろんのこと、学習する機会に参加することで何が得られるかをもっと理解できるような工夫をしてほしい。
- 地域を自治会などの運営によってよりよくする考え方は、都市部では既に有名無実なのではないか。そもそもつながりがないし、ない方が安心という方が多い。
- 情報が提供されていたとしても、一般にその情報が浸透していない。消極的な情報提供ではなく、有効な手立てを考えるべきだと思う。
- 学校の統合に伴って、学校から遠い地域は学区内の活動と受け入れられにくく、子どもから老人までの活動をすることが大変になっている。
- 昼夜の人口構成の変化を考えると、企業などの労働人口にも目を向け、地域課題とともに考える必要性を感じる。
- 現在の住居環境は、自治会などに入っていないために地域住民との交流が十分確保されていない。これからは、マンション住民としてどのように活動していくか考えて行動する必要があると思われる。
- 地域が必要としていることと自分のできることが合致するための情報と、それをコーディネートする窓口があると良いと思う。
- 地域活動は確かに必要である。しかし、既に活動している方々に、新しい方々にとって入りにくい雰囲気があったり、活動への取組手段（昔からのやり方がある！など）に固執されたりすると、なかなか活動に取り組みにくい。
- 地域のコミュニティがしっかりと整備されているところとされていないところの地域差を感じており、保護者や地域の大人の意識の差が子どもたちのものの考え方や見方にも影響を与えている。地域で子どもを育てようという意識のあるコミュニティならよいが、そうでないと子どもへの関わりが各家庭のみとなり、家庭教育のみでは困難を感じることも多い。地域の中心的な役割を担う人たちと若い世代や子ども、学校関係者が交流する場を設けて、地域ぐるみの子育てを実現したい。
- 2、3ヶ月に1度（多いと毎月）花いっぱい、ゴミ拾い、草刈りなどを行っているが、1度始めると、「やるべき（毎回出席すべき）」という空気があり、とても負担である。

2 高校生対象調査

(1) 回答数および回答率と回答者の属性

ア 回答数および回答率

(ア) 調査対象者	2, 7 9 5 名
(イ) 回答数	2, 6 9 2 名
(ウ) 回答率	9 6. 3 %

イ 回答者の属性

(ア) 地区別、性別、課程・学科別、学校所在地・居住地別回答数

【表 27】

地 区 別		
河 内 地 区	n= 636	23.6%
上都賀地区	n= 295	11.0%
芳 賀 地 区	n= 258	9.6%
下都賀地区	n= 594	22.1%
塩谷南那須地区	n= 250	9.3%
那 須 地 区	n= 320	11.9%
安 足 地 区	n= 339	12.6%
合 計	n= 2,692	100.0%

【表 29】

課 程・学 科 別		
全日制：普通・総合	n= 1,549	57.5%
全日制：職業系専門	n= 705	26.2%
定時制	n= 184	6.8%
通信制	n= 45	1.7%
特別支援学校	n= 209	7.8%
合 計	n= 2,692	100.0%

※地区は、学校の所在地により分類した。

【表 28】

性 別		
女 性	n= 1,293	48.0%
男 性	n= 1,299	48.3%
無 回 答	n= 100	3.7%
合 計	n= 2,692	100.0%

【表 30】

学校所在地・居住地		
同じ市町である	n= 1,261	46.8%
違う市町である	n= 1,352	50.2%
無回答	n= 79	2.9%
合 計	n= 2,692	100.0%

今回の調査では、全ての県立学校（高等学校、特別支援学校高等部〈附属中学校等は除く〉）に御協力いただき、2,692 名からの回答を得られた。

地区別にみると、学校数の多い河内地区、下都賀地区の割合がともに 20%を超えた。それ以外の地区については、9～13%の範囲内であった。

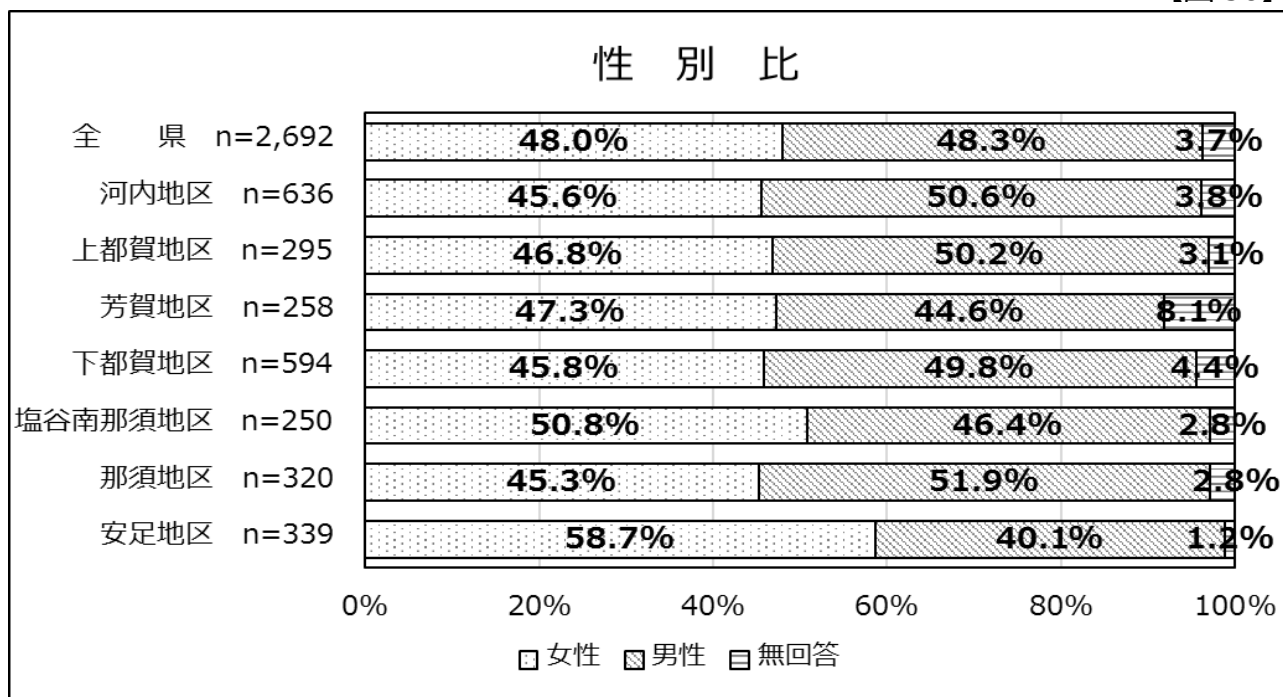
性別にみると、男女とも 48%前後とほぼ同数であった。

課程・学科別では、表 29 のように分類した。「全日制：普通・総合」は、普通科、普通系専門学科、総合学科に在籍する生徒を示す。「全日制：職業系専門」は、職業系専門学科に在籍する生徒を示す。

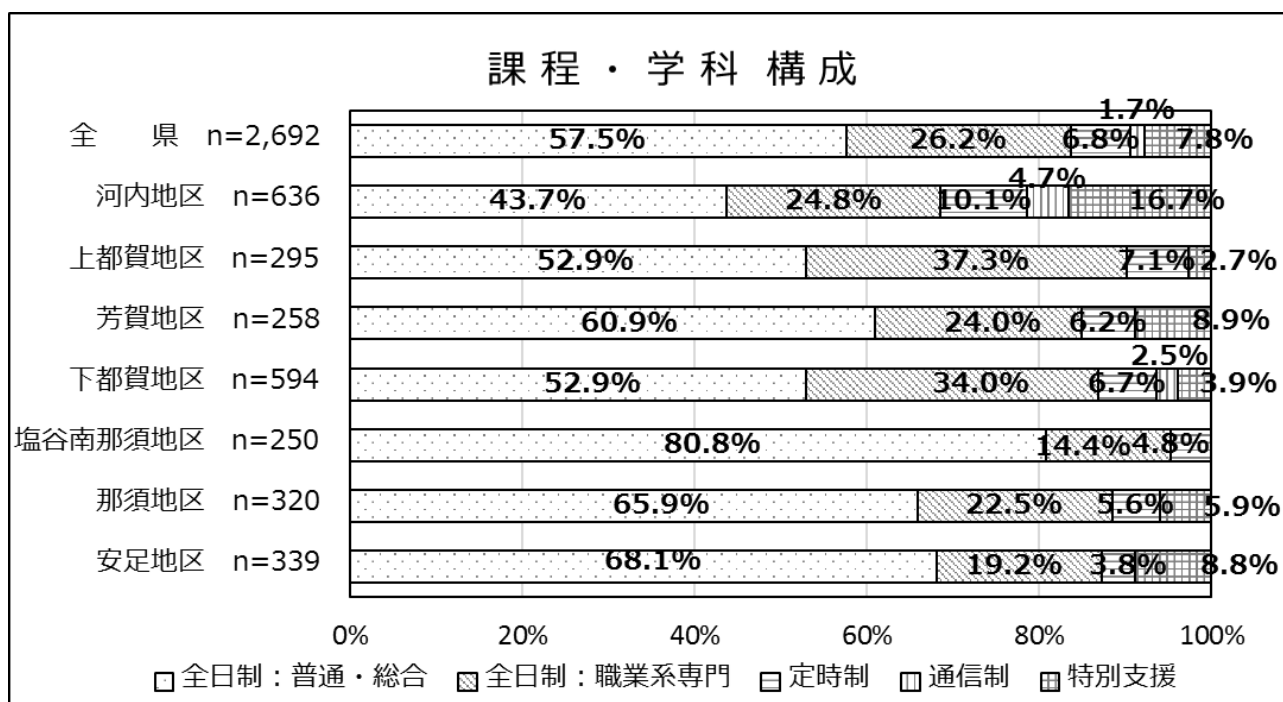
全日制的普通科、総合学科に在籍する生徒が 57.5%と半数を超えた。

学校所在地と居住地では、「違う市町である」が「同じ市町である」より 3.4 ポイント高かった。

【図 30】



【図 31】



性別比では、那須地区で男性の回答割合が、安足地区で女性の回答割合がそれぞれやや高かった。それ以外の地区については、男女の回答割合の差は5%以内であった。

課程・学科構成は、各地区に設置されている学校の課程・学科の数の影響もあり、塩谷南那須地区で、全日制の普通科、総合学科が80%を超えていること、河内地区で特別支援学校の割合が高いことなどが分かる。

(2) 地域課題の認識

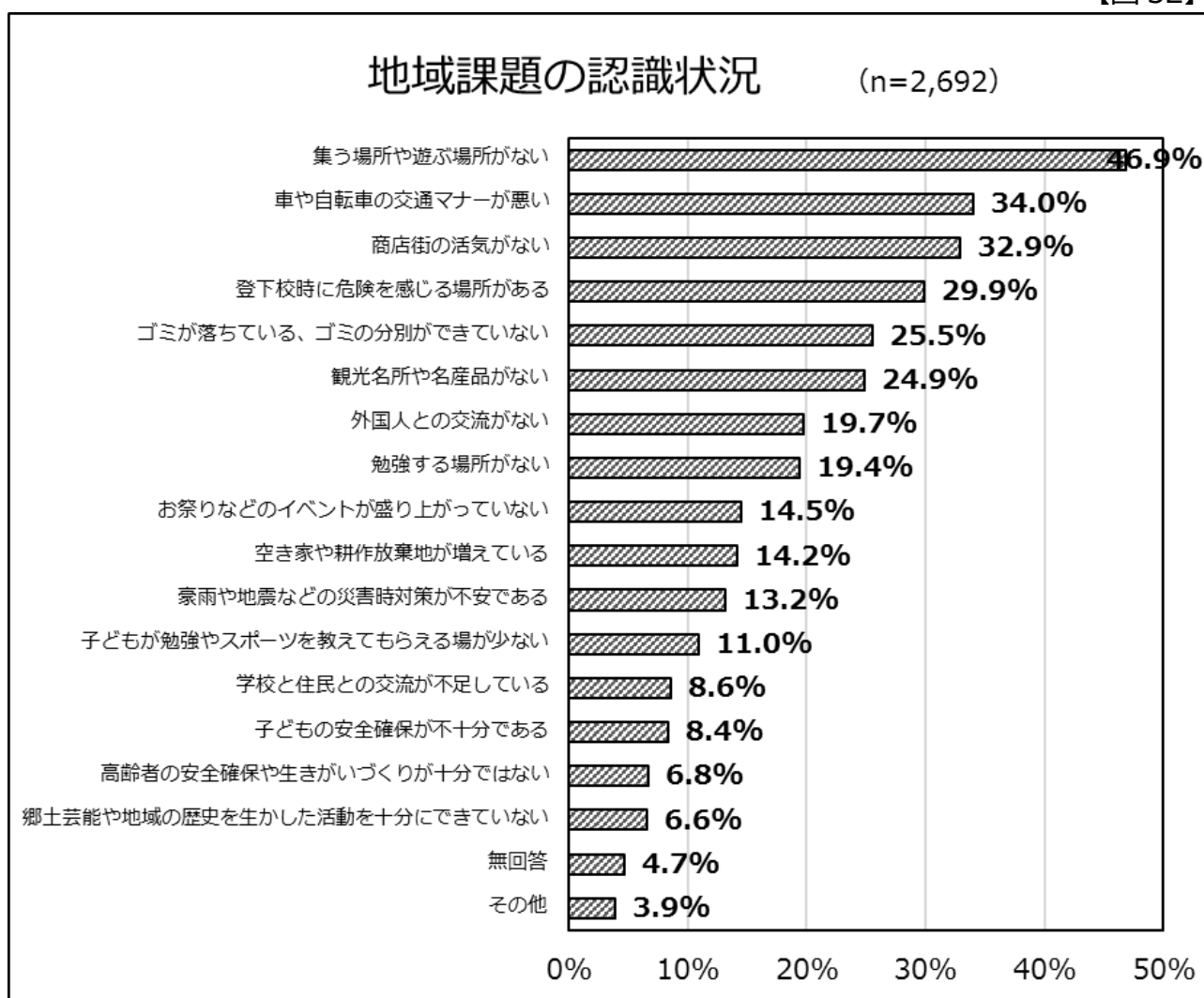
本調査における「地域」とは、あなたが通学する学校付近と定義した。また、「地域課題」とは、当該地域において、相対的に（周囲と比べて）整備状況、達成度が不十分と考えられるものと定義した。

問1 学校付近や通学時におけるあなたの困りごとや地域の気がかりなこと（地域課題）を教えてください。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた地域課題の認識状況

【図 32】



【表 31】

地域課題の認識状況 (各地区別)	全 県 n=2,692	河内地区 n=636	上都賀地区 n=295	芳賀地区 n=258	下都賀地区 n=594	塩谷南那須地区 n=250	那須地区 n=320	安足地区 n=339
集う場所や遊ぶ場所がない	46.9%	36.2%	58.6%	55.4%	42.6%	56.0%	53.8%	47.2%
車や自転車の交通マナーが悪い	34.0%	42.0%	34.6%	31.4%	29.1%	23.6%	34.7%	38.1%
勉強する場所がない	19.4%	19.5%	13.2%	17.4%	26.6%	16.8%	17.8%	18.1%
登下校時に危険を感じる場所がある	29.9%	31.9%	30.5%	35.7%	28.6%	20.8%	24.1%	37.8%
豪雨や地震などの災害時対策が不安である	13.2%	12.4%	19.3%	16.7%	12.6%	12.8%	6.9%	15.0%
ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない	25.5%	26.4%	31.9%	32.2%	24.6%	21.2%	20.6%	24.1%
学校と住民との交流が不足している	8.6%	8.5%	9.5%	13.2%	6.6%	8.4%	8.4%	9.1%
外国人との交流がない	19.7%	22.0%	18.3%	25.2%	14.6%	24.4%	18.4%	20.3%
お祭りなどのイベントが盛り上がっていない	14.5%	13.5%	10.8%	10.1%	14.0%	21.2%	15.0%	19.7%
高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない	6.8%	8.6%	6.4%	8.9%	4.9%	7.6%	5.3%	6.3%
子どもの安全確保が不十分である	8.4%	9.4%	10.5%	10.1%	6.6%	8.4%	6.6%	9.1%
観光名所や名産品がない	24.9%	29.4%	21.0%	24.0%	23.7%	33.2%	21.6%	20.6%
商店街の活気がない	32.9%	30.0%	37.3%	38.4%	26.1%	46.8%	30.3%	36.3%
空き家や耕作放棄地が増えている	14.2%	12.4%	16.3%	17.4%	9.9%	18.0%	13.1%	19.7%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない	6.6%	9.1%	5.4%	8.9%	4.2%	8.0%	5.6%	5.9%
子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない	11.0%	11.5%	11.2%	12.8%	9.9%	13.6%	9.4%	10.3%
その他	3.9%	5.0%	3.7%	5.0%	3.0%	3.6%	4.1%	3.1%
無回答	4.7%	4.4%	3.7%	3.5%	4.7%	4.4%	7.5%	4.7%

全県でみると、「集う場所や遊ぶ場所がない」の回答が約半数で、回答割合が最も高い結果となった。次いで、「車や自転車の交通マナーが悪い」「商店街の活気がない」となり、これら3項目が、30%を超える回答割合となった。高校生の日常生活に関わる項目について、回答割合が高い傾向にある。

地区別にみると、全県で最上位である「集う場所や遊ぶ場所がない」は、河内を除く6地区で最上位となっている。河内地区で最上位となるなど、市街地を多く含む地区では「車や自転車の交通マナーが悪い」等の回答割合が高く、農村部を多く含む地区では、「集う場所や遊ぶ場所がない」「商店街の活気がない」「空き地や耕作放棄地が増えている」等の回答割合が高いなど、地区間により大きな差異がみられる項目も複数あった。

【表 32】

	集う場所や遊ぶ場所がない		車や自転車の交通マナーが悪い		勉強する場所がない		登下校時に危険を感じる場所がある	
1	上都賀地区 n=295	58.6%	河内地区 n=636	42.0%	下都賀地区 n=594	26.6%	安足地区 n=339	37.8%
2	塩谷南那須地区 n=250	56.0%	安足地区 n=339	38.1%	河内地区 n=636	19.5%	芳賀地区 n=258	35.7%
3	芳賀地区 n=258	55.4%	那須地区 n=320	34.7%	安足地区 n=339	18.1%	河内地区 n=636	31.9%
4	那須地区 n=320	53.8%	上都賀地区 n=295	34.6%	那須地区 n=320	17.8%	上都賀地区 n=295	30.5%
5	安足地区 n=339	47.2%	芳賀地区 n=258	31.4%	芳賀地区 n=258	17.4%	下都賀地区 n=594	28.6%
6	下都賀地区 n=594	42.6%	下都賀地区 n=594	29.1%	塩谷南那須地区 n=250	16.8%	那須地区 n=320	24.1%
7	河内地区 n=636	36.2%	塩谷南那須地区 n=250	23.6%	上都賀地区 n=295	13.2%	塩谷南那須地区 n=250	20.8%

	豪雨や地震などの災害時対策が不安である		ゴミが落ちていて、ゴミの分別ができていない		学校と住民との交流が不足している		外国人との交流がない	
1	上都賀地区 n=295	19.3%	芳賀地区 n=258	32.2%	芳賀地区 n=258	13.2%	芳賀地区 n=258	25.2%
2	芳賀地区 n=258	16.7%	上都賀地区 n=295	31.9%	上都賀地区 n=295	9.5%	塩谷南那須地区 n=250	24.4%
3	安足地区 n=339	15.0%	河内地区 n=636	26.4%	安足地区 n=339	9.1%	河内地区 n=636	22.0%
4	塩谷南那須地区 n=250	12.8%	下都賀地区 n=594	24.6%	河内地区 n=636	8.5%	安足地区 n=339	20.3%
5	下都賀地区 n=594	12.6%	安足地区 n=339	24.1%	那須地区 n=320	8.4%	那須地区 n=320	18.4%
6	河内地区 n=636	12.4%	塩谷南那須地区 n=250	21.2%	塩谷南那須地区 n=250	8.4%	上都賀地区 n=295	18.3%
7	那須地区 n=320	6.9%	那須地区 n=320	20.6%	下都賀地区 n=594	6.6%	下都賀地区 n=594	14.6%

	お祭りなどのイベントが盛り上がっていない		高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない		子どもの安全確保が不十分である		観光名所や名産品がない	
1	塩谷南那須地区 n=250	21.2%	芳賀地区 n=258	8.9%	上都賀地区 n=295	10.5%	塩谷南那須地区 n=250	33.2%
2	安足地区 n=339	19.7%	河内地区 n=636	8.6%	芳賀地区 n=258	10.1%	河内地区 n=636	29.4%
3	那須地区 n=320	15.0%	塩谷南那須地区 n=250	7.6%	河内地区 n=636	9.4%	芳賀地区 n=258	24.0%
4	下都賀地区 n=594	14.0%	上都賀地区 n=295	6.4%	安足地区 n=339	9.1%	下都賀地区 n=594	23.7%
5	河内地区 n=636	13.5%	安足地区 n=339	6.3%	塩谷南那須地区 n=250	8.4%	那須地区 n=320	21.6%
6	上都賀地区 n=295	10.8%	那須地区 n=320	5.3%	下都賀地区 n=594	6.6%	上都賀地区 n=295	21.0%
7	芳賀地区 n=258	10.1%	下都賀地区 n=594	4.9%	那須地区 n=320	6.6%	安足地区 n=339	20.6%

	商店街の活気がない		空き家や耕作放棄地が増えている		郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない		子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない	
1	塩谷南那須地区 n=250	46.8%	安足地区 n=339	19.7%	河内地区 n=636	9.1%	塩谷南那須地区 n=250	13.6%
2	芳賀地区 n=258	38.4%	塩谷南那須地区 n=250	18.0%	芳賀地区 n=258	8.9%	芳賀地区 n=258	12.8%
3	上都賀地区 n=295	37.3%	芳賀地区 n=258	17.4%	塩谷南那須地区 n=250	8.0%	河内地区 n=636	11.5%
4	安足地区 n=339	36.3%	上都賀地区 n=295	16.3%	安足地区 n=339	5.9%	上都賀地区 n=295	11.2%
5	那須地区 n=320	30.3%	那須地区 n=320	13.1%	那須地区 n=320	5.6%	安足地区 n=339	10.3%
6	河内地区 n=636	30.0%	河内地区 n=636	12.4%	上都賀地区 n=295	5.4%	下都賀地区 n=594	9.9%
7	下都賀地区 n=594	26.1%	下都賀地区 n=594	9.9%	下都賀地区 n=594	4.2%	那須地区 n=320	9.4%

【表 33】

地 区	回答数
河内地区 n=636	3.32
上都賀地区 n=295	3.42
芳賀地区 n=258	3.66
下都賀地区 n=594	2.92
塩谷南那須地区 n=250	3.49
那須地区 n=320	3.03
安足地区 n=339	3.26

各課題の上位 3 地区をみていくと、課題が最も集約されているのは下都賀地区の 1 項目、次いで那須地区の 2 項目であった。課題が分散されているのは芳賀地区の 13 項目、次いで河内地区の 10 項目であった。課題の集約の度合いはその差が大きく開いた。これは、1 人当たりの回答した選択肢の数にも対応している（表 33 参照）。

【表 34】

	全 県 n=2,692	河内地区 n=636	上都賀地区 n=295	芳賀地区 n=258	下都賀地区 n=594	塩谷南那須地区 n=250	那須地区 n=320	安足地区 n=339
1	集う場所や遊ぶ場所がない 46.9%	車や自転車の交通マナーが悪い 42.0%	集う場所や遊ぶ場所がない 58.6%	集う場所や遊ぶ場所がない 55.4%	集う場所や遊ぶ場所がない 42.6%	集う場所や遊ぶ場所がない 56.0%	集う場所や遊ぶ場所がない 53.8%	集う場所や遊ぶ場所がない 47.2%
2	車や自転車の交通マナーが悪い 34.0%	集う場所や遊ぶ場所がない 36.2%	商店街の活気がない 37.3%	商店街の活気がない 38.4%	車や自転車の交通マナーが悪い 29.1%	商店街の活気がない 46.8%	車や自転車の交通マナーが悪い 34.7%	車や自転車の交通マナーが悪い 38.1%
3	商店街の活気がない 32.9%	登下校時に危険を感じる場所がある 31.9%	車や自転車の交通マナーが悪い 34.6%	登下校時に危険を感じる場所がある 35.7%	登下校時に危険を感じる場所がある 28.6%	観光名所や名産品がない 33.2%	商店街の活気がない 30.3%	登下校時に危険を感じる場所がある 37.8%
4	登下校時に危険を感じる場所がある 29.9%	商店街の活気がない 30.0%	ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない 31.9%	ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない 32.2%	勉強する場所がない 26.6%	外国人との交流がない 24.4%	登下校時に危険を感じる場所がある 24.1%	商店街の活気がない 36.3%
5	ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない 25.5%	観光名所や名産品がない 29.4%	登下校時に危険を感じる場所がある 30.5%	車や自転車の交通マナーが悪い 31.4%	商店街の活気がない 26.1%	車や自転車の交通マナーが悪い 23.6%	観光名所や名産品がない 21.6%	ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない 24.1%
6	観光名所や名産品がない 24.9%	ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない 26.4%	観光名所や名産品がない 21.0%	外国人との交流がない 25.2%	ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない 24.6%	ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない 21.2%	ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない 20.6%	観光名所や名産品がない 20.6%
7	外国人との交流がない 19.7%	外国人との交流がない 22.0%	豪雨や地震などの災害時対策が不安である 19.3%	観光名所や名産品がない 24.0%	観光名所や名産品がない 23.7%	お祭りなどのイベントが盛り上がっていない 21.2%	外国人との交流がない 18.4%	外国人との交流がない 20.3%
8	勉強する場所がない 19.4%	勉強する場所がない 19.5%	外国人との交流がない 18.3%	勉強する場所がない 17.4%	外国人との交流がない 14.6%	登下校時に危険を感じる場所がある 20.8%	勉強する場所がない 17.8%	お祭りなどのイベントが盛り上がっていない 19.7%
9	お祭りなどのイベントが盛り上がっていない 14.5%	お祭りなどのイベントが盛り上がっていない 13.5%	空き家や耕作放棄地が増えている 16.3%	空き家や耕作放棄地が増えている 17.4%	お祭りなどのイベントが盛り上がっていない 14.0%	空き家や耕作放棄地が増えている 18.0%	お祭りなどのイベントが盛り上がっていない 15.0%	空き家や耕作放棄地が増えている 19.7%
10	空き家や耕作放棄地が増えている 14.2%	豪雨や地震などの災害時対策が不安である 12.4%	勉強する場所がない 13.2%	豪雨や地震などの災害時対策が不安である 16.7%	豪雨や地震などの災害時対策が不安である 12.6%	勉強する場所がない 16.8%	空き家や耕作放棄地が増えている 13.1%	勉強する場所がない 18.1%
11	豪雨や地震などの災害時対策が不安である 13.2%	空き家や耕作放棄地が増えている 12.4%	子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない 11.2%	学校と住民との交流が不足している 13.2%	空き家や耕作放棄地が増えている 9.9%	子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない 13.6%	子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない 9.4%	豪雨や地震などの災害時対策が不安である 15.0%
12	子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない 11.0%	子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない 11.5%	お祭りなどのイベントが盛り上がっていない 10.8%	子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない 12.8%	子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない 9.9%	豪雨や地震などの災害時対策が不安である 12.8%	学校と住民との交流が不足している 8.4%	子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない 10.3%
13	学校と住民との交流が不足している 8.6%	子どもの安全確保が不十分である 9.4%	子どもの安全確保が不十分である 10.5%	お祭りなどのイベントが盛り上がっていない 10.1%	学校と住民との交流が不足している 6.6%	学校と住民との交流が不足している 8.4%	無回答 7.5%	学校と住民との交流が不足している 9.1%
14	子どもの安全確保が不十分である 8.4%	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない 9.1%	学校と住民との交流が不足している 9.5%	子どもの安全確保が不十分である 10.1%	子どもの安全確保が不十分である 6.6%	子どもの安全確保が不十分である 8.4%	豪雨や地震などの災害時対策が不安である 6.9%	子どもの安全確保が不十分である 9.1%
15	高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない 6.8%	高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない 8.6%	高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない 6.4%	高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない 8.9%	高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない 4.9%	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない 8.0%	子どもの安全確保が不十分である 6.6%	高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない 6.3%
16	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない 6.6%	学校と住民との交流が不足している 8.5%	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない 5.4%	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない 8.9%	無回答 4.7%	高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない 7.6%	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない 5.6%	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない 5.9%
17	無回答 4.7%	その他 5.0%	その他 3.7%	その他 5.0%	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない 4.2%	無回答 4.4%	高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない 5.3%	無回答 4.7%
18	その他 3.9%	無回答 4.4%	無回答 3.7%	無回答 3.5%	その他 3.0%	その他 3.6%	その他 4.1%	その他 3.1%

イ 課程・学科別にみた地域課題の認識状況

【表 35】

地域課題の認識状況 (課程・学科別)	全 県 n=2,692	全日制：普通・総合 n=1,549	全日制：職業系専門 n=705	定時制 n=184	通信制 n=45	特別支援 n=209
集う場所や遊ぶ場所がない	46.9%	50.2%	50.4%	38.0%	31.1%	22.0%
車や自転車の交通マナーが悪い	34.0%	29.9%	36.6%	46.2%	33.3%	45.0%
勉強する場所がない	19.4%	23.0%	17.0%	10.3%	13.3%	10.0%
登下校時に危険を感じる場所がある	29.9%	30.1%	29.1%	24.5%	26.7%	36.4%
豪雨や地震などの災害時対策が不安である	13.2%	11.0%	12.9%	16.8%	24.4%	25.4%
ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない	25.5%	20.9%	26.8%	38.0%	28.9%	43.5%
学校と住民との交流が不足している	8.6%	8.9%	8.1%	7.6%	11.1%	8.6%
外国人との交流がない	19.7%	20.7%	17.3%	20.7%	22.2%	19.6%
お祭りなどのイベントが盛り上がっていない	14.5%	14.5%	14.8%	13.0%	20.0%	13.9%
高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない	6.8%	5.4%	7.0%	10.3%	8.9%	12.9%
子どもの安全確保が不十分である	8.4%	7.6%	7.0%	17.9%	8.9%	11.0%
観光名所や名産品がない	24.9%	25.8%	26.5%	20.1%	22.2%	17.2%
商店街の活気がない	32.9%	36.9%	30.4%	21.2%	31.1%	22.0%
空き家や耕作放棄地が増えている	14.2%	13.9%	14.2%	14.1%	13.3%	15.8%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない	6.6%	7.2%	7.2%	4.3%	8.9%	2.4%
子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない	11.0%	9.4%	12.5%	9.8%	11.1%	18.2%
その他	3.9%	3.7%	3.8%	5.4%	2.2%	5.3%
無回答	4.7%	2.8%	5.7%	12.5%	4.4%	8.1%

全日制課程の生徒では、学科を問わず、「集う場所や遊ぶ場所が少ない」との回答が 50%を超えた。それに対して、定時制、通信制は 30%台、特別支援学校は 20%台と、差が顕著であった。

また、「ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない」では、特別支援学校が 40%を超えたことに対して、定時制が 30%台後半、全日制職業系専門学科、通信制が 20%台後半、全日制普通・総合系学科が約 20%とこちらも差が顕著であった。

学び方によりそれぞれの生活スタイルが異なり、それによって地域の中の問題点の捉え方、興味関心のもち方に差異が生まれていることがうかがえる。

ウ 性別にみた地域課題の認識状況

【表 36】

地域課題の認識状況 (性別)	全 県 n=2,692	女 性 n=1,293	男 性 n=1,299	無 回 答 n=100
集う場所や遊ぶ場所がない	46.9%	50.5%	43.6%	43.0%
車や自転車の交通マナーが悪い	34.0%	33.5%	35.1%	26.0%
勉強する場所がない	19.4%	22.8%	16.1%	19.0%
登下校時に危険を感じる場所がある	29.9%	33.5%	26.9%	23.0%
豪雨や地震などの災害時対策が不安である	13.2%	14.3%	11.8%	18.0%
ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない	25.5%	24.5%	26.8%	22.0%
学校と住民との交流が不足している	8.6%	9.2%	8.0%	9.0%
外国人との交流がない	19.7%	20.6%	19.4%	12.0%
お祭りなどのイベントが盛り上がっていない	14.5%	14.2%	14.8%	16.0%
高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない	6.8%	6.8%	6.8%	6.0%
子どもの安全確保が不十分である	8.4%	8.0%	8.6%	11.0%
観光名所や名産品がない	24.9%	24.0%	26.1%	21.0%
商店街の活気がない	32.9%	34.0%	31.7%	34.0%
空き家や耕作放棄地が増えている	14.2%	15.5%	12.8%	15.0%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない	6.6%	6.7%	6.5%	8.0%
子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない	11.0%	10.4%	11.6%	9.0%
その他	3.9%	3.9%	3.9%	5.0%
無回答	4.7%	3.3%	5.6%	10.0%

5ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、3項目に差異があるといえる。

「集う場所や遊ぶ場所がない」「勉強する場所がない」「登下校時に危険を感じる場所がある」の3項目で、いずれも女性が男性を約7ポイント上回った。特に、「集う場所や遊ぶ場所がない」では、半数を超える女性が回答している。

工 県民対象調査との比較

【表 37】

県民 n=1,670		高校生 n=2,692	
高齢化	47.5%	集う場所や遊ぶ場所がない	46.9%
過疎化・人口減少	34.1%	車や自転車の交通マナーが悪い	34.0%
子どもの安全確保	31.6%	商店街の活気がない	32.9%
防災・防犯	28.6%	登下校時に危険を感じる場所がある	29.9%
住民同士の交流	27.1%	ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない	25.5%
自治会・子ども会等の運営	26.6%	観光名所や名産品がない	24.9%
家庭教育支援・子育て支援	22.7%	外国人との交流がない	19.7%
交通マナー	16.3%	勉強する場所がない	19.4%
市街中心部の空洞化	14.0%	お祭りなどのイベントが盛り上がっていない	14.5%
環境保護・美化	10.7%	空き家や耕作放棄地が増えている	14.2%
青少年の健全育成	8.3%	豪雨や地震などの災害時対策が不安である	13.2%
地域ブランド	7.2%	子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない	11.0%
郷土芸能の伝承	6.4%	学校と住民との交流が不足している	8.6%
国際化	5.6%	子どもの安全確保が不十分である	8.4%
その他	2.3%	高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない	6.8%
人権問題	1.7%	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない	6.6%
無回答	0.9%	無回答	4.7%
		その他	3.9%

両調査の同様の設問での選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、県民が認識している地域課題は、社会課題とも考えられるようなテーマが上位の項目となっている。対して、高校生は、自身の目線で普段の生活の中で身近に感じられるものを地域課題として捉えている傾向にあるといえる。

《参考：問1「その他」の主な回答記述》◎は特に回答が多かった記述

- ◎電車・バスの本数増発や歩道・横断歩道の整備、カーブミラー、信号、街灯の設置などの、交通面でのインフラやハード面での整備を進めて欲しい。
- ◎学校間の交流が少ない。
- ◎外出する子どもが減少する一因に、公園や遊園地などの遊び場で遊具やボール遊びなどの禁止事項が多いことがあるのではないかな。
- ◎交通マナーや生活マナーなどの悪化が目立つ。
- 場所がない訳ではないが、公共の無料の学習室は増えたら良いと思う。
- ゴミ収集の所にネットがかかってなく、カラスに散らかされている。
- 地域住民の障害者に対しての理解が進んでいない。
- 高齢者向けの施策が多く、子どもや若者に対しての施策は少ないように感じる。

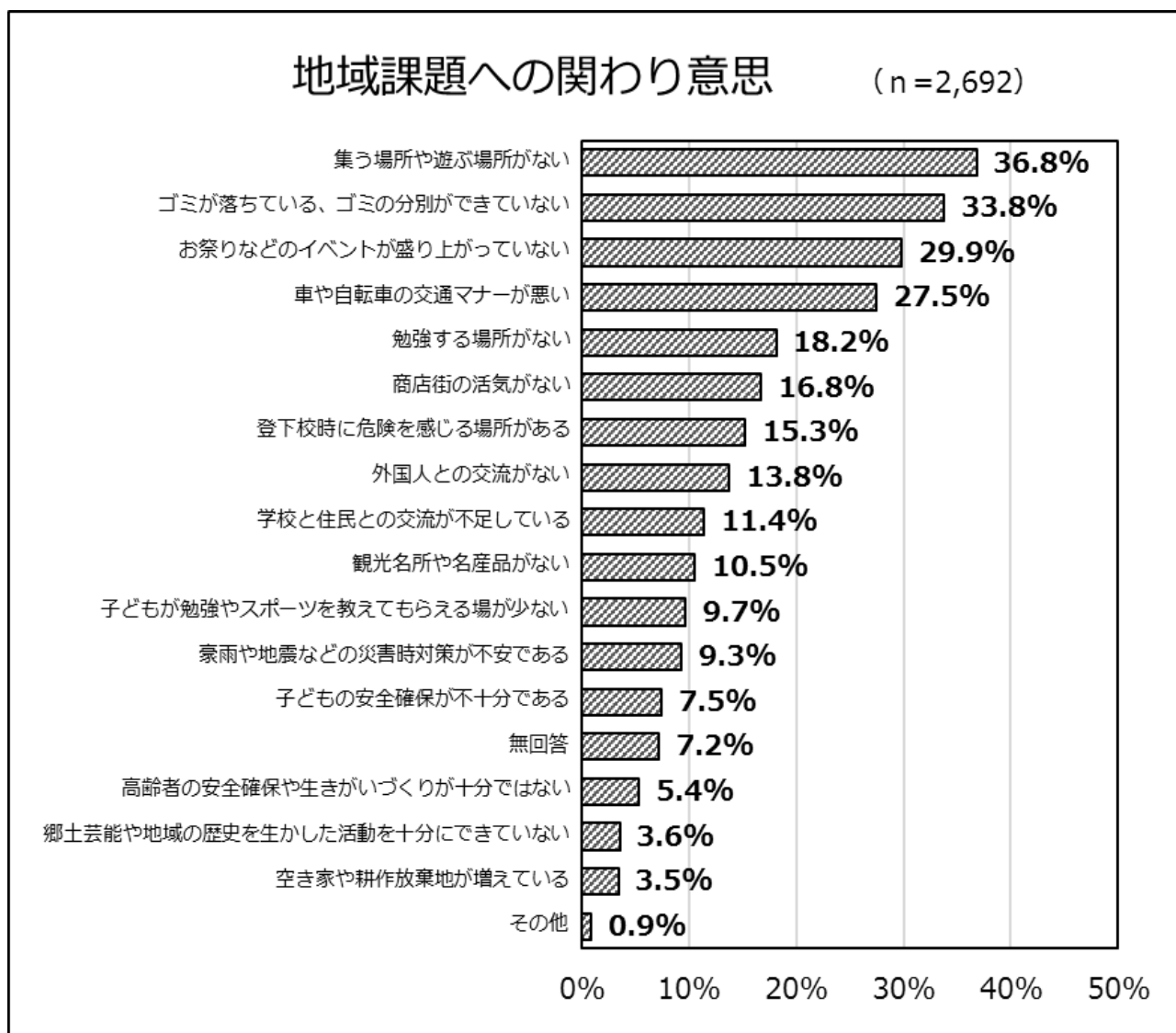
(3) 地域課題への関わり意思

問2 問1の1～16中で、現状を改善するために、あなたが関わってもよいと思うものはどれですか。あてはまる番号3つに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた地域課題への関わり意思

【図 33】



全県でみると、「集う場所や遊ぶ場所がない」が36.8%で回答割合が最も高かった。次いで、「ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない」が続き、これら2項目が30%を超える回答割合となった。「お祭りなどのイベントが盛り上がっていない」「車や自転車の交通マナーが悪い」も回答割合が高かった。

【表 38】

地域課題への関わり意思 (各地区別)	全 県 n=2,692	河内地区 n=636	上都賀地区 n=295	芳賀地区 n=258	下都賀地区 n=594	塩谷南那須地区 n=250	那須地区 n=320	安足地区 n=339
集う場所や遊ぶ場所がない	36.8%	28.3%	44.4%	39.9%	36.0%	49.2%	38.4%	36.6%
車や自転車の交通マナーが悪い	27.5%	31.4%	25.8%	24.4%	25.6%	21.2%	26.3%	35.0%
勉強する場所がない	18.2%	18.4%	12.2%	19.4%	23.9%	16.8%	16.9%	15.0%
登下校時に危険を感じる場所がある	15.3%	17.3%	10.2%	18.2%	16.2%	11.6%	14.1%	16.9%
豪雨や地震などの災害時対策が不安である	9.3%	9.1%	11.9%	14.0%	8.9%	9.2%	5.9%	8.4%
ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない	33.8%	31.1%	36.9%	36.4%	35.5%	34.0%	33.4%	32.8%
学校と住民との交流が不足している	11.4%	11.5%	15.3%	11.2%	10.8%	10.8%	8.4%	13.1%
外国人との交流がない	13.8%	17.1%	17.3%	10.1%	10.1%	14.8%	13.8%	13.8%
お祭りなどのイベントが盛り上がっていない	29.9%	25.6%	31.2%	24.8%	33.8%	36.0%	27.2%	33.4%
高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない	5.4%	7.1%	6.4%	4.3%	5.2%	4.4%	3.1%	5.6%
子どもの安全確保が不十分である	7.5%	7.2%	5.8%	7.8%	10.1%	6.0%	7.5%	5.9%
観光名所や名産品がない	10.5%	13.4%	11.5%	10.5%	8.1%	11.2%	10.0%	9.4%
商店街の活気がない	16.8%	14.5%	17.6%	19.4%	14.3%	23.2%	15.6%	20.0%
空き家や耕作放棄地が増えている	3.5%	4.1%	2.4%	4.3%	2.5%	3.6%	3.4%	4.4%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない	3.6%	5.7%	4.1%	2.3%	3.2%	2.0%	0.9%	4.7%
子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない	9.7%	9.0%	8.1%	9.3%	11.1%	8.0%	7.8%	14.1%
その他	0.9%	1.1%	0.3%	0.8%	0.8%	0.4%	1.3%	1.3%
無回答	7.2%	8.8%	4.7%	5.4%	7.2%	4.8%	11.3%	5.9%

地区別にみると、全県で最上位であった「集う場所や遊ぶ場所がない」は、河内地区を除く 6 地区で最上位であった。河内地区では 28.3%であったが、残りの 6 地区は 30%台後半～50%の範囲にあり、20 ポイント以上の差があった。

また、「車や自転車の交通マナーが悪い」では、最も回答割合の高い安足地区と最も低い塩谷南那須地区で、「勉強する場所がない」では下都賀地区と上都賀地区で、「お祭りなどのイベントが盛り上がっていない」では塩谷南那須地区と芳賀地区で、それぞれ 10 ポイント以上の差があった。

イ 課程・学科別にみた地域課題への関わり意思
【表 39】

地域課題への関わり意思 (課程・学科別)	全 県 n =2,692	全日制：普通・総合 n =1,549	全日制：職業系専門 n =705	定時制 n =184	通信制 n =45	特別支援 n =209
集う場所や遊ぶ場所がない	36.8%	40.6%	36.6%	31.5%	33.3%	14.8%
車や自転車の交通マナーが悪い	27.5%	24.0%	31.2%	28.8%	22.2%	41.1%
勉強する場所がない	18.2%	22.7%	13.8%	8.7%	17.8%	7.7%
登下校時に危険を感じる場所がある	15.3%	14.4%	15.0%	13.0%	13.3%	24.9%
豪雨や地震などの災害時対策が不安である	9.3%	8.1%	8.5%	10.9%	11.1%	19.1%
ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない	33.8%	31.5%	37.9%	32.1%	40.0%	36.8%
学校と住民との交流が不足している	11.4%	11.4%	12.9%	11.4%	4.4%	7.7%
外国人との交流がない	13.8%	16.1%	11.5%	8.2%	13.3%	9.6%
お祭りなどのイベントが盛り上がっていない	29.9%	32.1%	31.5%	19.0%	31.1%	16.7%
高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない	5.4%	4.9%	6.5%	4.3%	8.9%	5.3%
子どもの安全確保が不十分である	7.5%	7.4%	6.1%	9.8%	4.4%	11.0%
観光名所や名産品がない	10.5%	10.5%	12.2%	7.1%	11.1%	8.1%
商店街の活気がない	16.8%	18.4%	15.6%	10.3%	20.0%	13.4%
空き家や耕作放棄地が増えている	3.5%	2.8%	3.5%	3.3%	4.4%	7.7%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない	3.6%	3.5%	3.1%	4.3%	6.7%	4.3%
子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない	9.7%	10.4%	9.9%	6.0%	11.1%	6.7%
その他	0.9%	0.8%	0.6%	1.6%	0.0%	1.9%
無回答	7.2%	5.0%	6.7%	20.1%	6.7%	14.4%

「集う場所や遊ぶ場所がない」では、全日制普通・総合系学科で最上位であった。「ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない」は、全日制職業系専門学科、定時制、通信制で最上位であり、「車や自転車の交通マナーが悪い」は、特別支援で最上位であった。

ウ 性別にみた地域課題への関わり意思
【表 40】

地域課題への関わり意思 (性別)	全 県 n=2,692	女 性 n=1,293	男 性 n=1,299	無 回 答 n=100
集う場所や遊ぶ場所がない	36.8%	37.4%	36.7%	31.0%
車や自転車の交通マナーが悪い	27.5%	22.2%	32.9%	25.0%
勉強する場所がない	18.2%	18.6%	18.0%	15.0%
登下校時に危険を感じる場所がある	15.3%	12.1%	18.6%	13.0%
豪雨や地震などの災害時対策が不安である	9.3%	8.3%	10.2%	11.0%
ゴミが落ちている、ゴミの分別ができていない	33.8%	35.0%	32.9%	29.0%
学校と住民との交流が不足している	11.4%	13.8%	8.8%	14.0%
外国人との交流がない	13.8%	15.9%	11.8%	13.0%
お祭りなどのイベントが盛り上がっていない	29.9%	37.5%	22.5%	27.0%
高齢者の安全確保や生きがいづくりが十分ではない	5.4%	7.7%	3.2%	5.0%
子どもの安全確保が不十分である	7.5%	7.5%	7.2%	10.0%
観光名所や名産品がない	10.5%	11.1%	10.5%	5.0%
商店街の活気がない	16.8%	18.0%	15.6%	15.0%
空き家や耕作放棄地が増えている	3.5%	2.7%	4.1%	5.0%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動を十分にできていない	3.6%	4.4%	2.8%	2.0%
子どもが勉強やスポーツを教えてもらえる場が少ない	9.7%	9.4%	10.2%	7.0%
その他	0.9%	0.5%	1.2%	2.0%
無回答	7.2%	5.3%	8.9%	10.0%

5 ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、4 項目に差異があるといえる。

「お祭りなどのイベントが盛り上がっていない」が約 15 ポイント、「学校と住民の交流が不足している」が約 5 ポイント、女性が男性を上回った。また、「車や自転車の交通マナーが悪い」が約 11 ポイント、「登下校時に危険を感じる場所がある」が約 7 ポイント、男性が女性を上回った。

《参考：問 2 「その他」の主な回答記述》

○空き地や耕作放棄地の再整備

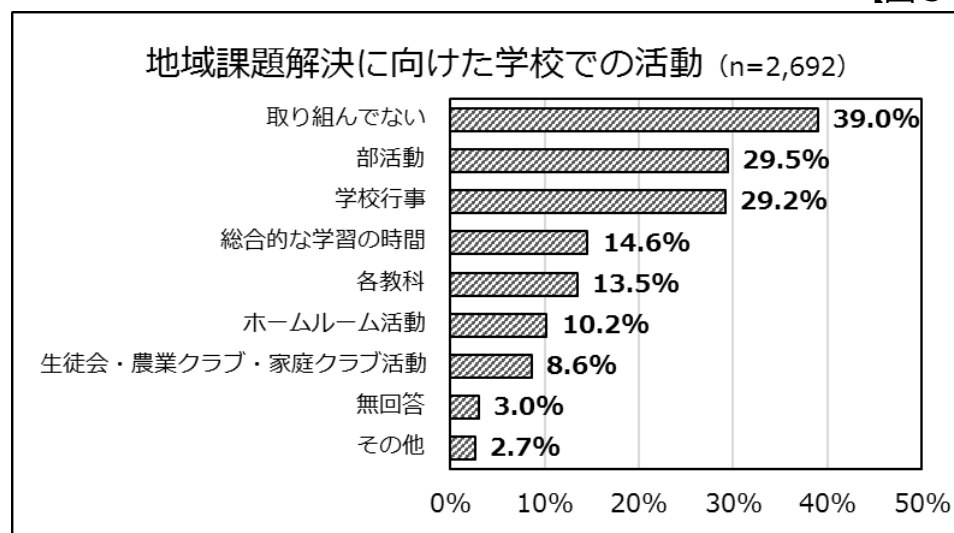
(4) 地域課題解決に向けた学校での活動

問3 あなたは、学校の活動で、ボランティアや地域の活動に取り組んでいますか。その場面について、あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた地域課題解決に向けた学校での活動

【図 34】



【表 41】

地域課題解決に向けた学校での活動 (各地区別)	全 県 n=2,692	河内地区 n=636	上都賀地区 n=295	芳賀地区 n=258	下都賀地区 n=594	塩谷南那須地区 n=250	那須地区 n=320	安足地区 n=339
各教科	13.5%	15.4%	14.2%	15.5%	14.0%	10.0%	11.3%	12.5%
総合的な学習の時間	14.6%	11.6%	12.9%	16.7%	15.5%	25.2%	10.9%	14.7%
部活動	29.5%	27.2%	31.9%	33.3%	32.3%	28.4%	28.4%	26.9%
ホームルーム活動	10.2%	10.4%	8.8%	9.7%	10.3%	8.0%	11.6%	12.5%
生徒会・農業クラブ・家庭クラブ活動	8.6%	6.3%	9.2%	8.5%	9.3%	12.8%	7.5%	9.7%
学校行事	29.2%	24.5%	35.3%	29.1%	33.5%	33.2%	29.1%	23.8%
その他	2.7%	2.5%	1.0%	8.9%	2.5%	1.2%	1.9%	1.9%
取り組んでない	39.0%	42.8%	37.6%	31.0%	35.2%	37.2%	42.5%	46.6%
無回答	3.0%	3.9%	1.7%	3.9%	2.7%	2.0%	2.8%	3.4%

全県でみると、活動に取り組んでいる中で回答割合が最も高かったものは「部活動」で、僅差で「学校行事」が続く。多少ばらつきは見られるものの、各項目の地区間による大きな差異はみられない。

また、「取り組んでいない」は39.0%であり、実際には活動しているが、それが地域課題の解決につながる活動であることを意識できていない、または取組が地域課題と結びついていない状況がうかがえる。

イ 課程・学科別にみた地域課題解決に向けた学校での活動

【表 42】

地域課題解決に向けた学校での活動 (課程・学科別)	全 県 n=2,692	全日制：普通・総合 n=1,549	全日制：職業系専門 n=705	定時制 n=184	通信制 n=45	特別支援 n=209
各教科	13.5%	10.4%	15.3%	16.3%	42.2%	22.0%
総合的な学習の時間	14.6%	13.6%	9.8%	13.6%	37.8%	33.5%
部活動	29.5%	29.6%	34.3%	12.5%	15.6%	30.1%
ホームルーム活動	10.2%	8.0%	10.5%	14.1%	37.8%	16.3%
生徒会・農業クラブ・家庭クラブ活動	8.6%	7.5%	10.6%	8.7%	24.4%	6.2%
学校行事	29.2%	24.4%	33.9%	35.9%	33.3%	42.1%
その他	2.7%	2.9%	2.3%	0.5%	0.0%	4.8%
取り組んでない	39.0%	43.0%	35.0%	42.4%	35.6%	20.6%
無回答	3.0%	2.6%	2.6%	7.6%	4.4%	3.3%

課程・学科別にみると、項目によって 30 ポイントを超える開きがあるなど、大きな差異がみられる。通信制では、「各教科」「総合的な学習の時間」「ホームルーム活動」と回答した割合が、他課程・学科と比較すると極めて高かった。また、特別支援では「総合的な学習の時間」「学校行事」と回答した割合が、他課程・学科と比較すると極めて高く、「取り組んでいない」は 20%をやや超えた程度で極めて低かった。特別支援の生徒は、学校で「地域のために活動している」と自覚して取り組んでいる様子がうかがえる。

ウ 性別にみた地域課題解決に向けた学校での活動

【表 43】

地域課題解決に向けた学校での活動 (性別)	全 県 n=2,692	女 性 n=1,293	男 性 n=1,299	無 回 答 n=100
各教科	13.5%	13.8%	12.9%	18.0%
総合的な学習の時間	14.6%	14.2%	14.7%	18.0%
部活動	29.5%	29.2%	30.3%	21.0%
ホームルーム活動	10.2%	9.8%	10.8%	8.0%
生徒会・農業クラブ・家庭クラブ活動	8.6%	11.5%	5.9%	6.0%
学校行事	29.2%	28.8%	30.2%	22.0%
その他	2.7%	3.5%	1.7%	5.0%
取り組んでない	39.0%	38.4%	40.1%	32.0%
無回答	3.0%	1.9%	3.6%	9.0%

「生徒会・農業クラブ・家庭クラブ活動」において、女性が男性を約 6 ポイント上回った。それ以外の項目については、性別による明確な差異はみられなかった。

《参考：問 3 「その他」の主な回答記述》◎は特に回答が多かった記述

◎ボランティア単位認定活動

◎委員会活動

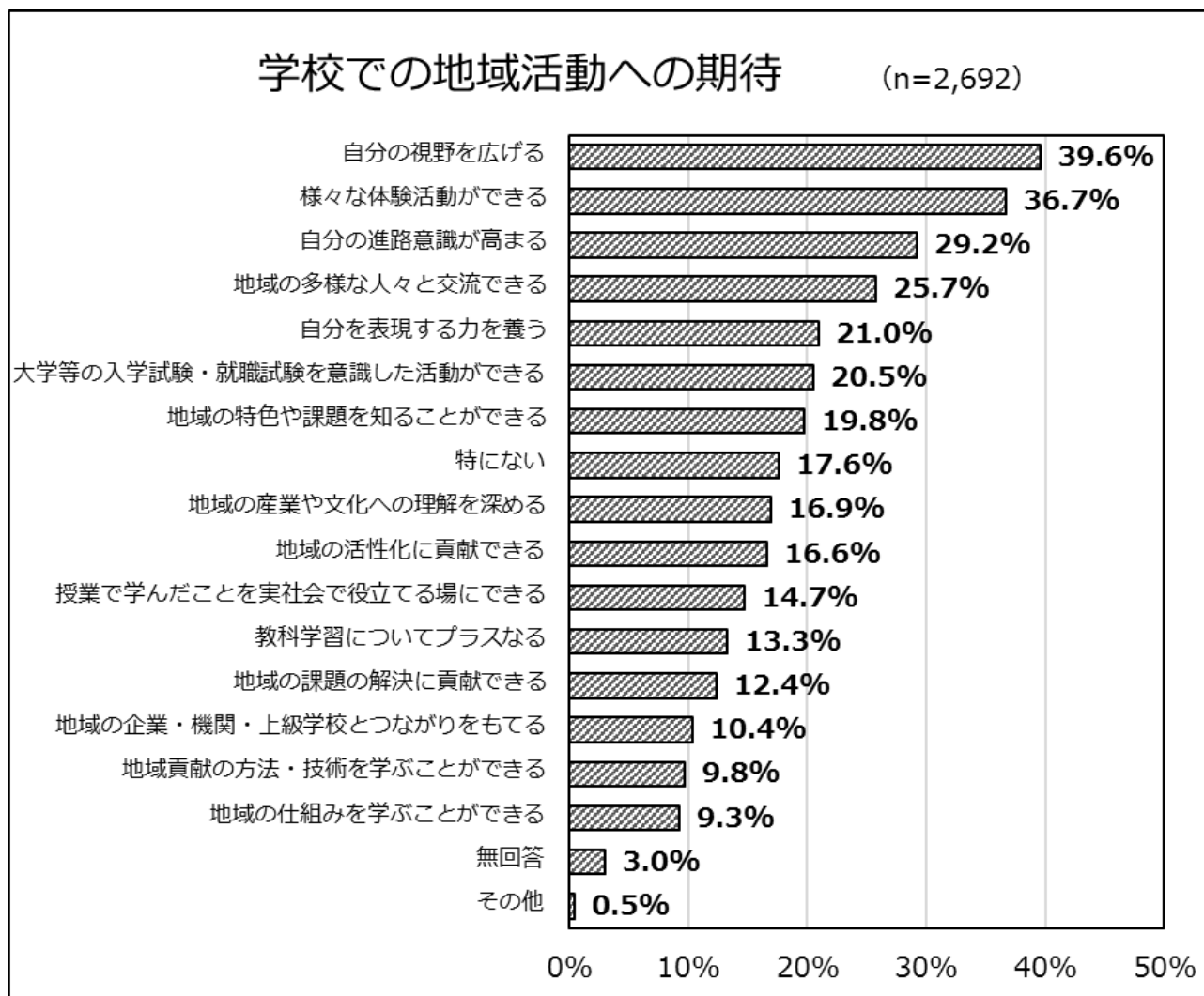
(5) 学校での地域活動への期待

問4 学校での地域活動について、次の中でどのようなことを期待しますか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた学校での地域活動への期待

【図 35】



全県でみると、「自分の視野を広げる」が最上位で、「様々な体験活動ができる」が続く。次いで、「自分の進路意識が高まる」「地域の多様な人々と交流できる」が続く。自分自身の成長に関わる選択肢を選んでいる傾向がみられ、地域に貢献していくための学びや理解に関する選択肢の回答割合はそれほど高くなかった。

【表 44】

学校での地域活動への期待 (各地区別)	全 県 n=2,692	河内地区 n=636	上都賀地区 n=295	芳賀地区 n=258	下都賀地区 n=594	塩谷南那須地区 n=250	那須地区 n=320	安足地区 n=339
地域の特色や課題を知ることができる	19.8%	19.8%	25.8%	23.6%	16.7%	24.8%	15.9%	17.8%
地域の産業や文化への理解を深める	16.9%	19.5%	19.7%	15.9%	15.2%	18.8%	15.3%	14.7%
地域の多様な人々と交流できる	25.7%	30.8%	29.5%	27.5%	21.0%	22.8%	18.8%	30.3%
地域の企業・機関・上級学校とつながりをもてる	10.4%	11.9%	10.2%	12.4%	9.9%	10.4%	9.1%	8.8%
地域の仕組みを学ぶことができる	9.3%	10.7%	10.2%	8.9%	7.9%	12.0%	8.1%	8.4%
地域貢献の方法・技術を学ぶことができる	9.8%	11.5%	10.8%	14.0%	6.9%	11.2%	9.4%	7.2%
地域の課題の解決に貢献できる	12.4%	17.8%	13.9%	8.9%	8.2%	16.4%	10.9%	10.0%
地域の活性化に貢献できる	16.6%	19.5%	23.1%	15.5%	13.6%	14.4%	14.1%	16.6%
自分の進路意識が高まる	29.2%	31.1%	28.1%	32.9%	26.9%	28.8%	28.8%	30.3%
様々な体験活動ができる	36.7%	37.1%	41.4%	43.8%	34.0%	35.2%	32.8%	38.4%
自分の視野を広げる	39.6%	42.5%	39.7%	45.0%	35.7%	38.4%	36.3%	43.1%
自分を表現する力を養う	21.0%	19.8%	20.7%	26.4%	19.2%	22.0%	18.4%	25.3%
教科学習についてプラスなる	13.3%	15.7%	16.6%	14.7%	12.1%	12.8%	10.0%	11.3%
大学等の入学試験・就職試験を意識した活動ができる	20.5%	21.9%	19.3%	19.8%	19.4%	20.8%	18.1%	25.3%
授業で学んだことを実社会で役立てる場に行ける	14.7%	15.6%	13.2%	16.3%	15.8%	12.4%	12.5%	16.3%
特にない	17.6%	19.7%	12.9%	17.8%	17.2%	18.8%	20.3%	16.3%
その他	0.5%	0.3%	1.0%	0.8%	0.7%	0.4%	0.0%	0.3%
無回答	3.0%	3.8%	2.0%	2.7%	3.4%	2.0%	3.8%	2.5%

地区別にみると、全県で上位 2 項目であった「自分の視野を広げる」「様々な体験活動ができる」が、全ての地区で上位 2 項目となり、いずれも 30～45%の回答割合であった。

項目毎にみると、「地域の多様な人々と交流できる」では、回答割合の最も高い河内地区と最も低い那須地区で約 12 ポイントの差異がみられた。それ以外の項目については、地区間の大きな差異はみられなかった。

イ 課程・学科別にみた学校での地域活動への期待
【表 45】

学校での地域活動への期待 (課程・学科別)	全 県 n=2,692	全日制：普通・総合 n=1,549	全日制：職業系専門 n=705	定時制 n=184	通信制 n=45	特別支援 n=209
地域の特色や課題を知ることができる	19.8%	20.4%	20.6%	20.7%	11.1%	13.4%
地域の産業や文化への理解を深める	16.9%	15.4%	18.6%	17.4%	17.8%	22.5%
地域の多様な人々と交流できる	25.7%	23.7%	30.6%	22.3%	17.8%	29.2%
地域の企業・機関・上級学校とつながりをもてる	10.4%	9.0%	11.2%	10.3%	11.1%	17.7%
地域の仕組みを学ぶことができる	9.3%	8.4%	8.9%	12.5%	8.9%	14.8%
地域貢献の方法・技術を学ぶことができる	9.8%	8.9%	10.8%	12.5%	2.2%	12.0%
地域の課題の解決に貢献できる	12.4%	14.5%	9.1%	9.8%	8.9%	11.5%
地域の活性化に貢献できる	16.6%	17.9%	15.2%	15.2%	11.1%	13.9%
自分の進路意識が高まる	29.2%	28.5%	29.4%	24.5%	24.4%	39.2%
様々な体験活動ができる	36.7%	36.4%	40.0%	28.3%	35.6%	35.9%
自分の視野を広げる	39.6%	40.3%	40.3%	39.1%	42.2%	31.6%
自分を表現する力を養う	21.0%	22.5%	17.2%	20.7%	8.9%	25.4%
教科学習についてプラスなる	13.3%	13.4%	12.3%	13.0%	22.2%	14.8%
大学等の入学試験・就職試験を意識した活動ができる	20.5%	24.5%	15.9%	10.9%	20.0%	15.8%
授業で学んだことを実社会で役立てる場に行ける	14.7%	14.0%	14.6%	12.5%	15.6%	22.5%
特になし	17.6%	14.1%	17.2%	34.8%	28.9%	27.8%
その他	0.5%	0.6%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%
無回答	3.0%	2.2%	2.7%	9.2%	4.4%	4.8%

10 ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、8 項目に差異があるといえる。

全日制普通・総合系学科では、「大学等の入学試験・就職試験を意識した活動ができる」の回答割合が他と比べて高かった。また、通信制では、「教科学習についてプラスになる」の回答割合が他と比べて高かった。特別支援では、「自分の進路意識が高まる」「自分を表現する力を養う」「授業で学んだことを実社会で役立てる場に行ける」の回答割合が他と比べて高かった。

ウ 性別にみた学校での地域活動への期待
【表 46】

学校での地域活動への期待 (性別)	全 県 n=2,692	女 性 n=1,293	男 性 n=1,299	無 回 答 n=100
地域の特色や課題を知ることができる	19.8%	18.4%	21.9%	10.0%
地域の産業や文化への理解を深める	16.9%	18.9%	15.8%	7.0%
地域の多様な人々と交流できる	25.7%	31.2%	20.3%	25.0%
地域の企業・機関・上級学校とつながりをもてる	10.4%	9.4%	11.8%	6.0%
地域の仕組みを学ぶことができる	9.3%	7.3%	11.4%	9.0%
地域貢献の方法・技術を学ぶことができる	9.8%	8.4%	11.2%	8.0%
地域の課題の解決に貢献できる	12.4%	13.3%	11.7%	10.0%
地域の活性化に貢献できる	16.6%	18.3%	14.9%	16.0%
自分の進路意識が高まる	29.2%	31.3%	27.6%	24.0%
様々な体験活動ができる	36.7%	44.8%	28.6%	38.0%
自分の視野を広げる	39.6%	43.6%	35.6%	38.0%
自分を表現する力を養う	21.0%	21.6%	20.2%	22.0%
教科学習についてプラスなる	13.3%	13.9%	12.7%	14.0%
大学等の入学試験・就職試験を意識した活動ができる	20.5%	23.9%	16.9%	24.0%
授業で学んだことを実社会で役立てる場にいる	14.7%	18.8%	10.9%	13.0%
特にない	17.6%	12.2%	21.6%	36.0%
その他	0.5%	0.2%	0.8%	0.0%
無回答	3.0%	1.9%	3.3%	15.0%

5ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、6項目に差異があるといえる。

「様々な体験活動ができる」は約 16 ポイント、「地域の多様な人々と交流できる」は約 11 ポイント、「自分の視野を広げる」「授業で学んだことを実社会で役立てる」は約 8 ポイント、「大学等の入学試験、就職試験を意識した活動ができる」は約 7 ポイント、それぞれ女性が男性を上回った。それに対して、「特にない」は男性が女性を約 9 ポイント上回った。

《参考：問 4 「その他」の主な回答記述》

○高校生同士の交流 ○学校での地域活動がないから分からない

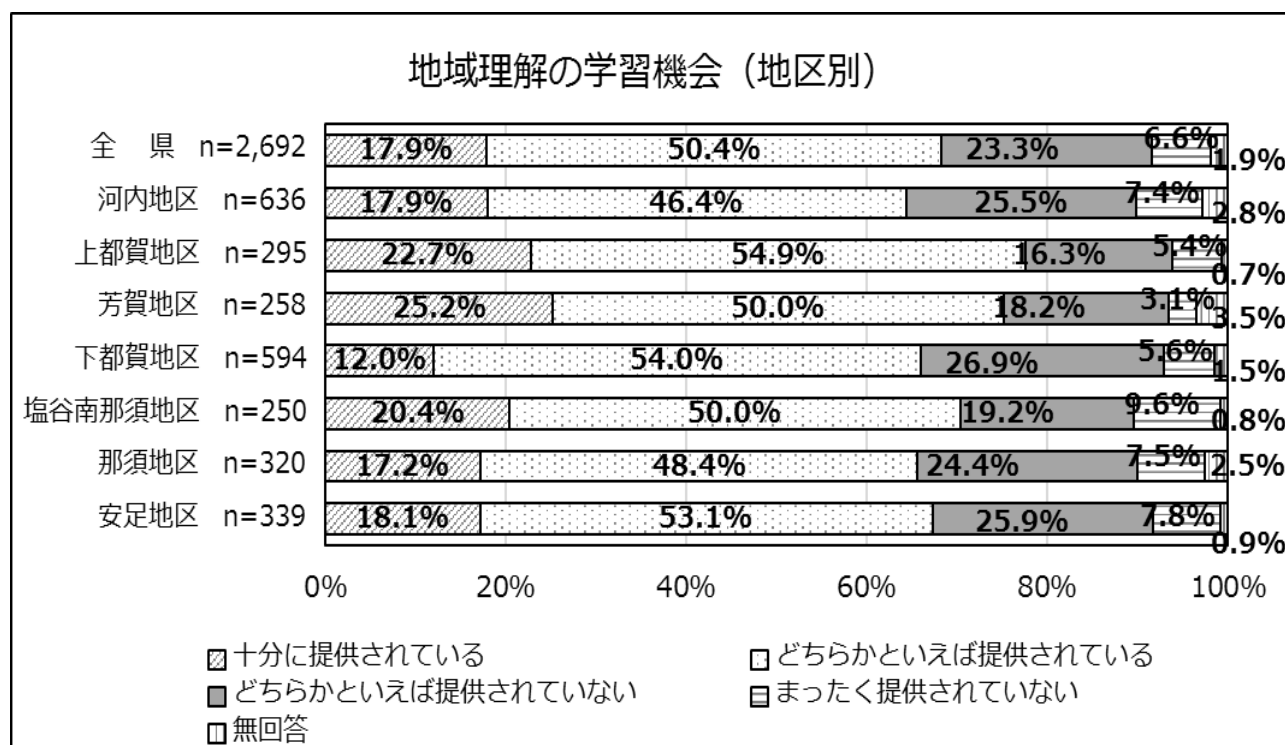
(6) 地域理解の学習機会

問5 地域のことを知る・学習する機会は、学校や地域から十分に提供されていると感じますか。最もよくあてはまる番号1つに○をつけてください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた地域理解の学習機会

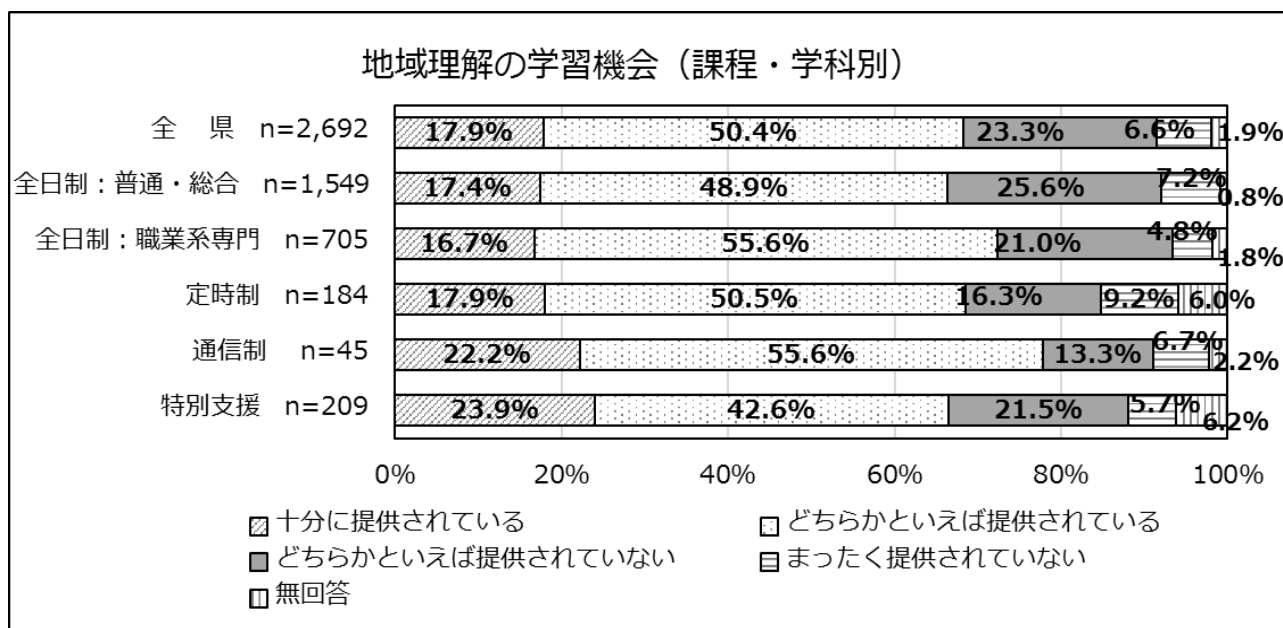
【図 36】



全県でみると、「十分に提供されている」「どちらかといえば提供されている」を合わせた回答割合は 68.3%であった。特に、上都賀地区や芳賀地区では、75%を超える回答があった。「提供されている」と回答した割合の最も高い地区と最も低い地区で約 12 ポイントの開きがあり、地区間の差異がややみられた。

イ 課程・学科別にみた地域理解の学習機会

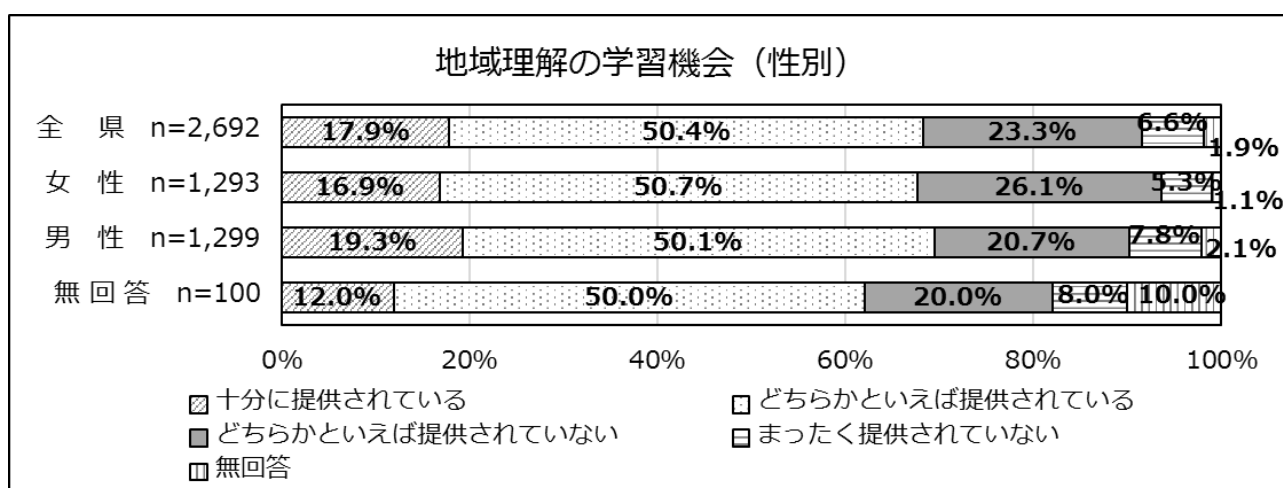
【図 37】



通信制、全日制職業系専門学科で、「十分に提供されている」「どちらかといえば提供されている」を合わせた回答割合が 70%を超えた。特に通信制では、回答数は少ないものの 77.8%の回答割合で、他と比較すると高い状況にあるといえる。

ウ 性別にみた地域理解の学習機会

【図 38】



「十分に提供されている」「まったく提供されていない」が、2～3ポイント男性が女性を上回った。それに対応して、「どちらかといえば提供されていない」が、約 5 ポイント女性が男性を上回った。

総じてみれば、性別による大きな差異はみられなかった。

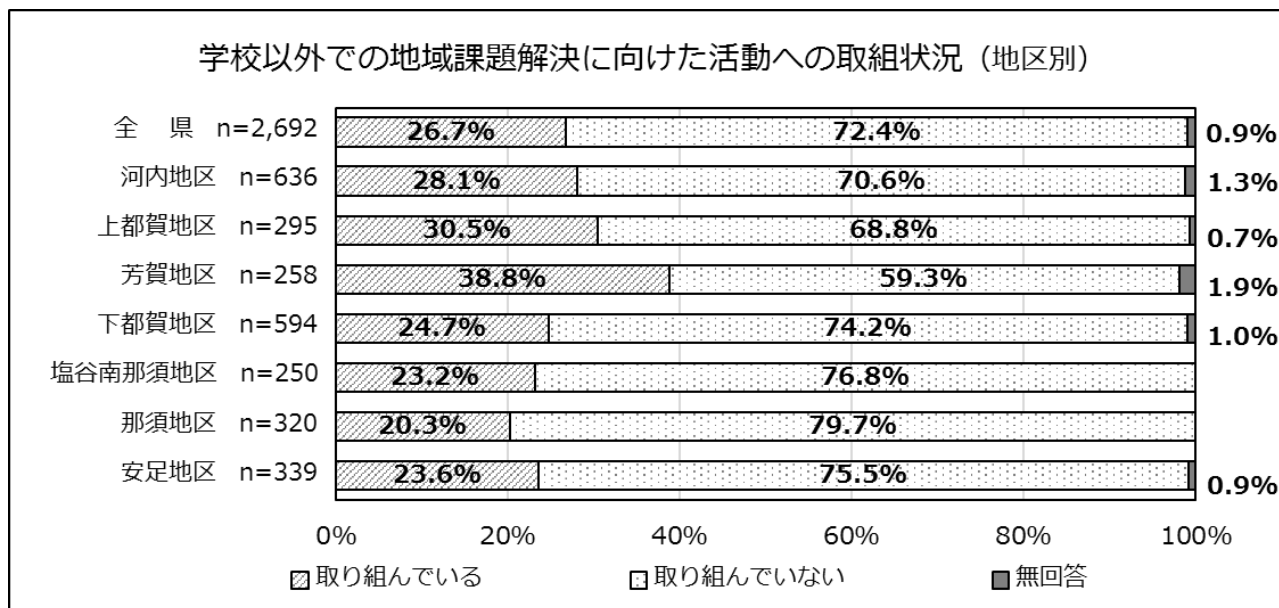
(7) 学校以外での地域課題解決に向けた取組

問6 あなたは、学校の活動以外で、ボランティアや地域（学校の所在地・自宅の所在地ともに含む）の活動に取り組んでいますか。あてはまる番号に○をつけてください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた学校以外での地域課題解決に向けた取組状況

【図 39】

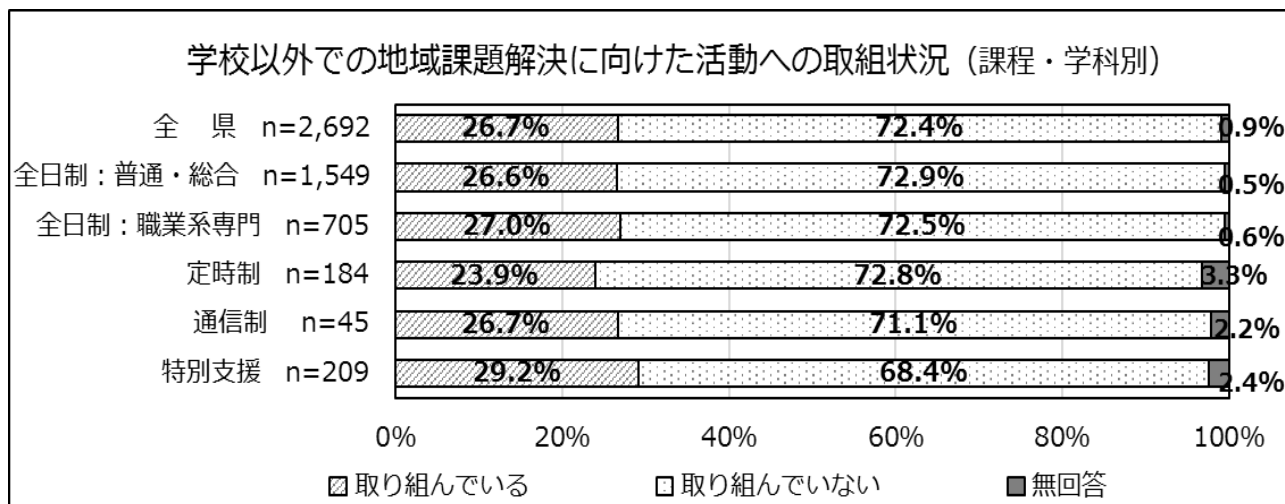


全県でみると、全体の 1/4 強の生徒が「取り組んでいる」と回答した。

特に「芳賀地区」では 38.8%と、他と比べて極めて高かった。また、「上都賀地区」も 30%を超えた。「取り組んでいる」と回答した割合の最も高い地区と最も低い地区で約 19 ポイントの開きがあり、地区間の差異がみられた。

イ 課程・学科別にみた学校以外での地域課題解決に向けた取組状況

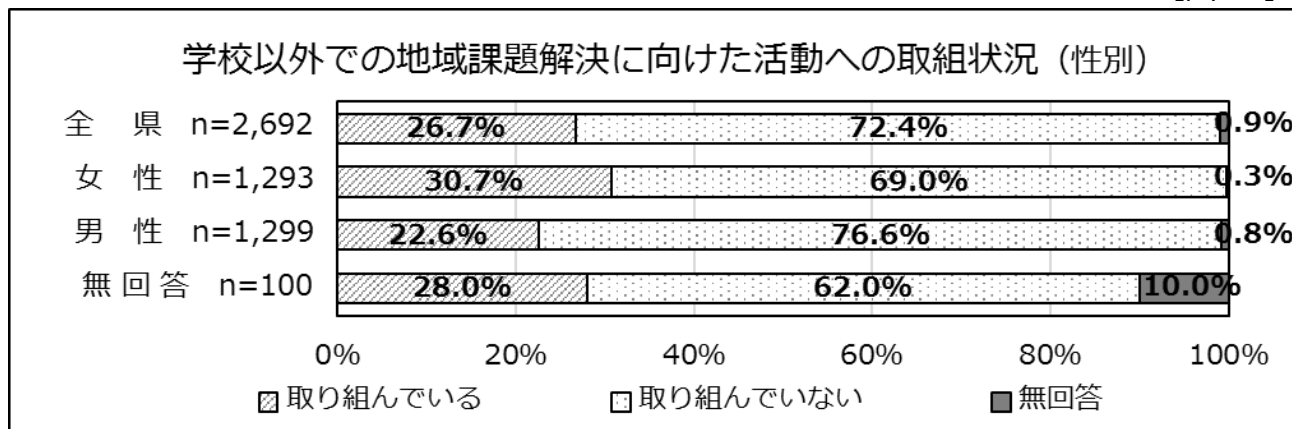
【図 40】



課程・学科別にみると、特別支援で「取り組んでいない」と回答した割合が、他と比べてやや小さいことはいえる。しかし、総じて課程・学科による大きな差異はみられない。

ウ 性別にみた学校以外での地域課題解決に向けた取組状況

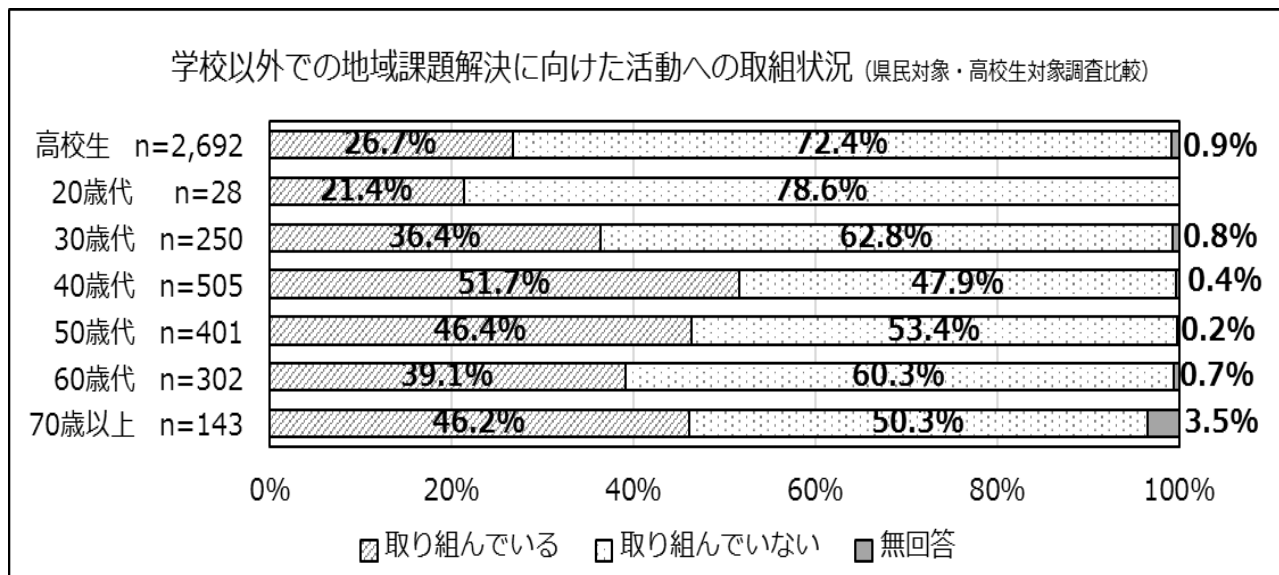
【図 41】



「取り組んでいる」と回答した割合は、女性が男性を約 8 ポイント上回った。

エ 県民対象調査との比較

【図 42】



高校生で活動に取り組んでいる割合は、他の年代と比較してもそれほど高くはない。また、上級学校への進学や就職等から、「取り組んでいる」と回答した割合は 20 歳代でさらに低下する。30 歳代、40 歳代と「取り組んでいる」と回答した割合は上昇し、40 歳代で最も高くなる。50 歳代と 60 歳代で徐々にその回答割合は低下するが、70 歳以上でまた上昇している。

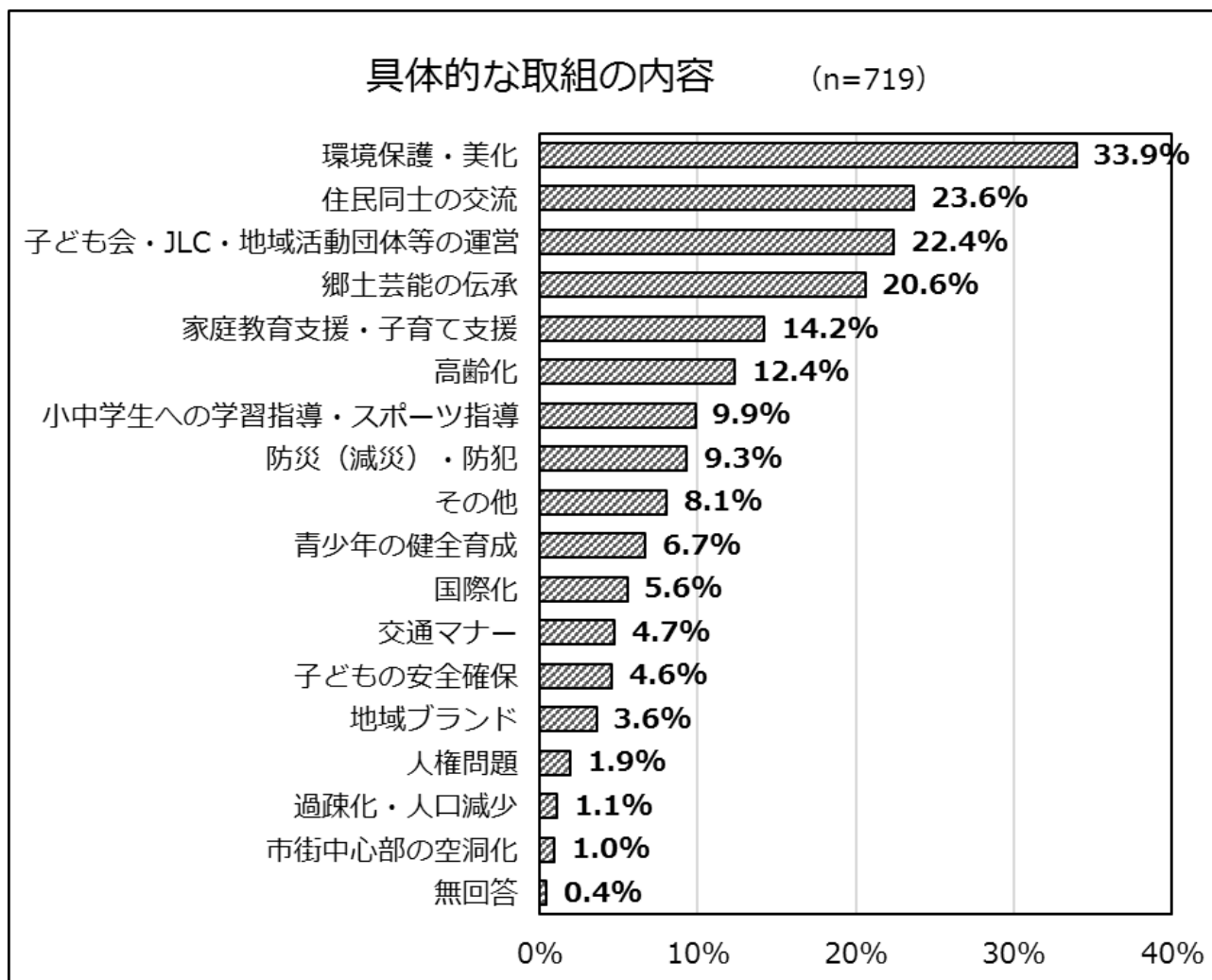
(8) 具体的な取組の内容

問7 問6で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。それは具体的にどのような活動ですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた具体的な取組の内容

【図 43】



実際に地域課題の解決に向けた活動に取り組んだ経験をもつ719名に対して、その内容について質問した。

全県でみると、「環境保護・美化」の回答割合が最も高く、全体の約1/3が回答した。次いで、「住民同士の交流」「子ども会・JLC・地域活動団体等の運営」「郷土芸能の伝承」が続いており、これらが20%を超えた。

【表 47】

具体的な取組の内容 (各地区別)	全 県	河内地区	上都賀地区	芳賀地区	下都賀地区	塩谷南那須地区	那須地区	安足地区
	n = 719	n = 179	n = 90	n = 100	n = 147	n = 58	n = 65	n = 80
防災（減災）・防犯	9.3%	11.2%	12.2%	10.0%	8.2%	5.2%	9.2%	6.3%
子どもの安全確保	4.6%	7.8%	4.4%	3.0%	6.1%	0.0%	4.6%	0.0%
家庭教育支援・子育て支援	14.2%	13.4%	5.6%	13.0%	19.0%	15.5%	12.3%	18.8%
青少年の健全育成	6.7%	8.4%	7.8%	3.0%	7.5%	6.9%	6.2%	5.0%
郷土芸能の伝承	20.6%	19.6%	37.8%	21.0%	14.3%	8.6%	23.1%	21.3%
子ども会・JLC・地域活動団体等の運営	22.4%	24.0%	22.2%	27.0%	17.7%	31.0%	20.0%	17.5%
住民同士の交流	23.6%	25.7%	23.3%	22.0%	20.4%	22.4%	13.8%	36.3%
高齢化	12.4%	9.5%	7.8%	10.0%	8.2%	19.0%	16.9%	26.3%
地域ブランド	3.6%	5.6%	4.4%	2.0%	3.4%	0.0%	3.1%	3.8%
国際化	5.6%	6.7%	10.0%	4.0%	4.1%	3.4%	4.6%	5.0%
過疎化・人口減少	1.1%	1.7%	2.2%	1.0%	0.7%	0.0%	0.0%	1.3%
環境保護・美化	33.9%	35.2%	27.8%	39.0%	37.4%	27.6%	36.9%	27.5%
人権問題	1.9%	2.2%	3.3%	1.0%	1.4%	0.0%	1.5%	3.8%
市街中心部の空洞化	1.0%	1.7%	2.2%	1.0%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%
交通マナー	4.7%	10.6%	3.3%	4.0%	1.4%	1.7%	1.5%	5.0%
小中学生への学習指導・スポーツ指導	9.9%	9.5%	7.8%	4.0%	10.2%	8.6%	15.4%	16.3%
その他	8.1%	8.4%	4.4%	10.0%	10.9%	8.6%	7.7%	3.8%
無回答	0.4%	0.6%	1.1%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%

「郷土芸能の伝承」では、回答割合の最も高い上都賀地区と最も低い塩谷南那須地区で約 29 ポイント、「住民同士の交流」では、安足地区と那須地区で約 24 ポイントと、それぞれ大きな差がみられた。他にも、地区間で 10 ポイント以上の差がみられた項目が 4 項目あることから、地区間による差異があるといえる。

イ 課程・学科別にみた具体的な取組の内容
【表 48】

具体的な取組の内容 (課程・学科別)	全 県	全日制：普通・総合	全日制：職業系専門	定時制	通信制	特別支援
	n=719	n=412	n=190	n=44	n=12	n=61
防災（減災）・防犯	9.3%	8.7%	6.8%	20.5%	0.0%	14.8%
子どもの安全確保	4.6%	2.2%	6.3%	9.1%	25.0%	8.2%
家庭教育支援・子育て支援	14.2%	16.7%	12.1%	6.8%	8.3%	9.8%
青少年の健全育成	6.7%	6.1%	7.4%	2.3%	25.0%	8.2%
郷土芸能の伝承	20.6%	21.4%	16.8%	18.2%	41.7%	24.6%
子ども会・JLC・地域活動団体等の運営	22.4%	26.2%	18.4%	13.6%	16.7%	16.4%
住民同士の交流	23.6%	25.2%	18.9%	20.5%	25.0%	29.5%
高齢化	12.4%	11.2%	19.5%	6.8%	8.3%	3.3%
地域ブランド	3.6%	2.9%	3.7%	2.3%	33.3%	3.3%
国際化	5.6%	6.1%	4.7%	4.5%	0.0%	6.6%
過疎化・人口減少	1.1%	1.0%	1.6%	0.0%	0.0%	1.6%
環境保護・美化	33.9%	29.9%	38.4%	50.0%	41.7%	34.4%
人権問題	1.9%	2.2%	2.1%	0.0%	0.0%	1.6%
市街中心部の空洞化	1.0%	1.0%	1.1%	2.3%	0.0%	0.0%
交通マナー	4.7%	3.2%	3.2%	6.8%	8.3%	18.0%
小中学生への学習指導・スポーツ指導	9.9%	10.4%	9.5%	9.1%	8.3%	8.2%
その他	8.1%	6.8%	10.5%	6.8%	16.7%	8.2%
無回答	0.4%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%

課程・学科別にみると、「地域ブランド」で約 31 ポイント、「郷土芸能の伝承」で約 25 ポイント、「子どもの安全確保」「青少年の健全育成」で約 23 ポイント、「防災（減災）・防犯」で約 21 ポイント、「環境保護・美化」で約 20 ポイントの差が、回答割合の最も高い課程・学科と低い課程・学科との間にみられた。他にも、3 項目で 10 ポイント以上の差がみられるなど、課程・学科間の大きな差異があるといえる。

ウ 性別にみた具体的な取組の内容

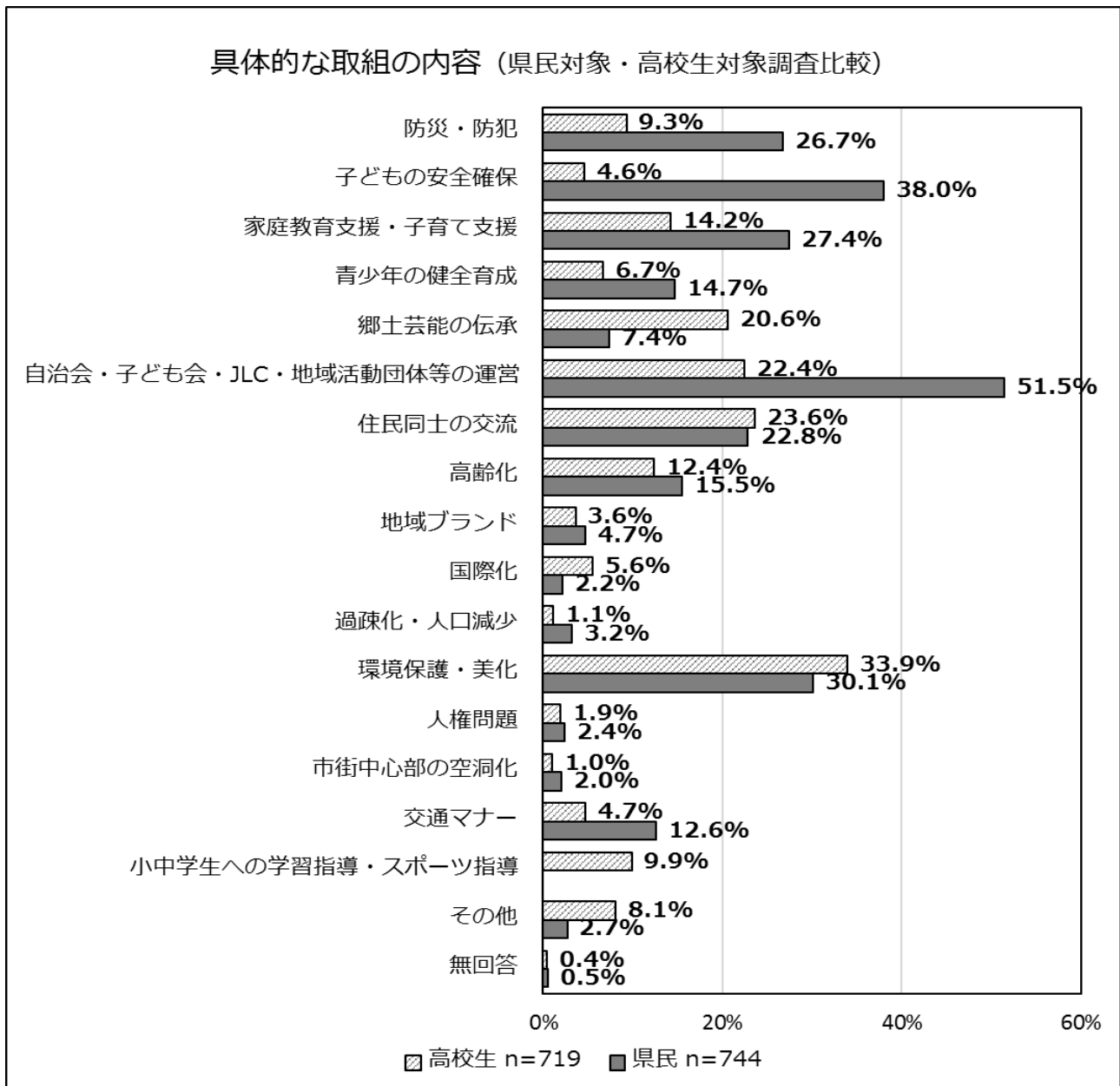
【表 49】

具体的な取組の内容 (性別)	全 県	女 性	男 性	無 回 答
	n = 719	n=397	n=294	n=28
防災（減災）・防犯	9.3%	8.6%	10.2%	10.7%
子どもの安全確保	4.6%	3.8%	5.4%	7.1%
家庭教育支援・子育て支援	14.2%	19.6%	5.4%	28.6%
青少年の健全育成	6.7%	6.8%	5.4%	17.9%
郷土芸能の伝承	20.6%	21.4%	18.7%	28.6%
子ども会・JLC・地域活動団体等の運営	22.4%	28.2%	15.3%	14.3%
住民同士の交流	23.6%	24.9%	21.8%	25.0%
高齢化	12.4%	16.4%	7.5%	7.1%
地域ブランド	3.6%	3.3%	3.1%	14.3%
国際化	5.6%	5.3%	5.1%	14.3%
過疎化・人口減少	1.1%	1.0%	1.0%	3.6%
環境保護・美化	33.9%	28.7%	40.1%	42.9%
人権問題	1.9%	1.8%	1.7%	7.1%
市街中心部の空洞化	1.0%	0.3%	1.7%	3.6%
交通マナー	4.7%	2.5%	7.5%	7.1%
小中学生への学習指導・スポーツ指導	9.9%	9.8%	10.2%	7.1%
その他	8.1%	9.1%	6.8%	7.1%
無回答	0.4%	0.0%	0.7%	3.6%

5ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、5項目に差異があるといえる。

「家庭教育支援・子育て支援」では約14ポイント、「子ども会・JLC・地域活動団体等の運営」では約13ポイント、「高齢化」では約9ポイント、それぞれ女性が男性を上回った。

また、「環境保護・美化」では約11ポイント、「交通マナー」では約5ポイント、それぞれ男性が女性を上回った。



「郷土芸能の伝承」「国際化」等、高校生の若い力がより生かせる分野で、県民より回答割合が高かった。また、「その他」の回答割合も高く、自らの興味・関心から幅広い分野で活動している状況もうかがえる。

《参考：問7「その他」の主な回答記述》

- カンボジアの孤児院でのボランティア活動
- 海外での洋服のリサイクル活動
- 地元プロスポーツの盛上げ役（SC チアーズ等）
- 地域の清掃活動（マンション周辺、神社周辺等）
- 障害のある方々のサポート（イベントの参加、乗馬介助等）
- フィリピンで子どもたちと交流
- スラム視察
- 図書館でのボランティア活動

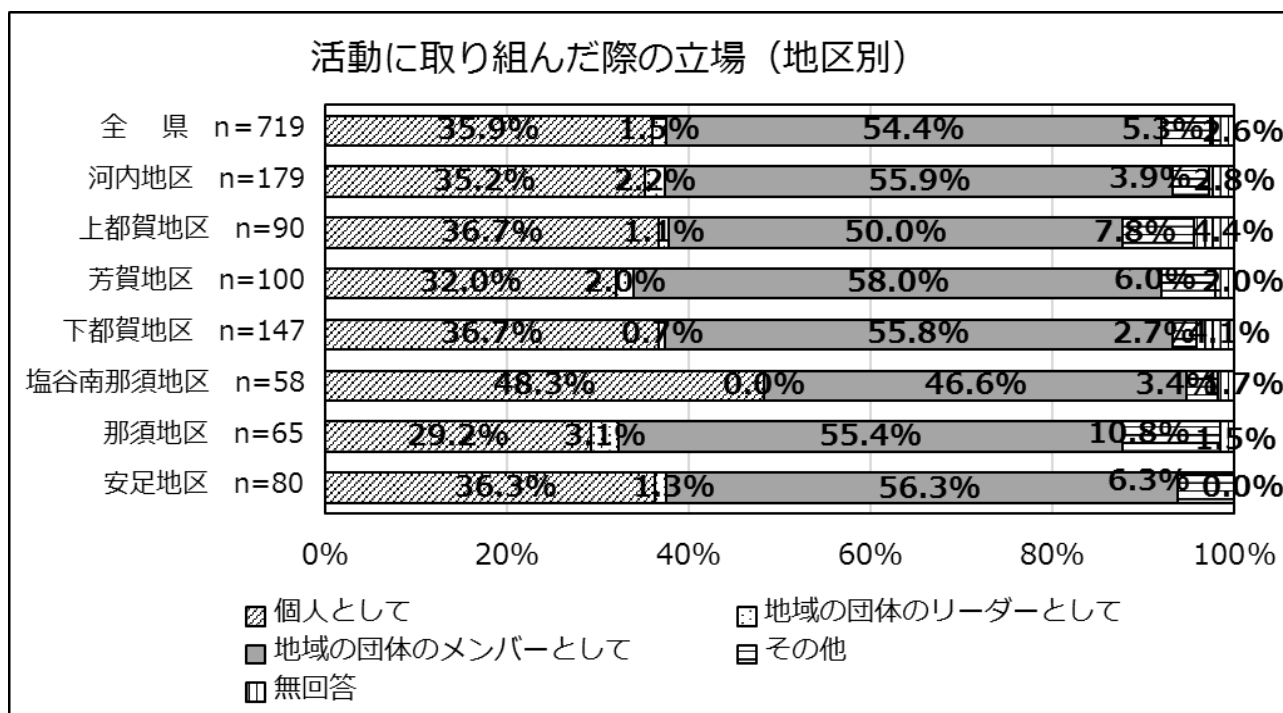
(9) 活動に取り組んだ際の立場

問8 問6で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。活動にはどのような立場で取り組んでいます（いました）か。最もよくあてはまる番号1つに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた活動に取り組んだ際の立場

図 45]

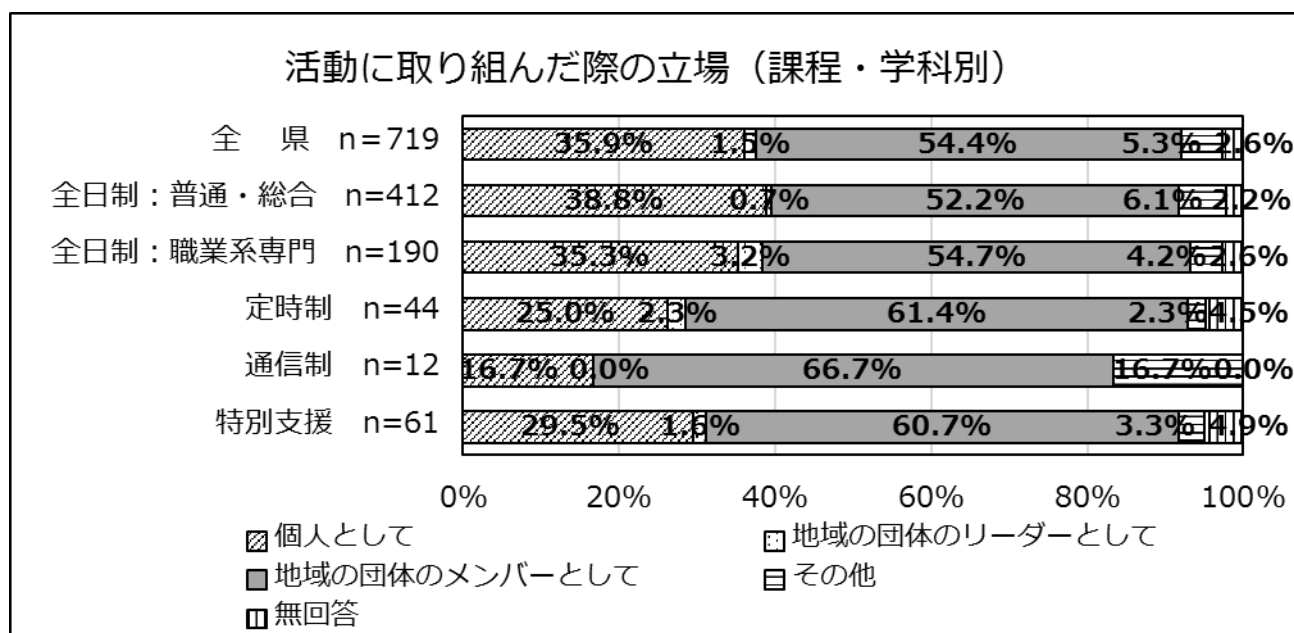


全県でみると、「個人として」と回答した割合が約 36%、地域の団体で活動している割合（「地域の団体のリーダーとして」「地域の団体のメンバーとして」と回答した回答割合の合計）が約 56%であった。団体のリーダーとして活動している生徒は、極めて少ない状況であった。

地区別にみると、塩谷南那須地区で「個人として」の回答割合が他地区と比べて 10%程度高いこと（地域の団体で活動している割合は他地区と比べて約 10%低い）、那須地区で「個人として」の回答割合が他地区と比べて約 7ポイント低いことが分かる。

イ 課程・学科別にみた活動に取り組んだ際の立場

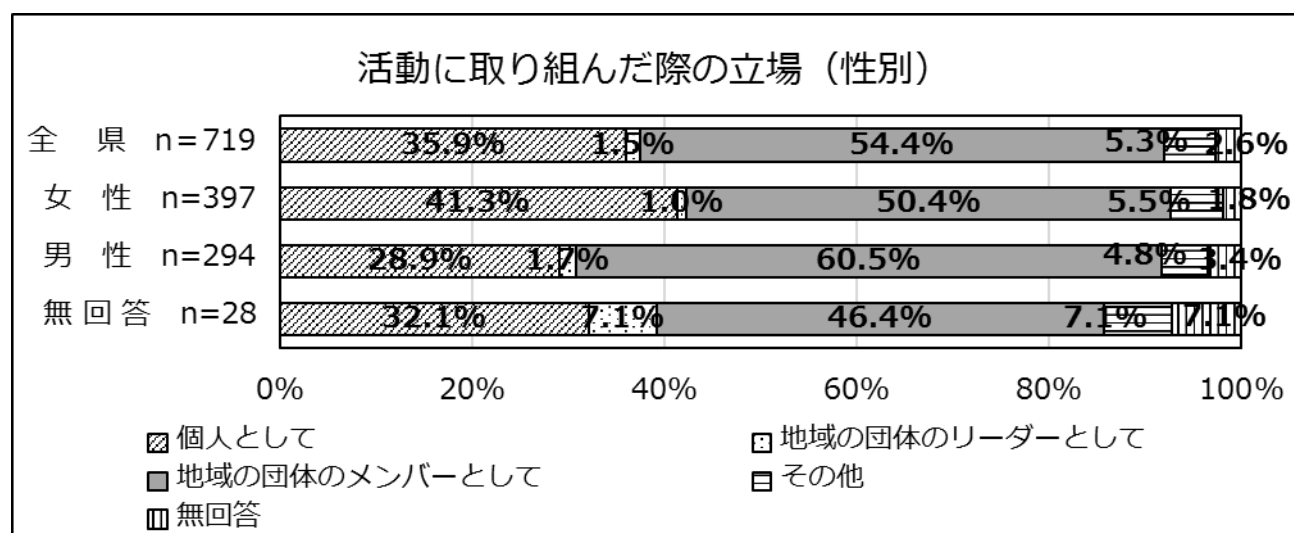
【図 46】



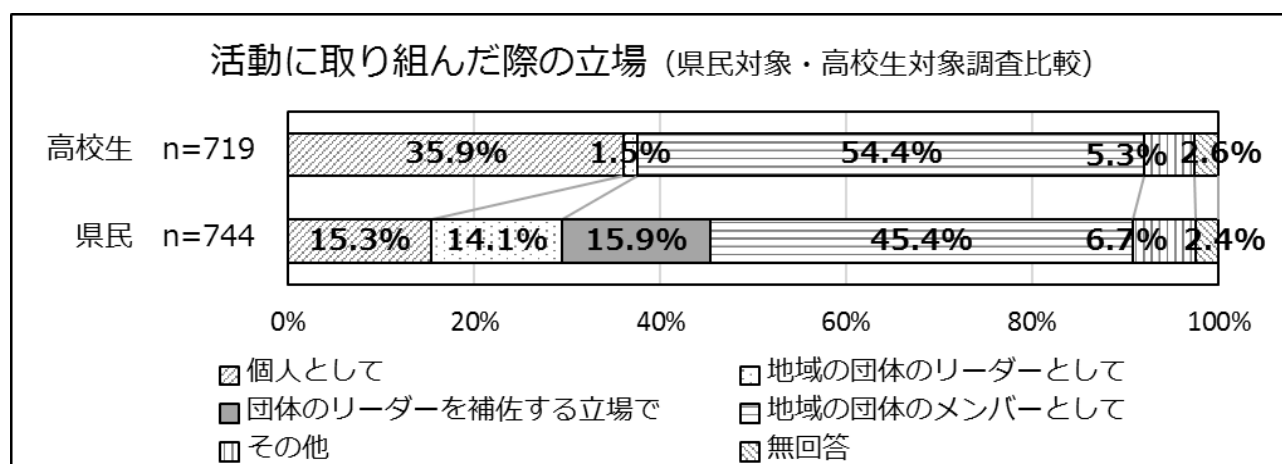
定時制、通信制、特別支援は、全日制と比べると「個人として」と回答した割合が低かった（地域の団体で活動している割合は全日制と比べて5～15%程度高い）。

ウ 性別にみた活動に取り組んだ際の立場

【図 47】



「個人として」と回答した割合は、女性が男性を約 12 ポイント上回った。一方で、地域の団体で活動している割合は、男性が女性を約 11 ポイント上回った。



「個人として」活動している割合は、県民と比較して高校生が約 21 ポイント高かった。一方で、地域の団体で活動している割合は、県民と比較して高校生が約 20 ポイント低かった。

《参考：問 7 「その他」の主な回答記述》

○家族の代理で（親、祖父母等）

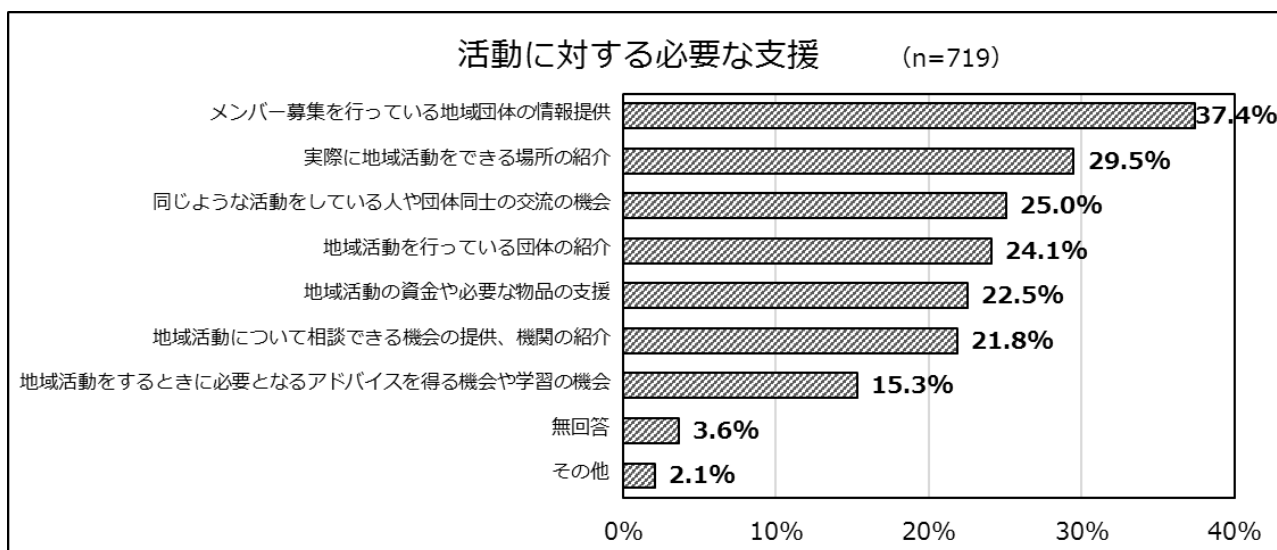
(10) 活動に対する必要な支援

問9 問6で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。どのような手助けがあると、さらに活動に取り組みやすくなると思いますか。あてはまる番号3つ以内に○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた必要な支援

【図 49】



【表 50】

活動に対する必要な支援 (各地区別)	全 県 n=719	河内地区 n=179	上都賀地区 n=90	芳賀地区 n=100	下都賀地区 n=147	塩谷南那須地区 n=58	那須地区 n=65	安足地区 n=80
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	21.8%	22.3%	24.4%	21.0%	22.4%	20.7%	12.3%	26.3%
メンバー募集を行っている地域団体の情報提供	37.4%	36.9%	30.0%	38.0%	38.8%	43.1%	41.5%	36.3%
地域活動を行っている団体の紹介	24.1%	25.7%	20.0%	23.0%	27.2%	25.9%	20.0%	22.5%
実際に地域活動ができる場所の紹介	29.5%	29.6%	33.3%	29.0%	27.2%	31.0%	27.7%	30.0%
地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会	15.3%	14.5%	14.4%	25.0%	11.6%	15.5%	9.2%	17.5%
同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会	25.0%	25.1%	28.9%	25.0%	21.1%	27.6%	23.1%	27.5%
地域活動の資金や必要な物品の支援	22.5%	20.7%	24.4%	20.0%	25.2%	22.4%	29.2%	17.5%
その他	2.1%	2.2%	2.2%	0.0%	4.1%	1.7%	0.0%	2.5%
無回答	3.6%	2.8%	3.3%	3.0%	2.7%	3.4%	10.8%	2.5%

全県でみると、「メンバー募集を行っている地域団体の情報提供」が37.4%で最上位となった。次いで、「実際に地域活動ができる場所の紹介」「同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会」と続いている。

地域別にみると、各項目とも全県での回答割合と近い値の地区が多いが、1～2地区程度離れた値を示した。地区間による差異がややあるといえる。

イ 課程・学科別にみた必要な支援

【表 51】

活動に対する必要な支援 (課程・学科別)	全 県	全日制：普通・総合	全日制：職業系専門	定時制	通信制	特別支援
	n = 719	n=412	n=190	n=44	n=12	n=61
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	21.8%	21.8%	17.4%	38.6%	16.7%	24.6%
メンバー募集を行っている地域団体の情報提供	37.4%	40.0%	36.8%	31.8%	25.0%	27.9%
地域活動を行っている団体の紹介	24.1%	23.5%	24.2%	22.7%	41.7%	24.6%
実際に地域活動をできる場所の紹介	29.5%	26.0%	33.7%	29.5%	16.7%	42.6%
地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会	15.3%	13.8%	14.7%	11.4%	41.7%	24.6%
同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会	25.0%	21.1%	27.9%	25.0%	16.7%	44.3%
地域活動の資金や必要な物品の支援	22.5%	22.8%	23.7%	20.5%	8.3%	21.3%
その他	2.1%	1.5%	3.2%	4.5%	0.0%	1.6%
無回答	3.6%	3.6%	1.6%	13.6%	0.0%	3.3%

定時制では、「地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介」の回答割合が、他と比べて極めて高かった。また、通信制では、「地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会」「地域活動を行っている団体の紹介」の回答割合が、他と比べて極めて高かった。特別支援では、「実際に地域活動をできる場所の紹介」「同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会」の回答割合が、他と比べて極めて高い結果となった。

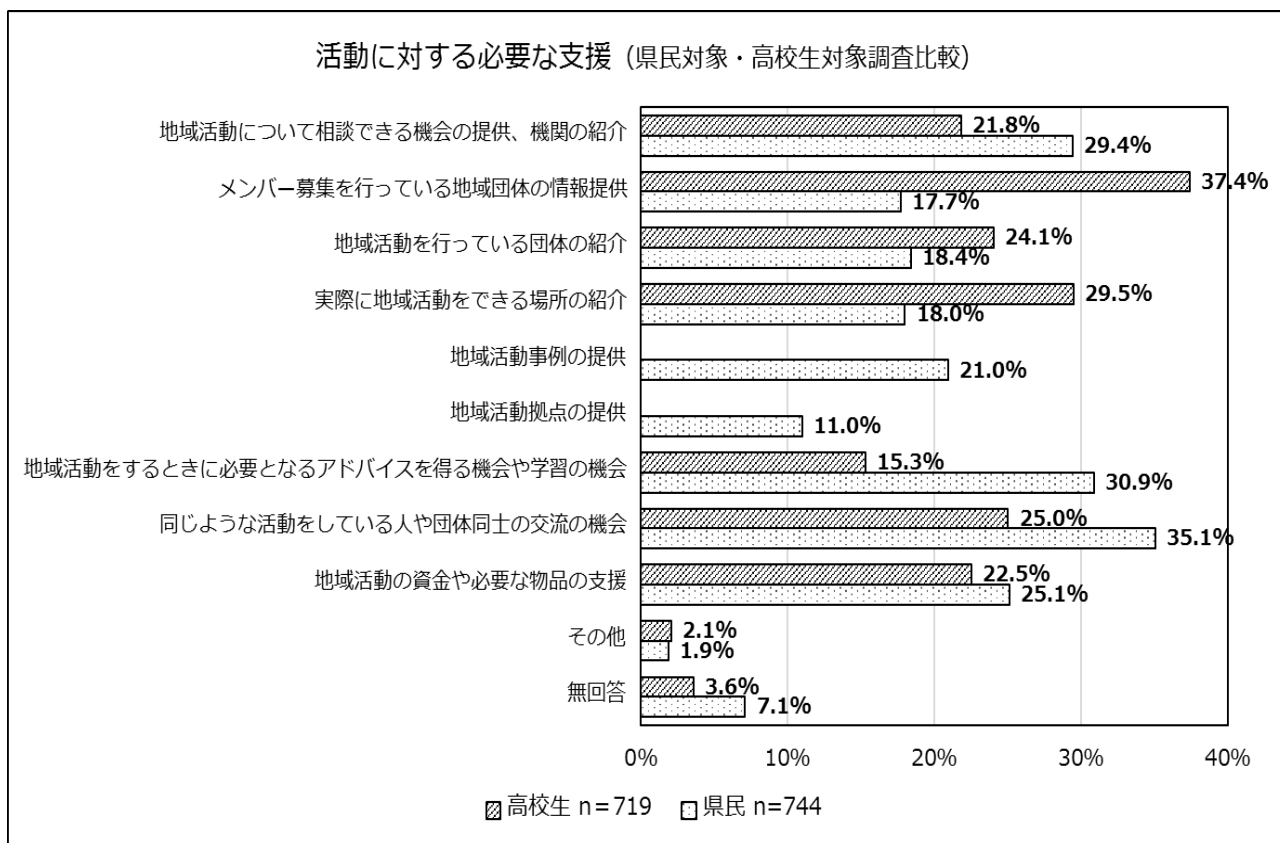
ウ 性別にみた必要な支援

【表 52】

活動に対する必要な支援 (性別)	全 県	女 性	男 性	無 回 答
	n = 719	n=397	n=294	n=28
地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介	21.8%	20.4%	24.1%	17.9%
メンバー募集を行っている地域団体の情報提供	37.4%	41.1%	33.0%	32.1%
地域活動を行っている団体の紹介	24.1%	24.4%	23.5%	25.0%
実際に地域活動をできる場所の紹介	29.5%	31.2%	27.6%	25.0%
地域活動をするときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会	15.3%	13.9%	18.0%	7.1%
同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会	25.0%	23.7%	27.9%	14.3%
地域活動の資金や必要な物品の支援	22.5%	18.9%	26.9%	28.6%
その他	2.1%	1.8%	2.7%	0.0%
無回答	3.6%	2.8%	4.1%	10.7%

5ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、2項目に差異があるといえる。

「メンバー募集を行っている地域団体の情報提供」では、女性が男性を約8ポイント上回った。一方で、「地域活動の資金や必要な物品の支援」では、男性が女性を約8ポイント上回った。



高校生が県民より回答割合が高いのは、「メンバー募集を行っている地域団体の情報提供」や「地域活動を行っている団体の紹介」「実際に地域活動ができる場所の紹介」など、活動できる場や組織の情報についての項目であった。

それに対して、県民が高校生より回答割合が高いのは、「地域活動について相談できる機会の提供、機関の紹介」「地域活動するときに必要となるアドバイスを得る機会や学習の機会」「同じような活動をしている人や団体同士の交流の機会」など、今取り組んでいる活動をさらに高めていけるようなサポートに関する項目であった。

《参考：問9「その他」の主な回答記述》

○学校内での地域活動に参加しやすい環境づくり（土曜の課外授業の際の認欠扱い等）

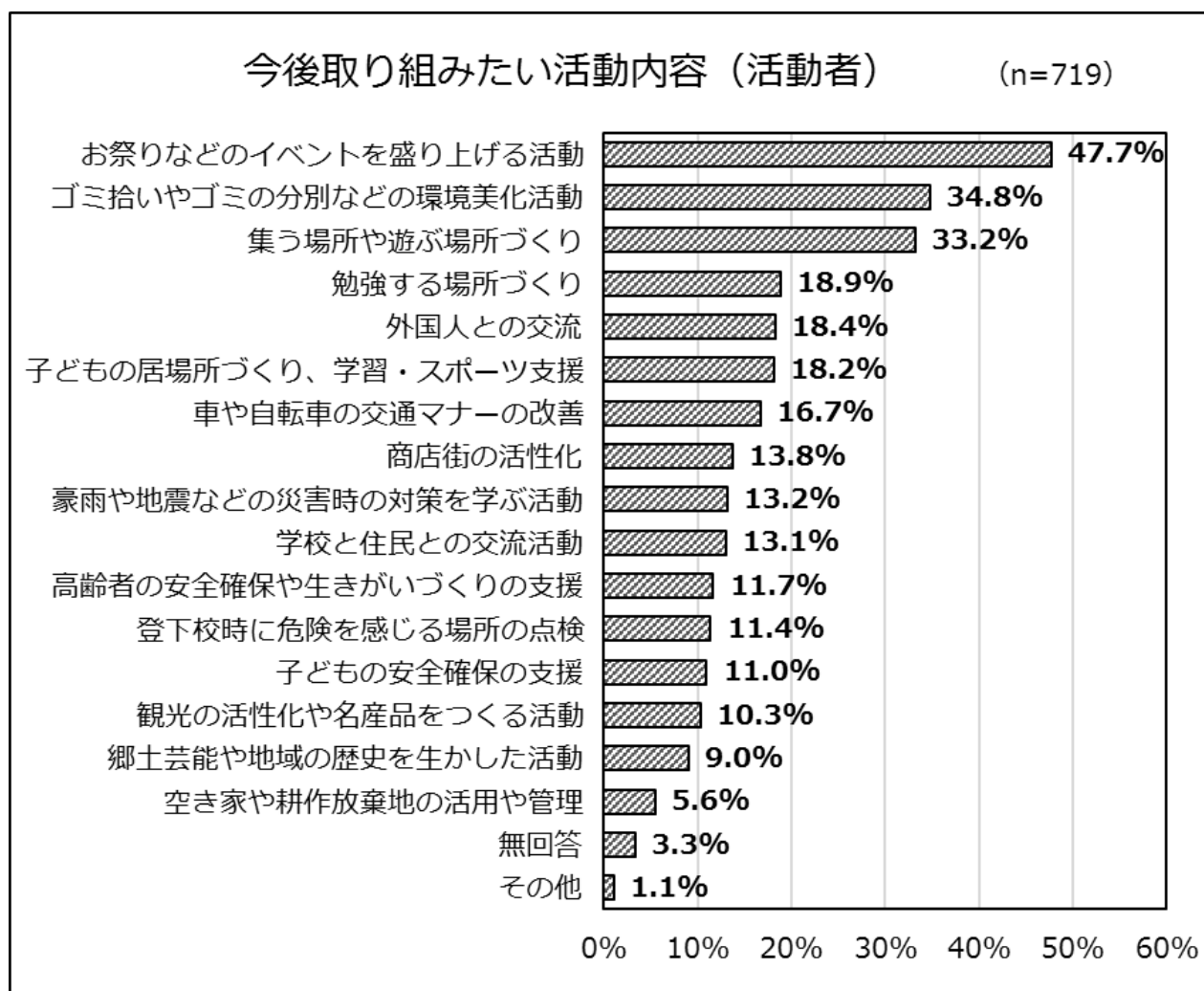
(11) 今後取り組みたい活動内容

問 10 問6で「取り組んでいる（または、過去に取り組んだことがある）」と回答された方にうかがいます。今後、どのような活動に取り組んでみたいですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた今後取り組みたい活動内容

【図 51】



全県でみると、「お祭りなどのイベントを盛り上げる活動」が47.7%で最上位であった。次いで、「ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動」「集う場所や遊ぶ場所づくり」が続き、これら3項目が、30%を超える回答割合となった。

【表 53】

今後取り組みたい活動内容 (各地区別)	全 県 n = 719	河内地区 n=179	上都賀地区 n=90	芳賀地区 n=100	下都賀地区 n=147	塩谷南那須地区 n=58	那須地区 n=65	安足地区 n=80
集う場所や遊ぶ場所づくり	33.2%	29.6%	38.9%	35.0%	26.5%	53.4%	29.2%	33.8%
車や自転車の交通マナーの改善	16.7%	18.4%	21.1%	20.0%	15.0%	12.1%	7.7%	17.5%
勉強する場所づくり	18.9%	20.7%	13.3%	17.0%	21.8%	17.2%	16.9%	21.3%
登下校時に危険を感じる場所の点検	11.4%	10.6%	13.3%	15.0%	12.9%	6.9%	10.8%	7.5%
豪雨や地震などの災害時の対策を学ぶ活動	13.2%	13.4%	21.1%	15.0%	10.2%	13.8%	12.3%	7.5%
ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動	34.8%	33.5%	42.2%	38.0%	36.1%	34.5%	24.6%	31.3%
学校と住民との交流活動	13.1%	13.4%	15.6%	13.0%	11.6%	17.2%	7.7%	13.8%
外国人との交流	18.4%	24.0%	16.7%	12.0%	15.6%	19.0%	18.5%	20.0%
お祭りなどのイベントを盛り上げる活動	47.7%	50.3%	47.8%	42.0%	46.9%	58.6%	41.5%	47.5%
高齢者の安全確保や生きがいづくりの支援	11.7%	10.6%	13.3%	12.0%	10.2%	17.2%	12.3%	10.0%
子どもの安全確保の支援	11.0%	14.5%	12.2%	8.0%	13.6%	6.9%	9.2%	5.0%
観光の活性化や名産品をつくる活動	10.3%	13.4%	7.8%	10.0%	8.2%	13.8%	9.2%	8.8%
商店街の活性化	13.8%	13.4%	18.9%	12.0%	10.9%	22.4%	15.4%	8.8%
空き家や耕作放棄地の活用や管理	5.6%	5.6%	7.8%	7.0%	5.4%	3.4%	3.1%	5.0%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動	9.0%	10.1%	14.4%	10.0%	8.2%	5.2%	4.6%	7.5%
子どもの居場所づくり、学習・スポーツ支援	18.2%	16.8%	17.8%	21.0%	19.0%	19.0%	21.5%	13.8%
その他	1.1%	0.6%	1.1%	0.0%	2.0%	1.7%	0.0%	2.5%
無回答	3.3%	4.5%	4.4%	2.0%	2.0%	0.0%	6.2%	3.8%

地区別にみると、全県で最上位であった「お祭りなどのイベントを盛り上げる活動」は、全ての地区で回答割合が最も高かった。全県で2番目、3番目に回答割合の高かった「ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動」「集う場所や遊ぶ場所づくり」は、各地区で順序は異なるものの、全ての地区でこの2項目が2番目、3番目に回答割合が高かった。

また、塩谷南那須地区では、「お祭りなどのイベントを盛り上げる活動」「集う場所や遊ぶ場所づくり」の回答割合がともに半数を超え、「商店街の活性化」も他の地区と比べて高かった。河内地区では「外国人との交流」が、上都賀地区では「豪雨や地震などの災害時の対策を学ぶ活動」の回答割合が、他の地区と比べて高かった。

イ 課程・学科別にみた今後取り組みたい活動内容
【表 54】

今後取り組みたい活動内容 (課程・学科別)	全 県 n=719	全日制：普通・総合 n=412	全日制：職業系専門 n=190	定時制 n=44	通信制 n=12	特別支援 n=61
集う場所や遊ぶ場所づくり	33.2%	33.0%	34.2%	40.9%	25.0%	27.9%
車や自転車の交通マナーの改善	16.7%	12.4%	20.5%	15.9%	16.7%	34.4%
勉強する場所づくり	18.9%	23.3%	12.6%	13.6%	8.3%	14.8%
登下校時に危険を感じる場所の点検	11.4%	7.8%	14.2%	13.6%	0.0%	27.9%
豪雨や地震などの災害時の対策を学ぶ活動	13.2%	12.9%	11.1%	13.6%	8.3%	23.0%
ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動	34.8%	28.6%	41.1%	47.7%	25.0%	49.2%
学校と住民との交流活動	13.1%	11.7%	15.3%	18.2%	25.0%	9.8%
外国人との交流	18.4%	19.2%	17.4%	18.2%	25.0%	14.8%
お祭りなどのイベントを盛り上げる活動	47.7%	50.0%	46.3%	40.9%	50.0%	41.0%
高齢者の安全確保や生きがいづくりの支援	11.7%	10.4%	13.7%	18.2%	8.3%	9.8%
子どもの安全確保の支援	11.0%	9.7%	9.5%	22.7%	0.0%	18.0%
観光の活性化や名産品をつくる活動	10.3%	10.0%	10.5%	9.1%	8.3%	13.1%
商店街の活性化	13.8%	15.0%	12.1%	9.1%	25.0%	11.5%
空き家や耕作放棄地の活用や管理	5.6%	3.6%	8.9%	6.8%	0.0%	8.2%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動	9.0%	8.7%	6.8%	11.4%	16.7%	14.8%
子どもの居場所づくり、学習・スポーツ支援	18.2%	18.4%	16.3%	20.5%	16.7%	21.3%
その他	1.1%	0.5%	2.6%	0.0%	0.0%	1.6%
無回答	3.3%	2.7%	2.6%	11.4%	0.0%	4.9%

全県でみた際の上位 3 項目「お祭りなどのイベントを盛り上げる活動」「ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動」「集う場所や遊ぶ場所づくり」が、課程・学科別にみても全ての課程・学科で上位 3 項目であった。

全日制普通・総合系学科では「勉強する場所づくり」が、定時制では「集う場所や遊ぶ場所づくり」「子どもの安全確保の支援」が、通信制では「商店街の活性化」が、特別支援では「車や自転車の交通マナーの改善」「登下校時に危険を感じる場所の点検」「ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動」が、それぞれ他の課程・学科より回答割合が高かった。

ウ 性別にみた必要な支援
【表 55】

今後取り組みたい活動内容 (性別)	全 県 n=719	女 性 n=397	男 性 n=294	無 回 答 n=28
集う場所や遊ぶ場所づくり	33.2%	30.2%	37.4%	32.1%
車や自転車の交通マナーの改善	16.7%	13.6%	21.4%	10.7%
勉強する場所づくり	18.9%	20.4%	15.6%	32.1%
登下校時に危険を感じる場所の点検	11.4%	10.8%	12.2%	10.7%
豪雨や地震などの災害時の対策を学ぶ活動	13.2%	13.1%	14.3%	3.6%
ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動	34.8%	35.0%	34.7%	32.1%
学校と住民との交流活動	13.1%	16.1%	9.9%	3.6%
外国人との交流	18.4%	22.2%	13.6%	14.3%
お祭りなどのイベントを盛り上げる活動	47.7%	56.4%	36.1%	46.4%
高齢者の安全確保や生きがいづくりの支援	11.7%	13.6%	9.9%	3.6%
子どもの安全確保の支援	11.0%	12.1%	9.5%	10.7%
観光の活性化や名産品をつくる活動	10.3%	13.1%	7.1%	3.6%
商店街の活性化	13.8%	15.4%	11.9%	10.7%
空き家や耕作放棄地の活用や管理	5.6%	5.3%	6.1%	3.6%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動	9.0%	11.3%	5.8%	10.7%
子どもの居場所づくり、学習・スポーツ支援	18.2%	22.4%	12.9%	14.3%
その他	1.1%	0.8%	1.7%	0.0%
無回答	3.3%	2.3%	4.1%	10.7%

5ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、8項目に差異があるといえる。

「お祭りなどのイベントを盛り上げる活動」で約20ポイントと女性が男性を大きく上回った。他にも、「子どもの居場所づくり、学習・スポーツ支援」で約10ポイント、「外国人との交流」で約9ポイント、「学校と住民との交流活動」「観光の活性化や名産品をつくる活動」「郷土芸能や地域の歴史を生かした活動」で約6ポイント、それぞれ女性が男性を上回った。

また、「車や自転車の交通マナーの改善」で約8ポイント、「集う場所や遊ぶ場所づくり」で約7ポイント、それぞれ男性が女性を上回った。

工 県民対象調査との比較

【表 56】

県民 n=744		高校生 n=719	
子どもの安全確保	37.5%	お祭りなどのイベントを盛り上げる活動	47.7%
家庭教育支援・子育て支援	30.6%	ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動	34.8%
自治会・子ども会等の運営	26.3%	集う場所や遊ぶ場所づくり	33.2%
住民同士の交流	26.1%	勉強する場所づくり	18.9%
高齢化	23.0%	外国人との交流	18.4%
防災・防犯	22.4%	子どもの居場所づくり、学習・スポーツ支援	18.2%
青少年の健全育成	17.9%	車や自転車の交通マナーの改善	16.7%
環境保護・美化	16.5%	商店街の活性化	13.8%
交通マナー	11.4%	豪雨や地震などの災害時の対策を学ぶ活動	13.2%
過疎化・人口減少	9.0%	学校と住民との交流活動	13.1%
地域ブランド	8.5%	高齢者の安全確保や生きがいづくりの支援	11.7%
郷土芸能の伝承	8.2%	登下校時に危険を感じる場所の点検	11.4%
国際化	7.7%	子どもの安全確保の支援	11.0%
無回答	4.8%	観光の活性化や名産品をつくる活動	10.3%
人権問題	4.6%	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動	9.0%
市街中心部の空洞化	3.2%	空き家や耕作放棄地の活用や管理	5.6%
特にない	2.3%	無回答	3.3%
その他	1.1%	その他	1.1%

両調査の同様の設問での選択肢が異なるため単純に比較することはできないが、共通してみられる傾向として、身近でできる活動に取り組んでみたいという意欲が表れていることが挙げられる。また、図 3 や図 32 で明らかにした課題意識が高い内容にも関わらず、取り組んでみたいという活動意欲につながっていないものも両調査にみられる。

《参考：問 10「その他」の主な回答記述》

○災害地復興への貢献

○過疎化への対応

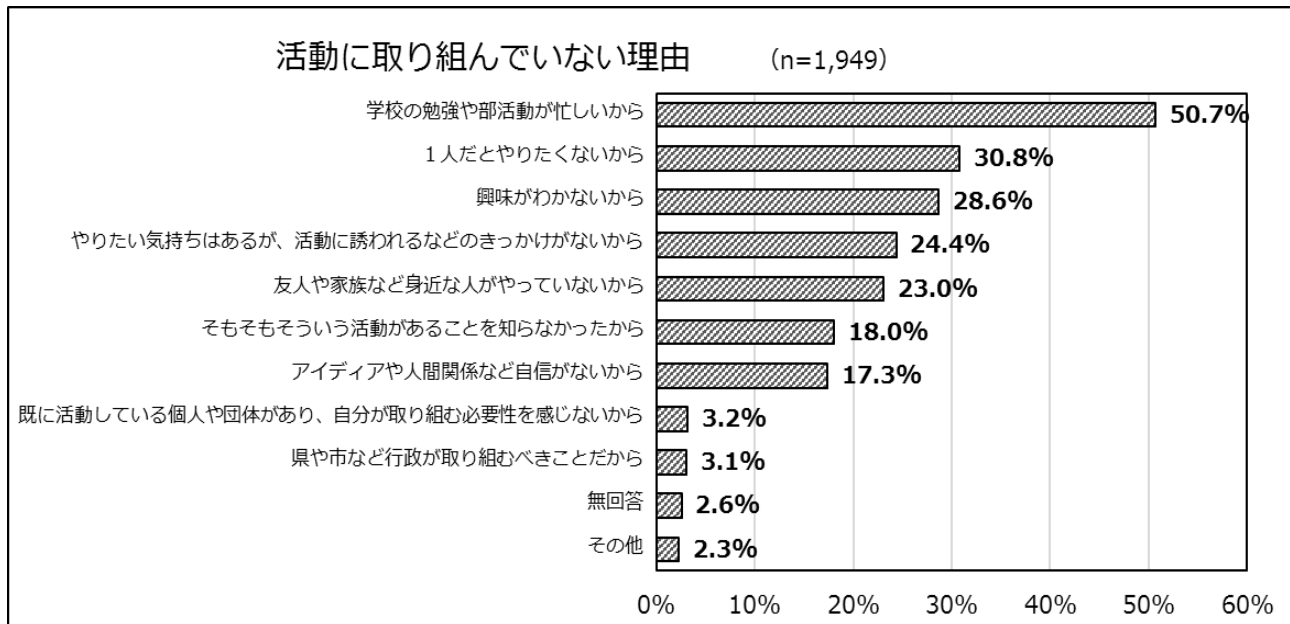
(12) 地域活動に取り組んでいない理由

問 11 問 6 で「取り組んでいない」と回答された方にうかがいます。取り組んでいない理由は何ですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた地域活動に取り組んでいない理由

【図 52】



【表 57】

活動に取り組んでいない理由 (各地区別)	全 県 n=1,949	河内地区 n=449	上都賀地区 n=203	芳賀地区 n=153	下都賀地区 n=441	塩谷南那須地区 n=192	那須地区 n=255	安足地区 n=256
学校の勉強や部活動が忙しいから	50.7%	51.0%	49.3%	45.8%	55.3%	45.3%	50.2%	51.2%
友人や家族など身近な人がやっていないから	23.0%	20.0%	20.7%	27.5%	21.1%	29.2%	24.3%	25.0%
1人だとやりたくないから	30.8%	27.6%	31.5%	27.5%	29.5%	39.1%	35.7%	28.9%
やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから	24.4%	26.9%	19.7%	27.5%	23.4%	30.7%	20.4%	22.7%
アイデアや人間関係など自信がないから	17.3%	16.7%	12.8%	16.3%	17.2%	25.0%	18.4%	16.0%
そもそもそういう活動があることを知らなかったから	18.0%	18.5%	15.3%	24.8%	16.6%	18.2%	17.3%	18.4%
既に活動している個人や団体があり、自分が取り組む必要性を感じないから	3.2%	4.2%	4.9%	3.3%	1.8%	2.6%	2.7%	3.1%
県や市など行政が取り組むべきことだから	3.1%	4.2%	4.4%	5.9%	1.4%	2.6%	1.2%	3.5%
興味がわからないから	28.6%	31.2%	36.9%	20.9%	25.2%	27.6%	31.4%	26.2%
その他	2.3%	2.2%	3.4%	1.3%	1.4%	1.6%	2.7%	3.9%
無回答	2.6%	2.7%	1.5%	3.9%	2.0%	0.5%	3.5%	3.9%

地域活動の解決に向けた活動に取り組んでいないと回答した 1,949 名に、その理由について質問した。

全県でみると、「学校の勉強や部活動が忙しいから」で半数超の回答があり、地区別にみても全ての地区で最上位であった。次いで、「1 人だとやりたくないから」で約 31%の回答割合であった。一方で、「興味がわからないから」という回答割合も高く、約 29%の回答があった。

地区間では大きな差異がみられなかった。

イ 課程・学科別にみた地域活動に取り組んでいない理由
【表 58】

活動に取り組んでいない理由 (課程・学科別)	全 県	全日制：普通・総合	全日制：職業系専門	定時制	通信制	特別支援
	n=1,949	n=1,129	n=511	n=134	n=32	n=143
学校の勉強や部活動が忙しいから	50.7%	57.1%	50.3%	29.9%	34.4%	25.2%
友人や家族など身近な人がやっていないから	23.0%	23.2%	24.3%	23.1%	28.1%	16.1%
1 人だとやりたくないから	30.8%	30.0%	34.1%	27.6%	28.1%	28.7%
やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから	24.4%	25.3%	22.5%	21.6%	28.1%	25.2%
アイデアや人間関係など自信がないから	17.3%	17.1%	14.7%	21.6%	18.8%	24.5%
そもそもそういう活動があることを知らなかったから	18.0%	18.2%	18.0%	16.4%	28.1%	15.4%
既に活動している個人や団体があり、自分が取り組む必要性を感じないから	3.2%	2.8%	3.1%	2.2%	0.0%	7.7%
県や市など行政が取り組むべきことだから	3.1%	2.3%	3.9%	1.5%	6.3%	7.0%
興味がわからないから	28.6%	24.7%	29.0%	49.3%	28.1%	39.2%
その他	2.3%	2.3%	1.0%	5.2%	6.3%	3.5%
無回答	2.6%	1.9%	2.9%	3.0%	3.1%	6.3%

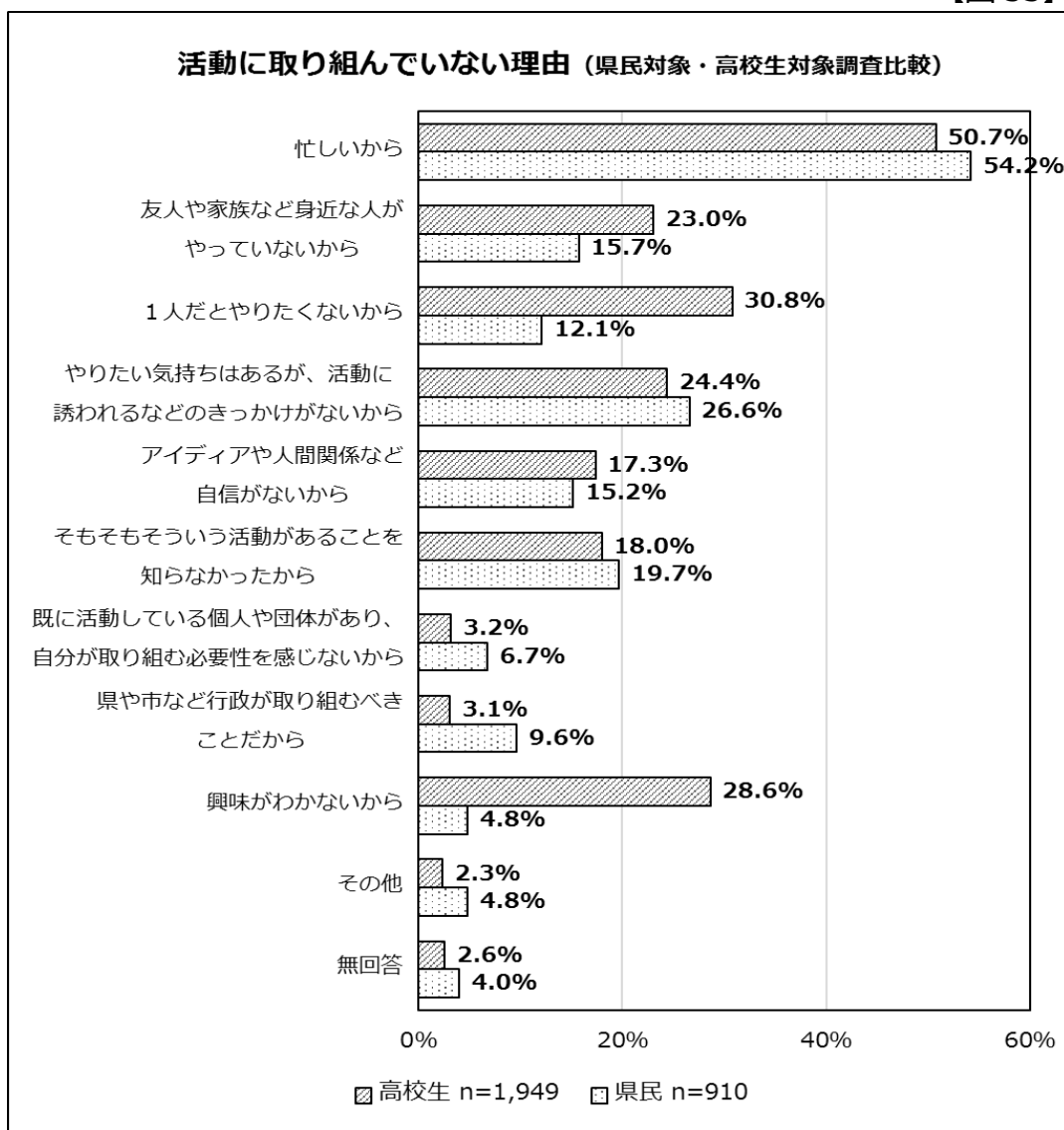
全日制では「学校の勉強や部活動が忙しいから」が、定時制・特別支援では「興味がわからないから」が、通信制では「そもそもそういう活動があることを知らなかったから」が、それぞれ他の課程・学科よりも回答割合が高かった。

ウ 性別にみた地域活動に取り組んでいない理由

【表 59】

活動に取り組んでいない理由 (性別)	全 県	女 性	男 性	無 回 答
	n=1,949	n=892	n=995	n=62
学校の勉強や部活動が忙しいから	50.7%	48.8%	52.8%	46.8%
友人や家族など身近な人がやっていないから	23.0%	27.1%	19.4%	22.6%
1人だとやりたくないから	30.8%	35.1%	27.1%	27.4%
やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから	24.4%	30.0%	19.8%	16.1%
アイディアや人間関係など自信がないから	17.3%	20.9%	14.0%	21.0%
そもそもそういう活動があることを知らなかったから	18.0%	20.5%	15.8%	17.7%
既に活動している個人や団体があり、自分に取り組む必要性を感じないから	3.2%	2.7%	3.4%	6.5%
県や市など行政が取り組むべきことだから	3.1%	2.1%	4.0%	1.6%
興味がわからないから	28.6%	23.7%	32.9%	32.3%
その他	2.3%	2.1%	2.3%	4.8%
無回答	2.6%	1.7%	3.4%	1.6%

「友人や家族など身近な人がやっていないから」「1人だとやりたくないから」「やりたい気持ちはあるが、活動に誘われるなどのきっかけがないから」など、他者との同調に類する回答をした割合は、女性が男性を上回った。一方で、男性が女性を大きく上回ったのは、「興味がわからないから」という回答であった。



成人すると、地域活動に意義を見出しつつも参加できていない現況がみえる。しかし、高校生では、地域活動自体に「興味がわからないから」と回答した割合が3割程度あった。また、県民以上に、「1人だとやりたくないから」「友人や家族などの身近な人がやっていないから」などの回答割合が高いことがいえる。

《参考：問 11「その他」の主な回答記述》◎は特に回答が多かった記述

- ◎自宅近くでできる活動がないから（移動手段がないから）
- ◎学校での活動で十分だから
- 自分が活動しても地域課題の解決につながるとは思えないから
- 自分に対するメリットが感じられず、自分の時間を使う価値がないと考えるから
- 車いすだと難しそうだから
- 考え方が変わったり、将来役に立ったりするなど、自分の成長につながるボランティアの内容ではないから

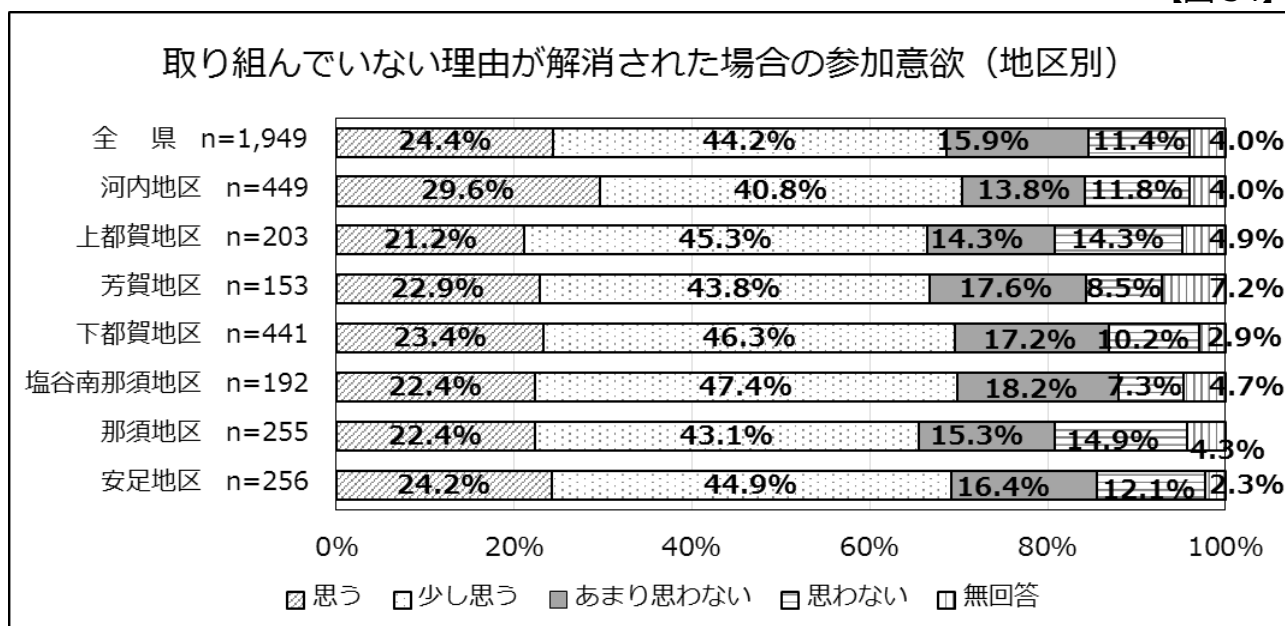
(13) 取り組まない理由が解消された場合の参加意欲

問 12 問 6 で「取り組んでいない」と回答された方にうかがいます。問 11 の理由が解消されたら、活動に取り組みたいと思いますか。最もよくあてはまる番号 1 つに○をつけてください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた状況

【図 54】

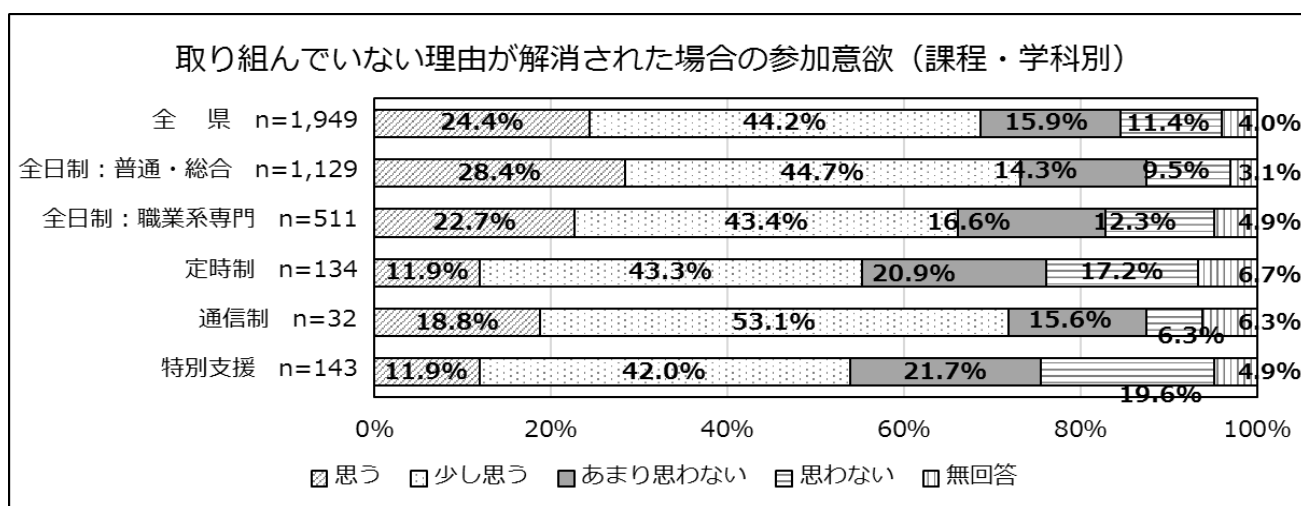


全県でみると、「思う」「少し思う」との回答割合の合計は 68.6%であった。

地区別でみると、河内地区で「思う」の割合が他の地区と比べてやや高かったが、大きな差異はみられない。

イ 課程・学科別にみた状況

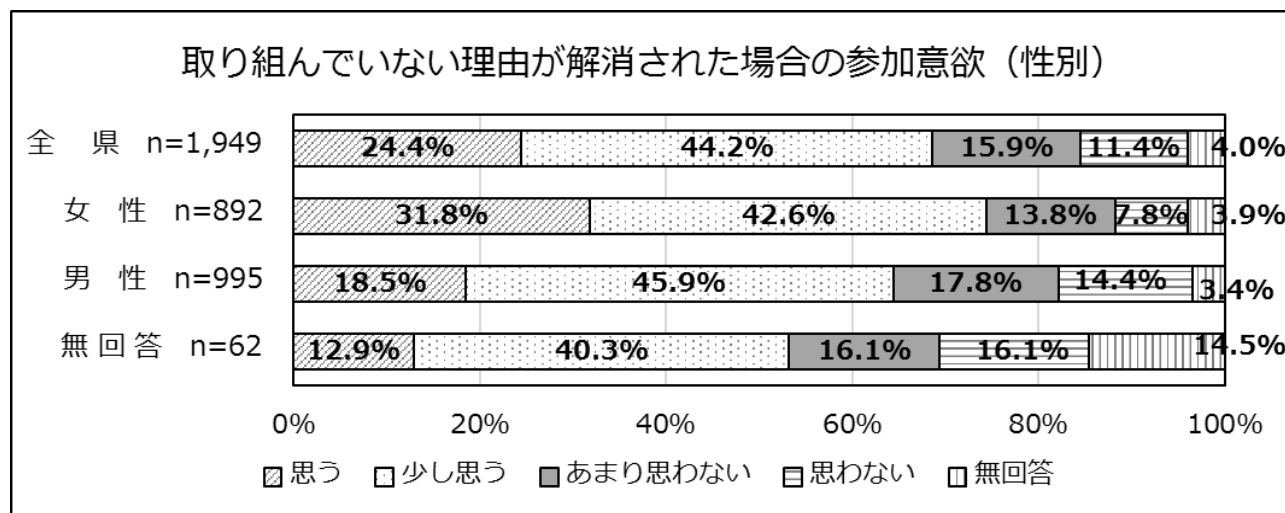
【図 55】



「思う」「少し思う」の回答割合の合計は、全日制普通・総合系学科、通信制で7割を超えて、他と比べて高かった。一方で、定時制、特別支援ではその割合が半数を超えた程度で、他と比べて低かった。

ウ 性別にみた状況

【図 56】

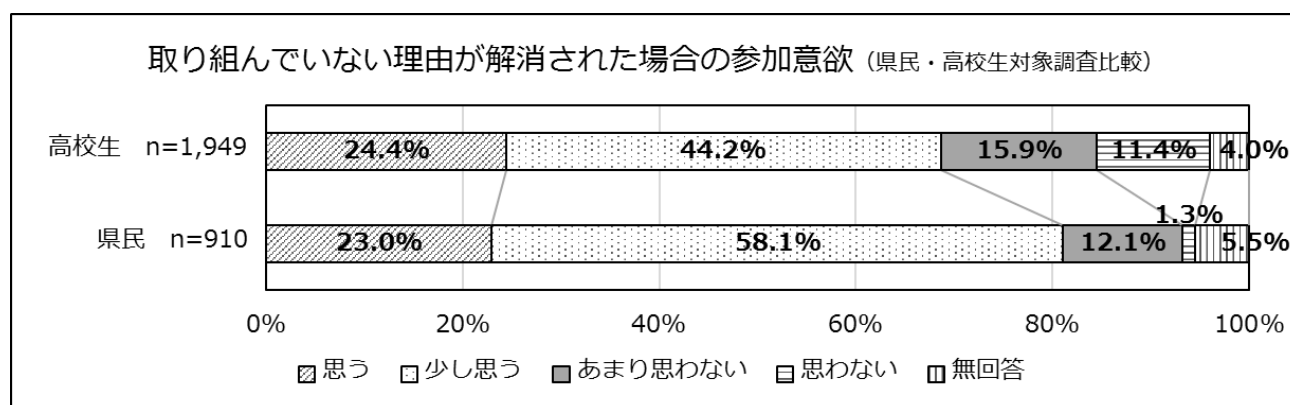


「思う」「少し思う」の回答割合の合計は、女性が男性を約 10 ポイント上回った。

「あまり思わない」「思わない」の回答割合の合計は、男性が女性を約 11 ポイント上回った。

エ 県民対象調査との比較

【図 57】



「思う」「少し思う」の回答割合の合計は、県民が高校生を約 13 ポイント上回った。

「あまり思わない」「思わない」の回答割合の合計は、高校生が県民を約 14 ポイント上回った。

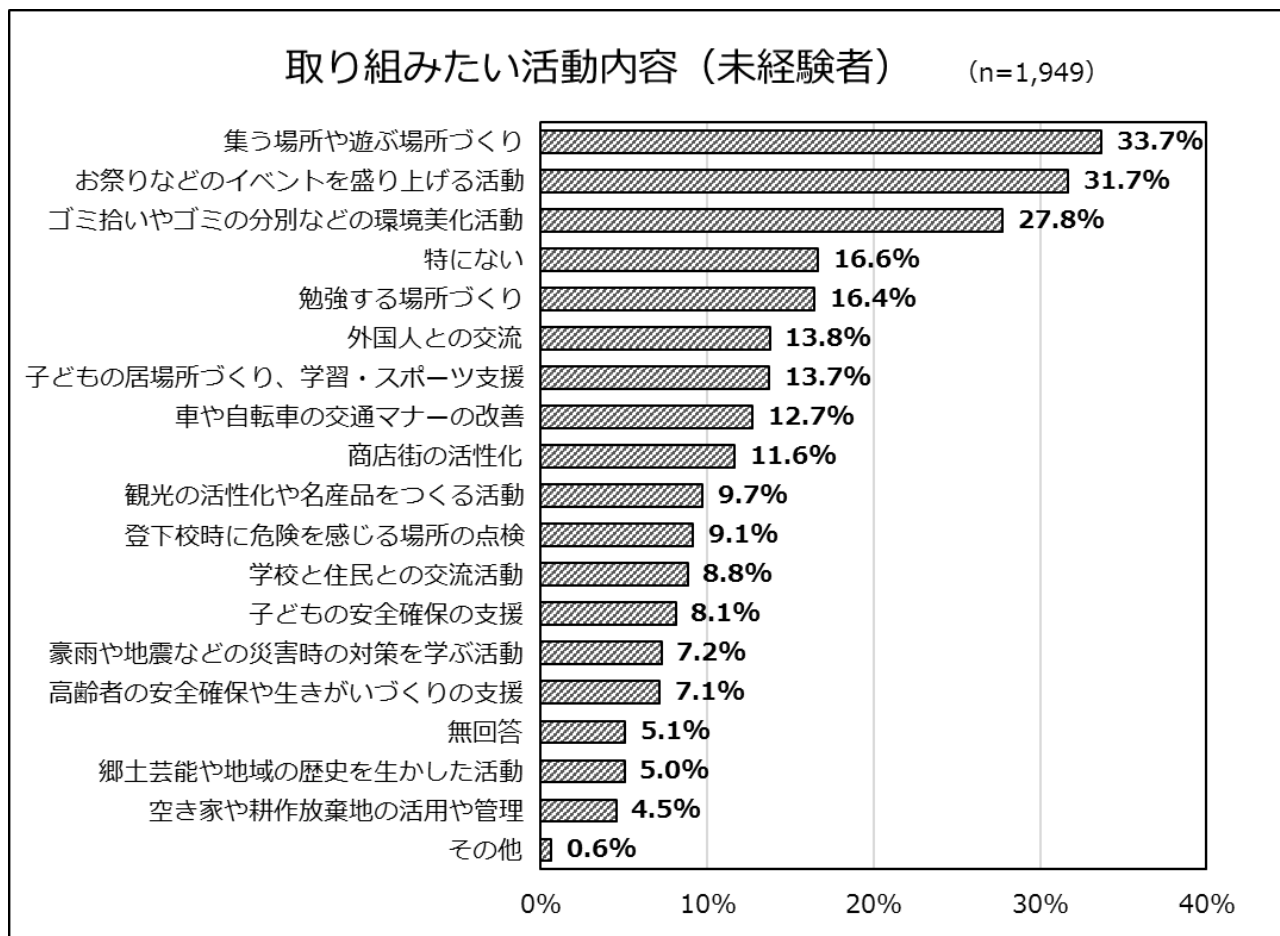
(14) 活動未経験者の取り組みたい活動内容

問 13 問 6 で「取り組んでいない」と回答された方にうかがいます。どのような活動であれば、取り組んでみたいですか。あてはまる番号全てに○をつけてください。その他を選択した場合には、〔 〕内にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

ア 各地区別にみた状況

【図 58】



全県でみると、「集う場所や遊ぶ場所づくり」と回答した割合が 1/3 を超えて最上位であった。次いで、「お祭りなどのイベントを盛り上げる活動」であり、これらの 2 項目が 30% を超えた。

「ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動」も 27.8% と回答割合が高かった。

【表 60】

今後取り組みたい活動内容 (各地区別)	全 県 n=1,949	河内地区 n=449	上都賀地区 n=203	芳賀地区 n=153	下都賀地区 n=441	塩谷南那須地区 n=192	那須地区 n=255	安足地区 n=256
集う場所や遊ぶ場所づくり	33.7%	29.6%	36.0%	37.9%	34.0%	41.1%	35.3%	28.5%
車や自転車の交通マナーの改善	12.7%	17.1%	11.3%	11.1%	11.6%	9.9%	9.4%	14.5%
勉強する場所づくり	16.4%	19.4%	12.3%	15.7%	16.1%	17.2%	15.7%	15.6%
登下校時に危険を感じる場所の点検	9.1%	12.2%	7.4%	11.1%	9.8%	4.2%	8.2%	7.4%
豪雨や地震などの災害時の対策を学ぶ活動	7.2%	6.9%	8.9%	9.2%	7.0%	8.3%	5.1%	7.0%
ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動	27.8%	30.7%	23.6%	26.8%	28.6%	31.3%	24.3%	25.8%
学校と住民との交流活動	8.8%	10.5%	8.9%	9.2%	7.3%	8.9%	7.8%	9.4%
外国人との交流	13.8%	18.9%	12.3%	11.1%	12.7%	11.5%	11.8%	12.9%
お祭りなどのイベントを盛り上げる活動	31.7%	29.6%	30.0%	28.1%	32.0%	36.5%	29.0%	37.1%
高齢者の安全確保や生きがいづくりの支援	7.1%	12.5%	6.9%	5.2%	3.9%	4.2%	5.5%	8.6%
子どもの安全確保の支援	8.1%	10.7%	6.4%	7.8%	6.3%	4.7%	9.0%	9.8%
観光の活性化や名産品をつくる活動	9.7%	12.9%	10.3%	9.2%	7.0%	9.9%	7.1%	10.9%
商店街の活性化	11.6%	14.3%	13.8%	12.4%	6.6%	14.6%	9.4%	13.7%
空き家や耕作放棄地の活用や管理	4.5%	7.1%	3.0%	4.6%	2.5%	5.7%	5.1%	3.1%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動	5.0%	7.1%	4.9%	6.5%	3.9%	4.2%	2.4%	5.9%
子どもの居場所づくり、学習・スポーツ支援	13.7%	15.8%	11.3%	8.5%	13.4%	10.9%	12.5%	18.8%
特にない	16.6%	16.9%	19.7%	12.4%	16.8%	13.5%	18.8%	16.0%
その他	0.6%	0.7%	1.0%	1.3%	0.2%	0.5%	0.0%	1.2%
無回答	5.1%	5.8%	5.4%	6.5%	3.4%	3.6%	7.8%	3.9%

地区別でみると、全県で最も回答割合の高かった「集う場所や遊ぶ場所づくり」は、河内、安足地区以外の5地区で最上位となった。河内地区では「ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動」が、安足地区では「お祭りなどのイベントを盛り上げる活動」が、それぞれ回答割合が最も高かった。

項目毎にみると、「集う場所や遊ぶ場所づくり」では、回答割合の最も高い塩谷南那須地区と、低い安足地区で約13ポイントの差があるが、それ以外の項目については10ポイント以内の差であり、地区間の大きな差異はみられない。

イ 課程・学科別にみた状況

【表 61】

今後取り組みたい活動内容 (課程・学科別)	全 県 n=1,949	全日制：普通・総合 n=1,129	全日制：職業系専門 n=511	定時制 n=134	通信制 n=32	特別支援 n=143
集う場所や遊ぶ場所づくり	33.7%	35.6%	34.2%	26.1%	34.4%	23.1%
車や自転車の交通マナーの改善	12.7%	11.0%	11.9%	17.9%	15.6%	23.8%
勉強する場所づくり	16.4%	19.8%	13.1%	7.5%	18.8%	9.1%
登下校時に危険を感じる場所の点検	9.1%	7.8%	8.8%	10.4%	12.5%	18.9%
豪雨や地震などの災害時の対策を学ぶ活動	7.2%	6.6%	7.0%	9.0%	3.1%	11.9%
ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動	27.8%	27.7%	27.4%	24.6%	18.8%	34.3%
学校と住民との交流活動	8.8%	9.1%	8.4%	8.2%	6.3%	9.1%
外国人との交流	13.8%	14.7%	12.1%	10.4%	9.4%	16.1%
お祭りなどのイベントを盛り上げる活動	31.7%	32.6%	33.9%	23.1%	28.1%	25.2%
高齢者の安全確保や生きがいづくりの支援	7.1%	6.4%	8.0%	3.7%	9.4%	12.6%
子どもの安全確保の支援	8.1%	7.8%	7.2%	10.4%	9.4%	11.2%
観光の活性化や名産品をつくる活動	9.7%	8.8%	11.7%	10.4%	3.1%	10.5%
商店街の活性化	11.6%	12.6%	12.1%	6.7%	9.4%	7.7%
空き家や耕作放棄地の活用や管理	4.5%	3.8%	5.3%	3.7%	6.3%	7.7%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動	5.0%	5.1%	4.1%	7.5%	0.0%	6.3%
子どもの居場所づくり、学習・スポーツ支援	13.7%	14.0%	13.1%	7.5%	12.5%	19.6%
特にない	16.6%	14.1%	17.0%	30.6%	18.8%	21.7%
その他	0.6%	0.5%	0.6%	1.5%	0.0%	0.7%
無回答	5.1%	4.0%	5.9%	9.0%	3.1%	7.7%

全県でみた際の上位 3 項目「集う場所や遊ぶ場所づくり」「お祭りなどのイベントを盛り上げる活動」「ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動」が、課程・学科別にみても全ての課程・学科で上位であった。

定時制では「特にない」が最も高く、特別支援では「車や自転車の交通マナーの改善」「登下校時に危険を感じる場所の点検」「ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動」が、それぞれ他の課程・学科より回答割合が高かった。

ウ 性別にみた状況

【表 62】

今後取り組みたい活動内容 (性別)	全 県 n=1,949	女 性 n=892	男 性 n=995	無 回 答 n=62
集う場所や遊ぶ場所づくり	33.7%	34.2%	34.1%	19.4%
車や自転車の交通マナーの改善	12.7%	10.0%	15.3%	11.3%
勉強する場所づくり	16.4%	17.7%	15.9%	6.5%
登下校時に危険を感じる場所の点検	9.1%	7.6%	10.5%	9.7%
豪雨や地震などの災害時の対策を学ぶ活動	7.2%	7.3%	7.4%	3.2%
ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動	27.8%	28.7%	27.9%	11.3%
学校と住民との交流活動	8.8%	11.8%	6.2%	8.1%
外国人との交流	13.8%	17.7%	10.6%	8.1%
お祭りなどのイベントを盛り上げる活動	31.7%	42.5%	22.9%	16.1%
高齢者の安全確保や生きがいづくりの支援	7.1%	10.4%	4.5%	1.6%
子どもの安全確保の支援	8.1%	11.8%	5.1%	3.2%
観光の活性化や名産品をつくる活動	9.7%	12.7%	7.3%	4.8%
商店街の活性化	11.6%	12.3%	11.3%	8.1%
空き家や耕作放棄地の活用や管理	4.5%	5.0%	4.1%	3.2%
郷土芸能や地域の歴史を生かした活動	5.0%	7.0%	3.5%	1.6%
子どもの居場所づくり、学習・スポーツ支援	13.7%	17.6%	10.8%	4.8%
特にない	16.6%	12.3%	20.1%	22.6%
その他	0.6%	0.3%	0.8%	1.6%
無回答	5.1%	5.2%	4.2%	17.7%

5ポイント以上の開きがあるものを明確な差異と捉えた場合、8項目に差異があるといえる。

「お祭りなどのイベントを盛り上げる活動」は、女性の42.5%が回答し、男性を約20ポイント上回った。他にも、「外国人との交流」「子どもの居場所づくり、学習・スポーツ支援」で約7ポイント、「高齢者の安全確保や生きがいづくりの支援」で約6ポイント、「学校と住民の交流活動」「観光の活性化や名産品をつくる活動」で約5ポイント、それぞれ女性が男性を上回った。

また、「特にない」で8ポイント、「車や自転車の交通マナーの改善」で約5ポイント、男性が女性を上回った。

工 県民対象調査との比較

【表 63】

県民 n=910		高校生 n=1,949	
子どもの安全確保	37.4%	集う場所や遊ぶ場所づくり	33.7%
家庭教育支援・子育て支援	29.3%	お祭りなどのイベントを盛り上げる活動	31.7%
防災・防犯	22.5%	ゴミ拾いやゴミの分別などの環境美化活動	27.8%
高齢化	21.8%	特にない	16.6%
住民同士の交流	20.8%	勉強する場所づくり	16.4%
環境保護・美化	16.3%	外国人との交流	13.8%
自治会・子ども会等の運営	12.4%	子どもの居場所づくり、学習・スポーツ支援	13.7%
青少年の健全育成	11.1%	車や自転車の交通マナーの改善	12.7%
交通マナー	9.8%	商店街の活性化	11.6%
過疎化・人口減少	9.6%	観光の活性化や名産品をつくる活動	9.7%
地域ブランド	9.0%	登下校時に危険を感じる場所の点検	9.1%
無回答	6.9%	学校と住民との交流活動	8.8%
郷土芸能の伝承	6.6%	子どもの安全確保の支援	8.1%
特にない	6.6%	豪雨や地震などの災害時の対策を学ぶ活動	7.2%
市街中心部の空洞化	6.0%	高齢者の安全確保や生きがいづくりの支援	7.1%
国際化	5.1%	無回答	5.1%
人権問題	2.6%	郷土芸能や地域の歴史を生かした活動	5.0%
その他	0.8%	空き家や耕作放棄地の活用や管理	4.5%
		その他	0.6%

項目が同一ではないため単純比較はできないが、県民の傾向と比べ、高校生は、直接的かつ即効性のある活動を望んでいる傾向があるといえる。

《参考：問 13「その他」の主な回答記述》

○e スポーツのイベント

○生態調査など科学的活動

○自分の就職したい職種に関する活動

(15) 地域活動に対するそれぞれの思い

問 14 その他、地域を学ぶことやボランティア・地域の活動について、自由にお書きください。

* 設問・選択肢の詳細は、巻末のアンケート調査票を御覧ください。

アンケート調査回答者の地域活動全般に関する自由記述について、主なものを下に挙げた。

《参考：問 14 の主な回答記述》◎は特に回答が多かった記述

- ◎地域を学び、交流を深めていくことで、地域への貢献意識が高まったり、自らの新しい経験として今後の糧になったりすると思うので、地域活動は大切である。
- ◎ボランティア活動に参加したいが方法や時間が分からないのであまり参加できない。手軽に参加できる情報提供やシステムがあるとよい。
- ◎ボランティアの募集案内などの情報を各高校に提示するなど、どんなボランティア活動ができるかすぐに分かるようにしてほしい。
- ◎県内のボランティアを募集している Web サイトや掲示板も更新されず、何年も前の情報があることもある。
- ◎ボランティア情報を得るために、どのサイトを見ればいいのか分からない。
- 高校生でも参加できるボランティアが県内には少なく、東京にある団体や旅行会社のスタディツアーを自分で探し参加した。
- 住んでいる地域が工業団地なので、もう少し地域の産業について知りたい。
- 同年代の活動者が少なく、参加しづらい雰囲気がある。
- 小学生の頃は地域のことを学ぶ機会があり、ボランティア活動も行っていたが、年齢が上がるにつれて地域のことに関わる機会が減った。
- 地域住民と高校生のような若者との接点が増えればと思う。
- 異世代間のつながりが作れる機会があるといいのではと思う。
- 学校での地域を学ぶ活動が少ない。
- 自分が生まれ育った場所に貢献することは、当たり前なことだと感じている。
- 特定の人数のみが参加するのではなく、学校全体で取り組んでいけば、より多くの生徒が地域のことに興味をもつと思う。
- 役場などの町内の環境改善の意識があまり感じられない。
- もっと自分の住んでいるところのいいところを見つけたい。
- 自分自身に余裕ができれば、ボランティア活動に参加したい。
- 約 12 年間も、同年代としか関わりをもたない教育方針では、ボランティアを行いたいと考える人は減っていくのではないかな。
- ボランティア募集について、学校をとおしてのものであると安心して参加しやすい。
- まちづくり、まちおこしについて、中高生の意見をもっと取り入れてもいいと思う。